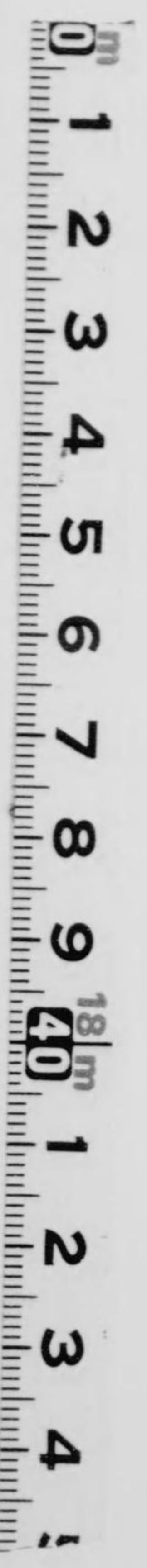


398
21



始



9.11.29

398-21

兵庫縣教育會編



教授
資料

最新地理

日本之部

東京
大坂
寶文館藏版



大正
10 7. 1
内交

序

今次の歐洲大戰は、我國の政治、經濟、産業、交通等の各方面に多大の影響を及ぼし、之を戦前に比すれば、實に宵壤の感なきを得ず、然るに是等の各事項に密接の關係を有する地理科に於ては、教授の資料に供すべき適切なる参考書を得る能はず、偶々坊間に傳ふる者の如きは、記事杜撰、統計亦陳腐にして取るに足らず。加之現用小學校教科書は編纂後年を経ること既に久しく、世の變遷に伴はざるもの尠からず。本會茲に見る所あり、嚮きに斯學を專攻し、多年の經驗を有する縣下有數の教育家を囑して委員とし、各方面最新の資料を蒐集し、研鑽討究、以て本書を編纂したり。庶幾くは教授の實務者をして、

其準據する所を知り、第二の國民をして世界の現状を知得せしめ、以て本科の目的を貫徹するの指針たらしめんことを得んか。

大正十年四月

私立兵庫縣教育會

例 言

- 一、本書は小學校教師用參考書として編纂せるものなれば題材の配列は小學校地理教科書に準據せり。
- 一、本書は他日出版すべき最新地理外國之部の姉妹篇として編纂せるものなれば外國部の出版を待ちて完成すべきものなり。
- 一、本書編纂上特に注意せしこと左の如し。
 - イ、教科書は附圖との提携なきを本書はなるべく附圖との提携に意を用ひたり。
 - ロ、教科書になき新領土の解説を加へたり。
 - ハ、統計は最新の各種統計書によれり。
- ニ、本書は簡單なる地形圖を挿入して讀者の便を圖れり。

目次

一、大日本帝國總論	一
位置面積	一
氣候	五
雨量及び風向	六
人口	一〇
人種	一二
二、關東地方	一四
區分	一四
地勢	一四
產業	二〇
交通	二九
都邑	三一
三、奥羽地方	四五
區分	四五
地勢	四五
氣候	四九
產業	五〇
交通	五六
都邑	五七
四、本州中部地方	六五
地勢	六五
氣候	七六
交通	七七
產業	八〇

目次

一

都 邑……………九二

五、近畿地方……………一〇七

區分、地勢……………一〇七

交 通……………一七

產 業……………二一

都 邑……………三〇

六、中國地方……………一五一

區分、地勢……………一五一

產 業……………一五七

交 通……………一六三

都 邑……………一六四

七、四國地方……………一七五

區分、地勢……………一七五

產 業……………一七九

交 通……………一八四

都 邑……………一八五

八、九州地方……………一九二

區分、地勢……………一九二

氣 候……………二〇一

產 業……………二〇一

交 通……………二一〇

都 邑……………二二二

琉球列島……………二二七

九、臺灣地方……………二三四

位置、面積……………二三四

地 勢……………二三四

氣候、雨量……………二三七

天 產……………二三九

產 業……………二四一

住 民……………二五五

政 治……………二五七

沿 革……………二六二

交 通……………二六四

都 邑……………二六五

一〇、北海地方……………二七三

地 勢……………二七四

氣 候……………二八一

產 業……………二八四

交 通……………二九一

住 民……………二九三

政 治……………二九五

沿 革……………二九五

都 邑……………二九七

千島列島……………三〇一

二、樺太地方……………三〇四

位置、面積……………三〇四

地 勢……………三〇四

氣 候……………三〇九

產 業……………三一

貿 易……………三二七

交 通……………三二九

住 民……………三三〇

政 治……………三三二

沿 革……………三三三

都 邑……………三三四

三、朝鮮地方……………三三七

位置面積……………三二七
 地勢……………三二九
 氣候……………三三五
 住民……………三三七
 政治兵備教育……………三四〇
 沿革……………三四五
 產業……………三四六
 貿易……………三五四
 交通……………三五六
 都邑……………三五九
三、關東州……………三六五
 位置面積地勢……………三六五
 氣候……………三六五
 產業……………三六六

貿易……………三七〇
 住民……………三七三
 政治……………三七四
 沿革……………三七五
 都邑……………三七六
四、委任統治區南洋……………三七九
 位置面積……………三七九
 氣候……………三八〇
 住民……………三八一
 產業……………三八三
 貿易……………三八四
 政治……………三八五
 島誌……………三八六
五、大日本帝國總說……………三九一

山脈……………三九一
 溫泉……………三九三
 河川……………三九三
 湖沼……………三九八
 平野……………四〇一
 海岸……………四〇三
 近海水深……………四〇四
 人口密度……………四〇五
 都邑……………四〇七
 天產……………四一〇
 農業……………四一〇
 養蠶業……………四一九
 林業……………四二〇
 牧畜……………四二三

水產業……………四二五
 鑛業……………四二八
 工業……………四三三
 貿易……………四三四
 交通……………四三九

教授資料 最新地理 (日本の部)

兵庫縣教育會編纂

大日本帝國總論

位置 我が大日本帝國は亞細亞大陸の東岸に沿ひ、三個の弓形を連ねたるが如き、日本列島と大陸の一部をなせる朝鮮半島とより成る。日本列島は略北東より南西に亘りて、大陸との間にオホーツク海、日本海及び東支那海を圍み、全長約一千二百餘里に及ぶ。その列島の形よりして花彩列島と稱し、又東亞の防波堤と稱する人あり、其の四極を示せば左の如し

東端、千島國占守郡占守島東端

東經一五六度三二分

西端、澎湖島水按澳花嶼西端

東經一一九度一八分

總論

北端、千島國占守郡阿頼度島北端 北緯 五〇度五六分
 南端、臺灣高雄州至厚里七星岩南端 北緯 二一度四五分
 即ち緯度に於ては二九度一分、經度に於ては三十七度二四分に跨り、列島屬島を合せて凡そ五百あり。

備考 朝鮮の屬島數は不明につき前述の數には加入せず。屬島とは周圍凡そ一里以上のものを載す

但し一里以下と雖も人民住居し、或は望標等の用をなすものは之を算入せり。

面積 我が國の總面積は四萬三千餘方里にして左表の如し、但し屬島の面積は之れを本島に算入せり。

本州	朝鮮	北海道	九州	樺太	百分比
一四、五七一、一二	一四、三二二、〇〇	五、〇五六、八七	二、六一七、五四	二、三三九、九二	三三三、二八
					三二一、六九
					一一、六一
					五、九八
					五、三五

臺灣	四國	佐渡	隱岐	淡路	壹岐	對馬	千島三十一島	琉球五十五島	小笠原二十一島	總計
一一、三三四、一一	一、一八〇、六七	五六、三三	二一、八九	三六、六九	八、六三	四四、七二	一、〇一一、四九	一五六、九一	四、五〇	四三、七七八、三九
五、三一	二、七〇	〇、一三	〇、〇五	〇、〇八	〇、〇二	〇、一〇	二、三一	〇、三六	〇、〇一	一〇〇、〇〇

備考 表中載す所の朝鮮・臺灣樺太を除く以外の數は、文政年間伊能忠敬著す所の實測録、及び大圖(三万六千分の一)を本として算出し、未測のものに他の諸圖により補へり。但し伊豆、相模、武藏、安房、上總の五ヶ國は内務省元地理局の實測に據れり、又朝鮮臺灣は各總督府の統計書に依る。

注意 尋常科五年教科書の面積の所、本文と下の比較圖に於て、九州と臺灣との順位の轉倒せるは、本文欄は屬島なき面積にして、比較圖は屬島の面積を加えたるものなればなり、即ち

本島	屬島を合せば
臺灣	二、三一八
九州	二、三二四
	二、六一七

尙樺太の面積は、大正九年發行三十八内閣統計年鑑には臺灣より大となれり、之れ教科書使用上注意すべき點なり。

帝國面積の膨脹 我が國の面積は國運の進展と共に加はり、明治初年に於ては僅かに二萬四千七百九十四方里なりしが、明治八年露國と折衝の上樺太と千島とを交換し、明治二十七八年戰役の結果、支那より臺灣及び澎湖島の讓渡を受くるに及びて二萬七千二十七方里餘となれり。更に三十七八年戰役の結果は樺太南半の領有となり、二萬九千四百六十七方里餘に増加し、明治四十三年には日韓併合となりて面積は四萬三千七百七十九方里に膨脹せり。而して大正三年日獨戰役に依りて更に百六十三方里の南洋諸島の統治を委任せらるゝに至れり。

氣候 我國の大部は北溫帶にあり、而も海國なれば氣候概ね良好なり。されど緯度殆んど三十度に跨れると、地形海流の影響及び大陸との關係等により、各地一様ならず、氣溫は南より北に進むに従つて減じ、等溫線は略東西に走れども、海流は之に影響し北緯三十六七度邊を境として之れより以北の地に於て、日本海岸は太平洋岸よりも概ね平均氣溫を高む。

我國の氣溫年平均(五ヶ年乃至十五ヶ年平均)の最も高きは、臺灣の恒春にして二四度四を示し、最も低きは樺太の敷香にして零下一度を示す、然れども最高溫度の極は臺灣地方にあらずして却つて朝鮮地方にあるを見る、即ち元山にありては嘗つて三十九度六を、大邱に於て三十九度を示せしことあり、これ大陸の影響による、又最低溫度の極は上川に於て零下四十一度、落合に於て零下三九度二に降りたることあり。

備考 上川平野は緯度に於ては北緯四十三度四七分にして、歐羅巴に於ける同緯度の地方は伊太利の中央に當り、その氣候溫暖なるを以て知らる、英國は北緯五十度以南には僅かにヘッドオブ、リザト在るのみ、其他全部は北緯五十度以北にありて露領樺太及びカムチャツカ半島と同緯度にあれども、氣溫は遙かに溫暖なり、之れ即ち歐

羅巴の西海岸はメキシコ灣流の影響を受け我が樺太、北海道地方は寒流の影響を受けるが爲めなり。

世界に於ける最寒地として知らるるは、西比利亞の、ベルホヤンスタ附邊にて、年平均零下五十四度を示し、嘗つては、零下六十九度に下りたることあり。

世界の最高温度はカリフォルニアの死谷に於ける五〇度、及びアシアのユルゴレアに於ける五〇度を以つて最高温度とす。

雨量及び風向

我が國は季節風帯に當り、夏は概して南風又は南東風多く、太平洋岸は爲めに雨量多し、冬は常に北風又は北西風吹き、従つて日本海岸に降雪多し。

されば太平洋岸は冬季に日本海岸は夏季に晴天多し、四月、十月は此季節風交代時期に屬し一定の風なく、四月頃には花曇を生じ、秋は霖雨久しきに亘ることあり。

雨量多き地方は臺灣の北東部、九州四國及び本州の南部の如き高温多湿の海風を受くる地方にして、今年平均二〇〇〇耗以上なる地方を擧ぐれば左の如し。

十ヶ年平均

敦賀	三、三二二	鹿兒島	二、二四〇
八丈島	三、一九〇	石垣島	二、一七九

名瀬	三、一一四	伏木	二、一七二
高知	二、七五四	加茂	二、一五三
宮崎	二、五六六	那覇	二、一四〇
金澤	二、五三四	恒春	二、一二七
潮岬	二、五二二	臺北	二、〇四二
福井	二、三二二	沼津	二、〇二二

北日本石川、福井、富山、新潟諸地方の降水量多きは、冬季西比利亞方面より來る風の對馬海流上の水蒸氣を齎らし、本州脊梁山脈に當りて其北方に多量の雪を降らすに由る。

本州の南部地方にのみある所謂梅雨は、六月中旬より七月初旬に亘りて、連日陰晴定らず霖雨久しきに至る現象なり、此の時期は舊曆の五月に當るを以て、古來五月雨とも云ふ。

梅雨 夏季に入るや、亞細亞大陸は次第に熱せられ六、七月の頃は日射甚強きが故に、支那揚子江流域の如き、大平原に水量多き大河のある所にては、低氣壓の發生

を容易ならしめ、其發生せる低氣壓は、次第に東方に向つて進み來り、東支那海に入るや濕潤なる空氣のために益々助長せられ、琉球列島を襲ひ漸次中國、四國、本州南岸地方に及ぶ。此頃は本邦東北海上に高氣壓部存在せるが故に、北東に向はんとする低氣壓部は、漸く東に傾きその進行も遅緩となり、加之當時夏至(六月廿二日頃)に太陽は北緯二十三度半の直上に來る前後にして日射強く、本州各地に數多の小低氣壓部を生じ此等低氣壓は相次いで來り止む時なく、連日霖雨を齎らす、然れども太陽の南に去り日射漸く減じ、北東海上の高氣壓部も漸次南下し來るに及び遂に梅雨去るに至る。

雨量の少なき地方は左の如し(一〇〇〇耗以下)

眞岡	七一〇	根室	九三二
敷香	七二四	大邱	九四七
大泊	七四八	木浦	九五五
網走	七八三	帶廣	九五六
落合	八四四	紗那	九六七

之れに依れば雨量の少なきは朝鮮樺太北海道地方にして其他は何れも一〇〇〇耗以上の降雨量を有す。

備考 世界の最多雨地はヒマラヤ山麓のチャラフンヤに於て一二〇〇〇耗を數へ其他印度には八〇〇〇耗に達する地方あり、最少雨地は埃及のカイロの三二耗、スエズの二一耗を示し、其他沙漠地方は少し。

旋風 我國に於ける梅雨の現象と旋風の來襲は、氣候上に於ける二大特徴なり。本邦に襲來する旋風に二種あり、一はフィリピン群島附近より支那の南部臺灣等を襲ひ更に北東に進みて琉球九州本州等を過ぎ北海道方面に向つて去る。一は小笠原諸島の南方に發生し北向して本州を襲ふ。時ありてか二者同時に本邦に襲來することありて甚しき被害を及ぼすことあり、此風を又颱風ともいふ、颱風は冬季來襲することなしとせざるも、多くは夏季に起るものにして、立春より數へて二百十日或は二百二十日頃に襲來すること多ければ、此頃農家は頗る之を警戒し、その害を恐る。

本邦に來襲する颱風は、その起源をフィリピン群島の東海上のマリアナ群島附近

に發するものにして、此頃太陽は赤道に近く、上記の地附近は其日射頗る強くして、群島附近の氣温は四周海面上の氣温よりも高く、且つ此地方は空氣の影響を受け、て渦巻となる。かくて其中心は次第に西北に進み北緯二十度乃至三十度附近に於て北東に偏向して、遂に本邦附近に來襲するに至る。

日本の戸口 我が國の人口は、大正七年末に於て總計七千六百六十八萬餘にして、戸數一千三百六十五萬餘(但し臺灣樺太を缺く)なり。今地方別にすれば左の如し

内地	朝鮮	臺灣	樺太	滿州	歐洲
五五、六六二、九〇〇 _人	一六、九六八、九九七	三、六四六、五二九	七三、九九九	一二二、三六七	九九九
國勢調査人口	一七、二八四、二〇七	三、六五四、三九八	一〇五、七六五		
戸數	三、一〇七、二一九				

以上の外現時海外在住の邦人朝鮮人の支那滿州に在る者を除くは次の如し

支那本部	二七、八七七	亞弗利加	二二
露領亞細亞	四、四八九	大洋洲	一三四、〇六一
其他亞細亞	三七、二五四	北米合衆國	一一九、三〇七
加那陀	一五、〇九八	ブラジル	二一、七六三
メキシコ	一、二〇九	其他南北兩米	九、三九八

而して人口の増加頗る急激にして朝鮮臺灣を除くも、尙一年七十萬人に近く、最近五ヶ年の増加率は千人につき一二、〇六なり。

備考 主なる外國の人口増加率は千人につきて獨逸は、一五二英國は、一〇、四佛國は、一、六なり。

我國人口増加の歴史(内地人)

推古天皇十八年	四、九八八、八四二	同二十五年	四一、〇八九、九四〇
聖武天皇八年	八、〇〇〇、〇〇〇	同三十五年	四六、〇四一、七六八
寶曆六年	二六、〇六〇、〇〇〇	大正元年	五二、五二二、七五三
文政十一年	二七、二六〇、〇〇〇	大正六年	五六、三三五、九七一
明治五年	三三、一一〇、七九六	大正七年	五六、六六七、七一
同十五年	三六、七〇〇、〇七九		

我國の人種

- 一、大和民族
- 二、朝鮮民族
- 三、漢民族
- 四、アイヌ
- 五、臺灣蕃人
- 六、ギリヤーク
- 七、オロツコ
- 八、小笠原白人

アイヌは古來本州地方にも住し蝦夷と稱せられしが今は北海道地方に去りて日高に最も多く住す北海道のアイヌは合計一萬八千餘にして、樺太に一千七百人餘住せるを以て總計二萬内外なるも漸次減少する傾向あり。

臺灣土人は古來支那の廣東福建地方より移住せし漢人種にして、其數三百餘萬あり。

臺灣蠻族は海岸島嶼種族にして開化の程度より之れを二とす、一は東方山地に住し支那民族に化せられず、概して蒙昧野蠻なる種族にして、全島一帯の地に散在せしが漸次驅逐せられ、今や蕃界嶺以東の深山幽谷に群居するを以て、其事情を詳知する事難く、我領臺以來稍之れを索知する事を得たれども未だ明確ならざる

ものあり。要するに全島の中央に位する捕里社を中心として南北の二大部に分れ、北を有鯨蕃人南を無鯨蕃人として其の發達の状態を異にせるもの、如く、其數約十一萬餘と稱せらる、之れを生蕃と稱す。一は支那種族に早くより同化せられ平原地に在りて農耕に従事し、開化の度も前者に比すれば遙かに進み、支那種族と其間に何等判別し得ず、之れを熟蕃と稱す。

ギリヤークは樺太に住する種族にして其數百餘人あり、未だ文明の域に達せず。(樺太之部参照)

オロツコは前者と同様樺太に住し其數三三七人にして之れ亦た文明進歩せず、多くは幌内川流域に住す。

關東地方

區分 關東地方の面積、戶口、管轄區域左の如し。

府縣	面積(方里)	人口(大正七年)	國調人口	戶數(大正八年)	管轄	府縣廳所在地
東京府	一三八、二三	三、四七七、六〇〇	三、六九九、二八三	八八八、二二二	武藏一部伊豆七島 小笠原	東京市
神奈川縣	一五五、三九	一、二六八、一〇〇	一、三三三、三七二	二二六、九九九	武藏の一部、相模	橫濱市
埼玉縣	二四八、六二	一、三六一、〇〇〇	一、三三九、五九六	二三八、〇七五	武藏の一部	浦和町
千葉縣	三三九、二九	一、三七五、七〇〇	一、三三六、一〇八	二二二、八〇〇	下總大部、上總、安房	千葉市
群馬縣	四〇九、四六	一、〇五七、三〇〇	一、〇五二、五九四	一七二、六九五	上野	前橋市
栃木縣	四二八、二〇	一、〇六七、一〇〇	一、〇四六、四五六	一六四、六六六	下野	宇都宮市
茨城縣	三九五、五二	一、三七五、〇〇〇	一、三五二、三三四	二三八、二四二	常陸、下總の一部	水戸市

關東地方は面積合計二、〇八九方里、人口一〇、九四三、九〇〇にして、人口一方里につき五一七八人に當り、其の密度の大なること日本一なり。

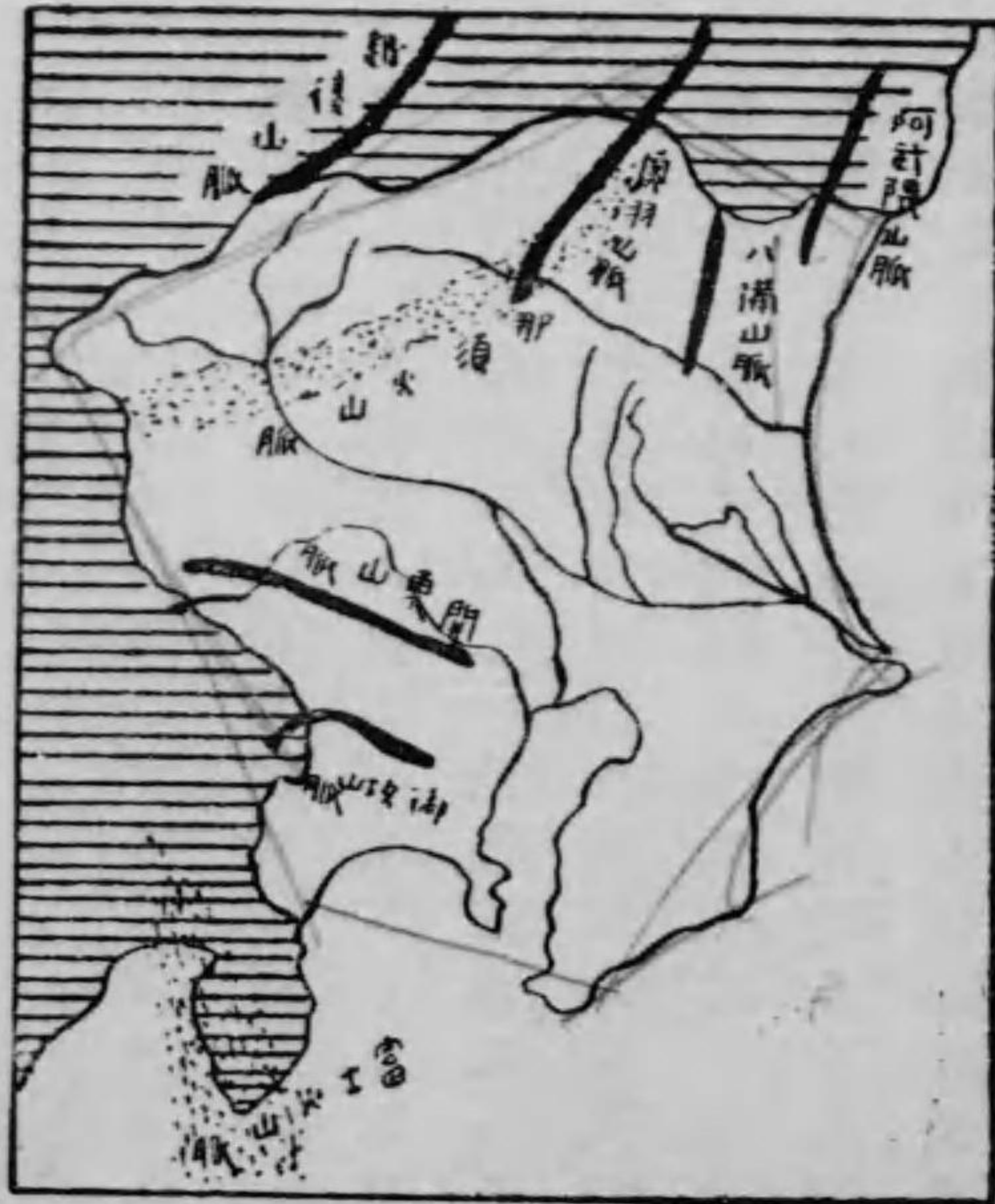
地勢 關東地方は、關八州或は坂東八州と稱せらるゝ地域にして、本州の南東部

山脈

を占め、其の西北部は一帶の山地ありて北には越後山脈、三國山脈、那須火山脈、那須岳、男體山、赤城山、榛名山、妙義山、西には關東山脈(甲武信嶽、富士火山脈、箱根山)等連亘すれども、之れより南東海岸に至る地方は土地低平肥沃にして、我國最大の關東平野を開けり。唯阿武隈山脈の北東の海岸に延び來り、其の端の八溝山脈(筑波山)となれると、房總、三浦の兩半島に丘陵性山岳の起伏せるものあるのみ。

那須、富士の兩火山脈中には温泉の湧出するもの多く、栃木縣の那須、鹽原、湯元、群馬縣の草津、伊香保、神奈川縣の箱根等は、其の著名なるものとす。

那須火山 火山の群集せるものにして之れを分ちて三本槍火山、南月火山、茶臼火山の三とす、茶臼山は中央に峙ち那須火山の主峰をなせり。その頂上には今尙硫氣の噴煙を絶たず、海



關東地方

抜一九一・二米あり。

男體山 日光火山彙の中央に聳ゆる主峰にして、海拔二四八三米あり、日光山、黒髮山或は二荒山等の異名あり。

赤城山 上野國のは、中央にあり、二重火山にして、山頂は數峰に分る。その外輪山大黒檜最も高く一八九三米あり、その裾野は遠く緩かに關東平野に及び美しく、頂上には火口原湖大沼と爆裂火口湖小沼の二湖あり。

榛名山 赤城と東西に相對する二重火山にして、頂上には清麗なる火口原湖榛名湖を湛ふ。東西十一町、南北十七町、周圍三十五町餘、湖畔に聳ゆる中央火口丘榛名富士は、その形狀の美を以つて聞え、海拔一四五七米あり。

妙義山 白雲、金洞、金鳥の三峰に分れ、その山峰の奇觀と石門とを以つて世に知らる、之れこの山は板狀或は棒狀節理の集塊岩よりなりたるを以つて、風雨の爲めに軟弱の部分は徐々に浸蝕せられて、此の奇景を呈せるなり。以上の赤城、榛名と共に上野の三山と稱せらる。

箱根山 二重式死火山にして、古來東海道の天險としてその名夙に知らる。初め

大噴火
の内部に
神山、駒ヶ岳、上双子、下双子の中央火口丘を噴出せり。

大噴火をなし、一大火山を起し、其の頂上陥落して廣大なる噴火口を作り、更にその内部に神山、駒ヶ岳、上双子、下双子の中央火口丘を噴出せり。神山の北部には大湧谷の噴氣孔あり、今尙盛んに硫煙を吐く、舊火口の徑南北三里、東西一里半、火山中肥後の阿蘇山に次ぎて大なるものなり。外輪山と中央火口丘との間の火口原は仙石原、宮城野の如き草原をなし、中央火口丘の西側には水を湛へて火口原湖蘆湖をつくれり。その南岸に古の關趾を存す。箱根七湯は宮の下(鹽類泉)湯木(炭酸塔)の澤(鹽類)堂ヶ島(炭酸)底倉(鹽類)木賀(炭酸)蘆の湯(硫黃)等の温泉なりし、近時其の他の温泉を加へて箱根十二湯と稱す。

伊香保温泉 榛名山の東麓、海拔二千八百尺の地にあり、前橋より電車にて澁川に至り、それより二里の行程にあり、鹽類泉にして四季浴客絶えず、人家は概ね壘を重ねたる如く風景絶佳なり。

草津温泉 信越線輕井澤驛より、草津鐵道により、嬬戀に行き、それより三里にして達す。地は海拔四千五尺の高所にあり、古より有馬温泉と共に有名にして酸性泉の湧出量の多きこと九州の別府温泉と並稱せらる。

遠く皇極帝の御代の發見にかかると云ふ。土地僻陬なれども四方より來る者多し。

鹽原温泉 那須火山の麓には温泉の湧出多く、特に有名なるは鹽原温泉にして數多の温泉あり、今は東北本線の西那須野驛より新鹽原まで輕便鐵道通じ交通便利となりたれば、來り浴するもの多し、村には温泉の湧出する所多く飛瀑多く風景佳なり。

關東平野 此の平野は主として陸地の隆昇と、河流の堆積作用とによりてなれる低き沖積地と、波狀の丘陵地とよりなれる沃野にして土地一般に開け、黒潮の影響によりて氣候の調節を得ること少なからず、加之雨量潤澤利根川を始め、大小幾多の河流は水量多く、運輸交通に便を與ふること頗る大なり。方三十里の土地を灌漑し地味肥沃に天産に富み、人口稠密にして一萬以上の人口を有する都邑六十六あり、尙鐵道網の密なること全國稀有なり。

備考 各地方の人口密度を比較すれば左の如し

地方 一方里人口 地方 一方里人口

關東地方 五、一七八人

近畿地方 五、〇〇九人

九州地方 三、〇一三人

奥羽地方 一、三七三人

北海道 三三六八

全國平均 二、二四五人

河川

河川の主なるものは何れも北西の山地に發源し、此の平野を灌漑して海に入る。主なる河川左の如し

河名	舟筏里程延長	幹川延長里程	灌漑面積
利根川	二一七里	八二里	一、〇二二方里
那珂川	三〇里	三二里	一二二方里
荒川	一三二里	四五里	二〇三方里
多摩川	一二里	三二里	六九方里
相模川	三九里	三六里	一〇五方里
久慈川	一九里	三〇里	九七方里

利根川に付きては尋常讀本卷九坂東太郎を見よ。

湖沼には霞が浦、北浦、印幡沼、手賀沼等あり。霞が浦、北浦は利根川と相須つて運輸交通に便を與へること頗る大にして霞が浦には魚類の産多し。

湖沼

霞が浦 土地陥落のため生せし湖水にして、東西七里半、南北七里、周圍三十六里、面積十五方里、我國第二の大湖にして水運の便至大に漁利多し。

北浦 東西一里、南北六里、周圍八里十八町、土地の陥落によりて生せしものなり。

印幡沼 幅廣き所にて一里半、周圍十八里三町、河跡湖にして、漁利に富む。

手賀沼 周圍八里餘にして、印幡沼と共に同じく河跡湖にして、漁利、水禽多し。

備考 上野國にある菅沼、海拔一七五三米の高所にあり、本邦最高の湖水なり

農 業

産業 所謂關八州の地にして、平野廣大、土地肥沃、灌漑の便よく、農業の發達著し

く米、麥、大豆の産多く、埼玉、千葉、茨城の三縣最も著る。葉煙草の栽培は那珂川、久慈川の流域殊に盛んにして、神奈川縣の大山附近之れに次ぎ、太田(茨城縣)、秦野(神奈川縣)は名高き葉煙草の集散地なり。栃木縣の鹿沼附近よりは大麻を産す。主なる農産物産額左の如し。

(大正七年)	米(石)	麥(石)	大豆(石)	葉煙草(貫)	馬鈴薯(貫)
茨城縣	一、八二五、四五三	一、二八四、五四一	二〇六、〇五七	一、四八六、一八三	一、九四一、一〇三
栃木縣	一、四〇三、四四四	八三二、三四六	六四、八三四	一、七九四、〇〇八	二、六五八、〇〇八

米の産額は千葉縣に最も多く、茨城縣は麥の産額全國に冠たり、埼玉縣も亦麥産多し
麥の産額左の如し。大正七年(石)

全 國	二二、五七七、二七七
茨 城 縣	一、二八四、五四一
埼 玉 縣	一、二七一、〇四〇
兵 庫 縣	九三二、五九五
千 葉 縣	八八九、二一一
群 馬 縣	九三八、九三〇

岡山縣 (參照)

八八五、〇五〇

葉煙草の我が國の年産額は、一〇、九五九、六九三貫にして、關東地方にては其の四割を産す。最も多産なる地方を比較すれば左の如し。

栃木縣	一、七九九、四〇八貫
茨城縣	一、四八六、一八三貫
鹿兒島縣	一、五九〇、三七八貫
德島縣	(參照) 九五三、二一四貫

東京、横濱の近郊には野菜の栽培盛んなり。

此の地方は全國屈指の蠶業地にして群馬、埼玉、栃木の三縣殊に著れ、千葉縣には養豚の業行はる。

産繭高及び價額左の如し。

地方	産繭高(石)	價額(圓)
茨城縣	二二九、二八〇	一六、三七九、一二九
栃木縣	五九、五四五	四、三四四、九四六

工業

群馬縣 四七三、一八四 三四、六九二、七九三
 埼玉縣 四一五、五七七 二九、四四三、〇五八
 千葉縣 一四五、〇一七 一〇、六七八、七八八
 東京府 一六六、三〇七 一二、〇六四、二九八
 神奈川縣 一四〇、五四〇 一〇、五三九、〇三九

全國産額は六百八十三萬餘石にして、その價額五億二千七百九十八萬圓に上れり。
 (大正六年)

諸種の工業盛大にして、地勢上自ら其の中心地二部に分る。即ち近來の進歩せる化學工業は京濱地方を中心とし、纖維工業は養蠶地方に盛んなり。製絲織物の業は東京府及び群馬、栃木、埼玉の三縣に盛大にして、綿糸は東京府に、絹織物及び製絲の業は埼玉縣の秩父、川越、栃木縣の足利、群馬縣の桐生、伊勢崎、東京府の八王子等に行はれ、麻布は鹿沼に綿布は佐野に産す。主なる地方の絹糸産額及び絹織物産額を示せば左の如し。

埼玉縣	二三、一九一、三三二圓(蠶糸)
-----	-----------------

群馬縣 三四、八六三、九四五圓

絹織は

群馬縣 二〇、五六八、六五〇圓

東京府 一一、六三〇、二一七圓

埼玉縣 九、〇一七、一七六圓

絹織物の産額は全國に於て、福井縣首位を占め、石川縣、京都府之れに次ぎ群馬縣第四位にあり。絹綿交織は

群馬縣 六、八二六、九四七圓

栃木縣 七、六四五、七三九圓

埼玉縣 一、八七一、三二七圓

麻織物は栃木縣下に多く年數四十八萬五千圓に達す。千葉縣は醸造業盛んにして醬油、銚子、佐原、野田酒類、佐原の清酒、流山の味淋を多く産するを以つて有名なり。醬油の産額

全國 二、六三〇、四九八石

千葉縣 四五三、八六九石

化學工業は東京府、神奈川縣に盛んにして、石鹼、玻璃、麥粉、西洋紙、燐寸、麥稈、貝田等を産出し、毛織物は東京府に行はる。

石鹼の産額(大正六年)

東京府 七、七七五、六七六圓 全國一位

神奈川縣 一、九二四、七〇七圓 全國四位

全國 一九、四七六、五二〇圓

玻璃の産額(同)

東京府 四、三六三、七三七圓 全國三位

神奈川縣 二、五五五、〇六三圓 全國五位

全國 二七、三六二、二二五圓

製粉の産額

東京府 八、六三二、八二八圓 全國三位

神奈川縣 三、四一一、八七七圓

全 國 六五、九〇一、四九九圓

備考 洋紙の製造は東京府下王子に、船舶は東京の石川島淺野造船所、横濱ドック、浦賀造船所に於て、毛織物は東京千住に、砂糖は横濱、東京に於て製造せらる

關東地方は鑛物の埋藏少なからず、栃木縣の足尾、茨城縣の日立は多く銅を産し、筑波山の北麓よりは花崗岩を、茨城縣の太田附近よりは大理石を、又其の北東常盤炭田よりは石炭を産す。日立鑛山の産するは銅鑛なれども、金銀を盛んに製鍊す。最近の産額を比較すれば、大正七年

日 立 四四六、六四二匁 一二、六七〇、八五八匁 二一、七四九、四九五匁
足 尾 五五、七九一匁 九、〇四一、三〇八匁 二六、一七七、三三五匁
日立鑛山、茨城縣日立鑛山は久原鑛業株式會社の經營に係り、最新式の機械を用ひ、日本の製鍊業に一新機軸を出すに至れり。産する所の鑛石は主として銅鑛なれども、金銀の鑛石を購入して之れを製鍊す。産出額は銀に於ては日本第一位を占め、銅は第二位を占む、製鍊所の規模の壯大なること日本一にして、煙

金 産 額 銀 産 額 銅 産 額

毒を除くためには海拔千三百六十尺の山上に五百十一呎の大煙突を作れり。足尾鑛山 栃木縣の西北部に位する本邦首位の銅山にして、慶長十五年の發見なりと云ふ。爾來幕府の經營に屬し、その製銅は幕府之れを收めたりしが、明治十年古河氏の有に歸してより採掘の法を改め、明治十八年以後著しくその産額を増加し以つて今日に至る。使役する人員三萬餘人なりと云ふ。精鍊所の大なるものあり、精銅所は日光清瀧にあり銅板、銅線、真鍮板等を製出す。

備考 大正七年末の調査による全國主要鑛山の産出額を左に示さん

金 産 額

佐 賀 關 六三九、七四三匁 日 立 四四六、六四二匁

三井串木野 三三一、八六二匁 小 坂 一五八、五一五匁

佐 渡 九六、一一九匁

銀の産左の如し(大正七年)

日 立 一二、六七〇、八五八匁 小 坂 六、二四九、一四六匁

足 尾 九、〇四一、三〇八匁 佐 賀 關 八、八四二、五六二匁

神 岡 二、一八九、二八四匁

關東地方

銅産額左の如し

足尾	二六、一七七、三二五匁	日立	二一、七四九、四九五匁
小坂	一八、七四九、九五四匁	佐賀關	一七、一五四、四八一匁
別子	一六、八七七、一七五匁	生野	四、四三三、七四九匁

全國大正七年度産總額は五億千五百萬圓なり。

水産業

水産業は、千葉縣に最も盛んにして九十九里ヶ濱は有名なる鱈の漁場なり。鯉、鯖の産も多く、生魚を東京に輸送すること夥し水産總額は北海道、長崎縣に次ぐ、東京府には魚類の養殖行はれ、府下大森附近には海苔を産すること多し、所謂淺草海苔これなり。大正六年の水産額左の如し。

千葉縣	六、一〇一、八二二圓
神奈川縣	三、一五七、八二四圓
東京府	二、七六二、五一一圓
千葉縣に於て最も多産なるは	
眞鱈	一、二〇五、二五六圓
背黒鱈	三、一八二、二七一圓

鯉 三〇八、二六〇圓

鯖 三〇四、一六九圓

海苔の産額左の如し。

東京府 一、七三一、七八五圓

備考 九十九里ヶ濱は飯岡より大東崎まで十四里の間を云ひ、九十九里と云ふは六町一里なる支那里にて云へるものにして、海岸一面平滑なる遠淺の砂濱にして漁利頗る多し。

交通 交通は海陸共に頻繁にして、鐵道は東京を中心として四方に通じ、鐵道網の發達せること本邦に冠たり。主要なるものを擧ぐれば、左の如し。

東海道本線	東京—神戸	三七六哩
中央線	萬世橋—名古屋	二五三哩
東北本線	上野—青森	四五七哩
常磐線	日暮里—岩沼	二一三哩
總武本線	兩國橋—銚子	七二哩

房總線	千葉勝浦	四三哩
兩毛線	小山高崎	五七哩
東武線	淺草伊勢崎	七〇哩
高崎線	大宮高崎	四六哩
水戸線	小山友部	三一哩
日光線	宇都宮日光	二五哩
成田鐵道	我孫子佐原	三七哩
秩父鐵道	熊谷影森	二九哩
青梅線	立川二俣尾	一四哩
川越鐵道	國分寺川越	一八哩

中央線には小佛峠ありて之れに通ずる隧道は長さ八千三百五十呎にて院線に於ける本邦第三の隧道なり。信越線の碓氷峠の險を越ゆる所は、アプト式軌道を用ひ電氣機關車を以つて運轉す。其の他東京附近には電車の發達著しく、主要なる國道は此等の鐵道に沿ひて全國に通ず。河川、湖沼の交通も便にして、霞ヶ浦、北浦

利根川等には小蒸氣船を通じ、其の他の河流又舟筏の便あるもの少なからず。海路の交通は横濱を中心とし、諸外國に定期航路あり、東京は近海航路殊に東京灣内の航路頻繁なり。外國航路に付きては都邑の部横濱港に述ぶ。

都邑 東京市は品川灣に臨み隅田川に跨り、横濱港を咽喉として關東地方の要地を占む。昔は江戸と稱せられて徳川氏三百年間の幕府の所在地たりしが明治元年東京と改稱せられ、二年奠都となり爾來其發達著しく今や人口二百十七萬餘に達す、首府として常に政治、學術、軍事、交通の要衝たるのみならず、市の内外は諸種の工場を以て充たされ紡績、織物、製紙、諸機械の製造盛んに、又商業殷盛にして大阪と共に我國東西の商工業二大中心地たり。面積五方里ありて實に世界大都會の一に屈指せらる。行政土之れを十五區に分たれ麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷等の各區は西及び北部の臺地に位し學校、兵營、貴紳の邸宅は多く此處に在りて通常此方面を山の手と稱す。又芝、京橋、日本橋、神田、淺草等の各區を下町と稱し、商業の地にして江東の本所、深川の二區は工場の密集地なり。市の中央には宮城あり、其内外に内閣を初めとして各省、國會議事堂、外國大公使館、

參謀本部、海軍々令部、近衛師團、第一師團司令部、東京府廳、大審院、控訴院、帝室博物館、東京帝國大學及公私立大學、男女高等師範學校、第一高等學校各種專門學校等あり。

備考 世界の大都市(一九一九年)

倫敦(大)	七四一萬人	彼得俱羅士	二三一萬人
紐約(大)	七三〇萬人	東京	二一七萬人
巴里	二八八萬人	維納	二一五萬人
市俄古	二四九萬人	柏林	二〇七萬人

本市の内外には名所舊蹟多く、遊覽的都府として亦京都と共に我國の二大中心にして、四時節を曳くべき處尠からず、龜井戸の梅、向島、上野、九段、飛鳥山、江戸川の櫻、品川の潮干狩、龜井戸の藤、蒲田の菖蒲、不忍池の蓮花等名高く、公園としては日比谷、上野、芝、淺草等あり、増上寺、泉岳寺等は史上に有名なり。西郊に明治神宮あり、莊嚴比なし。

八王子市

八王子市 中央線に沿ひ東京を距る十二里人口三萬八千にして機業頗る盛なり。織物は絹物を主として絲織、絹織、袴地等多く産し、横濱線によりて輸出せらるるもの又多し。

備考 教科書には東京横濱地方は商業盛んなりとなりあり、横濱は對外商業即ち外國貿易盛大にして東京市の商業は内國商業殊に小賣商業盛なり就中銀座通は模範的小賣商店多し大阪市の卸賣商業地なると對比すべし

神奈川縣

横濱 神奈川縣廳の所在地にして、税關、正金銀行、各國領事館等あり、壯大なる防波堤、棧橋、繫船岸、船渠等築港の設備よく、整ひ大船自由に入港し得べし、帝國第一の開港場にして生絲、羽二重を輸出し、米、鐵、砂糖、機械類、羊毛等を輸入す、今此港の外國貿易狀況を見るに

大正八年度

大正七年度

輸 出	一、〇〇四、四一九、五一六圓	八一六、九八九、九九四圓
輸 入	六八二、六〇八、七〇二圓	五一八、六七九、一二八圓
合 計	一、六八七、〇二八、二一八圓	一、三三五、六六九、一二三圓
之れを神戸港に比較すれば		
輸 出	四五七、八八〇、一一三圓	

横濱市
四二、二

輸 入 一、〇二八、七五六、九二二圓
 合 計 一、四八六、六三七、〇三五圓

以上の統計に由るも横濱は輸出貿易盛にして神戸は輸入貿易盛なる事一目瞭然たり、尙横濱港大正八年中の主なる輸出入品を擧ぐれば次の如し。

輸 出		輸 入	
生 絲	六一四、四九九、〇五四圓	米	七六、三九二、〇九六圓
羽 二 重	九五、五五一、九三八圓	砂 糖	一六、八七一、二一九圓
縮 緬	二四、五七三、四〇〇圓	鐵 板	三〇、一四一、三二七圓
其他の 綿 織 物	二七、五四八、六〇七圓	鐵 板	三九、六〇六、三二六圓
屑 糸	一一、七五六、四二九圓	機 械	四一、一六三、三四七圓
豆 類	一八、七〇七、五二九圓	綠 綿	一〇一、六八七、四五六圓
	九、九八二、三六〇圓	羊 毛	三一、〇〇三、九七四圓
		油	三三、三〇九、〇七六圓

横須賀市 八、九

横須賀市 海軍鎮守府の所在地にして、工廠には艦艇の建造盛んに、又海軍機關

鎌倉 一、四

學校水雷學校あり、附近の追濱には海軍飛行練習所、東南二里浦賀町は造船業盛んに、その南西久里濱は嘉永六年ベルリの始めて上陸せし處として史上に名高く、今記念碑を建つ。附近には鎌倉、逗子、江の島、藤澤、大磯、國府津、小田原等の勝地ありて、到る所風光の絶佳と史蹟とに富めり。

鎌倉 治承年間源頼朝、幕府を初めて此處に開きしより、北條・足利兩氏相ついで凡そ二百年間、天下の政令此地より出づ。されば一木一草と雖も皆史蹟ならざるはなし、今や其大部分は田園と變じて古の繁榮を徒に偲ぶのみ。地形東、西、北の三面は小丘を繞らし、極樂寺、大佛、化粧坂、龜ヶ谷、小袋坂、朝比奈名越の七切通に由りて片瀬藤澤、大船、横須賀、金澤、逗子等に通ず。南の海岸は由比ヶ濱にして風光の稱すべきものあり、此地に鶴岡八幡宮、大塔宮を祀れる鎌倉宮、荏柄神社あり、其他建長、圓覺、淨智、淨妙、壽福の所謂鎌倉五山の梵刹、其他長谷の觀音、稻村ヶ崎、頼朝の墓、頼朝屋敷、北條屋敷等あり。

金澤

鎌倉の東方金澤は古來八景の名ありしも、近來其風光稍や殺がれし感あり、此處は金澤文庫のありし地、又其前方夏島は故伊藤公の大日本帝國憲法起草地として共

浦和町

埼玉縣

浦和町

所澤

秩父

浦和 埼玉縣廳の所在地にして高等學校設立せられんとす。大宮は交通の要衝に當り東北本線、高崎線の分岐點、鐵道工場あり、又氷川神社あり。所澤には陸軍氣球隊、航空學校あり、熊谷は蠶業の中心地にして、秩父地方は絹織物の産地として知らる。

備考 所澤は陸軍航空隊所在地なりしが、近時該隊は全部岐阜縣各務原に移轉したり。

川越町

秩父地方

川越町 殆ど縣の中央に在り本縣第一の都邑にして、川越鐵道の起點なり。東京市を去る八里、武藏平野の要地にして工業及農業の中心地なり、川越絹を多く産し附近より甘藷、茶を出す。松平氏八萬石の舊城地にして太田持資の築きし處なり。秩父地方は西方一帶關東山脈の諸山重疊する地方にして、内に秩父盆地あり、養蠶製絲の業盛なり。其中心は秩父に在り、此處より秩父絹、秩父銘仙など有名な織物を産出す。

群馬縣

前橋市

高崎市

伊勢崎

桐生町

宇都宮市

足利市

前橋市 利根川左岸に位し、南は關東平野、北は越後に通ずる要所を占め、元松平氏の舊城地なり、今縣廳の所地にして生絲、繭の取引盛んに行はる。
高崎市 縣の南部烏川の左岸にあり、鐵道高崎線、兩毛線、上野鐵道及伊香保地方に通ずる電車との連絡點にして、交通の中心たるのみならず亦た商業も盛にして生絲繭等の集散地なり。伊勢崎は前橋の東方にあり、絲織銘仙織等此地の特産にして、其價額年々五百萬圓以上に及ぶ。桐生及びその東方新田郡太田附近は、新田徳川の諸氏に關する史蹟多し。富岡は上野鐵道に沿ひ製絲工業の盛大を以て名あり。

栃木縣

宇都宮市 關東平野の北端にあり、古來奥羽通路の要地にして、戸田氏の舊城地なり。今は縣廳の所在地にして日光線の分岐點なり。市外に第十四師團司令部あり、附近よりは瓢石材を産し市の中央に二荒神社あり、又蒲生君平の墓あり。
足利市 全國に於ける有數の機業地にして絹綿交織を多く産す。特に時代の

關東地方

要求に應ずる製品を出すを以つて有名なり。其の種類は海氣、紋琥珀、風通、御召節糸、壁御召、其の他男女帶地等とす。町の北方に足利學校趾あり。

足尾町 銅山のために開けし都會にして銅産額全國に冠たり。(産業の部を見よ) 鹿沼は宇都宮市の西北に在りて麻を産す。栃木は、舊栃木縣廳のありし地にして、機業盛んなり。宇都宮より起りたる日光線の終點に日光町あり。名高き東照宮あり、其の西に男體山、中禪寺湖、華嚴瀧等の風光の秀絶なる地方多し。

備考 東照宮 元和二年家康靜岡に薨するや、其の東南なる久能山に葬り、翌元和三年天海僧正遺命によりて、此地輪王寺の域内に改葬し東照大権現と稱す。三代將軍家光寛永元年より更に工を起して十三年に至りて成る、即ち現今の別格官幣社東照宮の廟宇これなり。此の工によりて舊廟は更にその規模を大にして精緻妙技を盡したり。

中禪寺湖 東照宮の西方三里餘にあり、東西三里南北一里餘周圍六里にして風景絶佳なり。その成因は男體山噴出のため熔岩、大谷川の溪谷を閉塞してこの湖水をなせるものなり。華嚴の瀧は、即ち中禪寺湖の水がこの熔岩の上を流れ落つる處に生ぜしものなり直下七十間ありと云ふ。

中禪寺湖の養魚 中禪寺湖には、かつて明治六年岩魚の養殖を始めとして鯉、鰻等を

放養せしことあり、就中鯉の養殖は大いに成功し殊に外人に賞味せらるゝと云ふ。現今にてはこの漁業に従事するもの湖畔に數十戸あり、主として宇都宮方面に鮮魚を供給す。

茨城縣

水戸市 三、九市
茨城縣
水戸市 縣廳の所在地にして、那珂川に沿ひ千波沼に臨む。全市を上市、下市の二つに分つ、上市は臺地をなし下市方面は卑濕なり。この地は元三親藩の一を置かれし處、その城址は市の中央にあり、弘道館、常盤公園、彰考館等今尙存す。弘道館は藩の子弟に文武を授けし處なり。有名なる常盤公園は天保十年烈公(齊昭)が遊息所として三ヶ年に近き日子を費して之れを開きし處にして、民と樂を偕にするの意を以つて偕樂園と稱せられしもの、公園の東に別格官幣社常盤神社あり、徳川光圀、同齊昭の兩公を祭る。本社に近く舊彰考館書庫あり、大日本史編纂のなりし處なり。那珂川の河口の湊は、漁業地として著れ、北浦湖東の官幣大社鹿島神社は武槌命を祀り、香取神宮と共に我國の古社なり。結城は紬の産地を以つて名高し。土浦は霞浦に臨み湖港にして醤油の産地として知られ、石岡は酒、醤油の醸造地な

千葉縣

千葉市 縣廳、醫學專門學校あり、佐倉は印幡沼の南方にあり、木炭の集散地にして北一里に木内宗吾を祀れる宮あり。銚子は利根川水運の起點にして鯉節、縮布の産に名高く、附近は浪荒く岩礁多きが故に救難所ありて救命砲を備ふ。東南犬吠崎には一等燈臺及び無線電信局の設けあり。

成田は不動堂を以つて名高く、佐原は酒の産地として知られ、又本邦測量家の泰斗なる伊能忠敬を出せし地なり。東方には香取神宮あり、官幣大社にして經津主命を祀る。佐倉より國府臺に至る間は陸軍の演習地となれる所多く、野田は醬油、流山は味淋の産にて名高く、房總半島の西岸は漁業地にして避暑地を兼ねし所少なからず。館山、北條、木更津は就中有名なり。東京灣に臨める船橋には海軍の無線電信局あり。

備考 船橋局 船橋無線電信局は海軍の經營にして、大正五年十一月一般通信を開始せり。ハワイ經由第一回目の通信はワイルソン大統領の祝電なりしと云ふ。

千葉市 銚子 佐倉 佐成 流野 船木北館 更 橋津 山田 原田 犬吠崎

龜甲萬印醬油は野田の産にして今は銚子産なり

伊豆七島 富士火山脈の海中に噴起する火山島にして、伊豆の東南海中、大島より南方四十餘里の間、大太平洋中に散在す

大島 伊豆下田港を去る東南十三里にあり、面積四方里、周圍十里、廿六町中央に三原活火山あり、四時噴煙絶へず、人口七千三百餘、海岸は岩石峙ち岩礁沿岸に散在して船舶の碇泊し得可きは波浮港あるのみ。波浮港は舊火口にして良港なり、但し港内狭きを遺憾とす。男子は勞働せず、家事耕作一切女子の務めなり、元村には鳥廳を置きて之れを管轄す、牧養盛んにして又椿油を産す。

利島 大島の南方二里にあり、周圍二里半、人口三百餘、島中港なく不便なり、又水源なく雨水を貯へて使用すと云ふ。

新島 北より第三位の島にして、下田港の南方十三里、人口四千餘人、周圍七里あり。

神津島 下田港の南方十八里、新島より五里の南にあり、周圍五里、人口二千餘人、全島峰巒重疊す。

一、大島
二、新島
三、神津島
四、三宅島
五、新島
六、神津島
七、大島

三宅島 下田港より東南二十六里周圍六里二十七町人口五千人。

御藏島 下田港より三十里に在り、周圍四里七町平地なく沿岸一帶斷崖絶壁なり人口三百餘人。

八丈島 七島中の最南に位し、御藏島の東南二十里に在り東京を去る百二十里東西三里二町南北二里十二町周圍十里餘、火山島にして西北に活火山八丈富士あり。東南に三原山あり。海岸は岩壁にして良港に乏し、人口八千九百餘黃八丈を産す。牧畜行はれ牛三千餘頭あり。近時製糖業盛んならむとす。島民の風俗言語は内地と異なるものあり、其の女子は頭髮頗る長く容姿端正なり。

小笠原諸島 八丈島の南百二十里餘にあり。此の群島は大小十餘の島よりなりて三部に分る、北を聳島列島、中部を父島列島、南を母島列島と稱す。諸島皆火山島にして海岸は概ね珊瑚礁より成る。文祿二年小笠原貞頼の發見せるものにして徳川氏之れを貞頼に與へたれども當時移住するものなかりき。其の後八十五年にして延寶三年將軍家綱、長崎の人島谷某をして此の島を探檢せしめしことあり。天明三年林子平三國通覽を著し、海防上此の群島の必要を説き世論喚起に力

めしと云ふ。天保元年イタリヤ人、マテオマサルなるもの英、米、丁國の五人とハツイ人男女十七人を率いて父島に來る、之れ島民の始めなり。

その後英、米、露の船舶往來し各其の所屬なるを唱へたり。されども開墾に手を着けしものにあらず。嘉永六年米國水師提督ペルリ來航し、この地に殖民政府を置きしも其の政令行はれざりしと云ふ。文久二年幕府吏を遣はし、島民を慰撫し、八丈島より男女四十人を移住せしむ。明治八年政府は更に人を派して、この地を巡檢せしめ翌九年島廳を設置し明治十二年に至りて東京府の所轄となす。北緯二十六度三十分より二十七度四十五分、東經百四十二度より百四十二度二十分に至る。群島の總數九十七個面積五方里人口五千五百餘人、内白人歸化人百名あり。群島中最大なるは父島にして、群島の殆んど中央にあり、東西一里廿四町、南北五町周圍五里に近し、されど丘陵多く平地に乏し。島内の二見港は本島唯一の港一里三十にして、太平洋海底電線の中繼所たり。大村に島廳を置く小笠原島の交通は、東京府の命令航路として小笠原線あり、汽船毎月一回横濱を出航す、東京二見港間は五〇〇哩なり。主なる島名及び現住人口左の如し。

小笠原諸島 五五五五

父島	二二六二	聳島	一〇
母島	二二三一	嫁島	一
弟島	五九	媒島	一五
妹島	三	硫黃島	八五五
姪島	八	北硫黃島	一八五
南島	二八		

小笠原の氣候は亞熱帯に屬するを以つて、其の産物も自ら熱帯性の動植物に富み、甘蔗、椰子、鳳梨、檳榔、林投樹、甘藷等を産す。就中甘蔗は島中の主要産物にして、全島至る所に生じ之れより砂糖を製す、信天翁、海龜、大蝙蝠亦多し。

奥羽地方

山脈

區分	面積	人口	國勢調査人口	戸數	管轄	縣廳所在地
青森縣	六四、四三 ^{方里}	七四、四〇〇	七五、四二三	二八、七六八	陸奥大部	青森市
岩手縣	九八、七八〇	八五、四〇〇	八四、五二〇	二九、二五〇	陸前陸奥各一部	盛岡市
秋田縣	七六、〇一七	九七、三〇〇	五九、八三三	一四〇、七六四	陸中一部 羽後大部	秋田市
山形縣	六〇、三三八	九七、四〇〇	九六、八八九	一四、二二七	羽後一部 羽前	山形市
宮城縣	四三、四四五	九七、三〇〇	九六、七五五	一五、六五八	磐城一部 陸前大部	仙臺市
福島縣	八八、九七	一、三三六、三〇〇	一、三六二、六八九	一九、七七八	磐城大部 岩代	福島市

備考 面積は參謀本部の測量にして人口は大正八年末、戸數は七年末の統計なり。

地勢 奥羽地方には南北にわたりて三列の並行せる山脈あり、奥羽山脈は略その中央にありて南北に縦走し脊梁をなす。那須火山脈、磐梯山、吾妻山、岩手山、八甲山、恐山等、その上に噴起して太平洋、日本海間の分水嶺をなす。西部に出羽丘陵及び越後山脈あり、鳥海火山脈(鳥海山、月山、岩木山)又之れに重なれり。東部には奥羽



すもろも響ろ高原又は窪地と稱する方適當ならん。

磐梯山 明治二十一年七月十五日大破裂をなし、山頂の小磐梯と稱する一峰を破壊し、北麓を流る、長瀬川の磐谷を埋め、檜原湖、小野川湖、秋元湖等の湖沼をつくれり。此破裂によりて原状を失ひし面積五方里、人家の破壊せられしもの百戸、死者四百六十一人、傷けるもの七十餘人、牛馬の斃れたるもの五十七頭に及びたり。標高一、五八四米あり、今尙噴煙止まず。

岩手山 盛岡市の西北約六里に峙つ、海拔二、〇七〇米にして、東方より望めば其

形富士に似たるより南部富士又は岩手富士の名あり。されど其他の方面より望めば富士の形なきを以て南部の片富士とも稱す。頂上には二個の火山圓錐あり、各噴火口と中央火口丘とを有す、一方東岩手火山噴火口の直徑は六町、西岩手火山の噴火口は東西三十七町南北半里に亘る。山上に大日貴命を祀れる岩手山神社ありて南部家領内總鎮守神たりき。

岩木山 鳥海火山脈に屬する熄火山にして、弘前の西北三里にあり。美麗なる圓錐形をなし、その外形富士に似たるを以て又津輕富士の稱あり。頂上は三峰に分かれ、北を巖木山、南を鳥海山、中央を岩木山といふ。巖木山は外輪山にして、岩木山は即ち火口丘なり。その海拔一、五八八米ありて、此の山の最高點なり、南麓に國幣小社岩木神社あり。

鳥海山 山形秋田の縣境に峙つ火山にして、その山形富士に似たるを以て出羽富士の名あり。海拔二、一三三米、鳥海山脈中の最高峰たり、絶頂に國幣中社大物忌神社あり。

月山 羽前國のほぼ中央に位せる火山にして、海拔一、八七八米あり、頂上には官

河内平野

幣大社月山神社あり。湯殿山其西に峙ち、羽黒山其北に聳ゆ、併せて羽前の三山と稱す。何れも山頂に神社あり、夏期白衣の行者參詣するもの多し。

大平洋斜面には北上、阿武隈、馬淵等の河流あり、皆中央の分水嶺と北上、阿武隈高原との間に縦谷を作る。北上、阿武隈兩河の下流は奥羽地方第一の平野を作り、農産多し。日本海斜面には岩木、米代、雄物、最上、阿賀等の河川あり、上流は概ね縦谷を作れども中流以下は出羽、越後山脈を横切りて横谷を作る。之等の上流には會津、米澤、山形、新庄、横手等の盆地あり。此等の盆地中には古湖底たりしものあり。諸川の流域は土地よく開け交通の要路に當り、都邑多く集まれり。

河川名	舟筏里程	全長	灌域	河川名	舟筏里程	全長	灌域
北上川	一五三、二二三 ^町	六二 ^里	六九五 ^{方里}	阿武隈川	一四九、〇一 ^町	五〇 ^里	三五五 ^{方里}
米代川	五八、一二	三五	二六六	最上川	一一七、〇四	五五	四八〇
阿賀川	一四九、〇一	四三	五四一	雄物川	八五、〇〇	三八	二七一

湖沼 には猪苗代湖、十和田湖、小河原沼、十三湯、八郎湯、田澤湖等あり。猪苗代湖は本邦第三の大湖にして南北三里十八町東西四里二十町深さ一〇六米、周圍十六

湖沼

海岸

ある堰塞湖なり。十和田湖は青森縣と秋田縣北東境に位し、田澤湖と共に地質學者の所謂マール湖にして深さ三六三米あり。我國第三の深湖なり。周圍十六里に及び風景の佳なるを以て聞ゆ。

海岸 太平洋岸は出入に富み就中陸中の海岸は最も出入多く鋸齒狀を呈し所謂リヤス式海岸なり。されど山脈直ちに海にせまり、土地急峻にして交通不便なれば良港に乏し。牡鹿半島は遠く洋中に突出して仙臺灣を抱き、その中に更に松島灣を圍む。松島は海水の侵蝕によりてなれるものにして、無數の小島羅列して

風光の明媚なること世人のよく知る所なり。

日本海岸には男鹿半島突出し八郎湯をかこめるの外、屈曲少なく良港と名く可きものなし。男鹿半島はその海岸に奇岩怪礁散在して風光絶佳なり。北は津輕海峡によりて限られ下北、津輕の兩半島は陸奥灣を懷き、其沿岸に貿易港たる青森と海軍要港たる大湊とあり。

氣候 奥羽地方は地形上南部、北部、東部、西部各稍氣候を異にせり。東部即ち太平洋沿岸は寒流(千島海流)の影響を受けて、日本海岸に比し氣温稍や低き感あり。

農業

中央山地は寒暑の差強く、西部日本海岸は對馬海流の影響を受け東部海岸よりは溫和なるも、冬季西風吹き降雪尠なからず。概して關東地方に較ぶれば氣温低く冬季永く寒氣も強ければ陽春に向ふや梅櫻桃李同時に妍を競ふの美觀を呈す。

産業 山地原野多く人口の密度も亦た小なるが故に、地域の大なるに比して農産物少なし。米は山形、秋田、宮城の三縣に多く産し、馬鈴薯は青森、宮城、福島、岩手の四縣に栽培せらる。此外大豆、稗は岩手縣に、薄荷は山形、天童附近に産し、苹果は津輕、平野、米代川流域、盛岡附近に多し。

縣名	米	麥	大豆	馬鈴薯	苹果
青森縣	1,006,154 ^石	497,010 ^石	28,194 ^石	23,149,630 ^貫	6,441,334 ^貫
岩手縣	1,013,174	626,773	20,498	5,992,431	2,859,111
秋田縣	1,626,217	1,346,818	8,710	4,698,668	7,477,271
山形縣	1,903,433	411,101	8,400	2,988,234	2,366,530
宮城縣	1,544,749	564,673	16,281	9,653,407	1,194,011
福島縣	1,521,578	223,075	28,537	8,277,710	400,378

備考 馬鈴薯の多きは青森縣にして其産額北海道に次ぎ、而して苹果の産額は本邦第一位にあり、大正六年に於ける全國の苹果産額は一〇、〇八六、六〇一貫にして青森縣は實にその六割四分を占む。因に北海道の馬鈴薯は二三九、二〇四、六三八石、苹果は一、六三〇、七八〇貫なり。

蠶業は阿武隈、最上兩河谷に盛んにして機業又行はる、繭産額を擧ぐれば次の如し

福島縣	三五九、〇六四石	二六、七二二、八七三圓
山形縣	二〇〇、五八一石	一五、六五二、五六八圓
宮城縣	一四八、〇三八石	一一、四七五、一六四圓

養蠶盛んなれば製絲織物の業も亦盛大にして、其有名なるは福島縣川俣の羽二重、仙臺市の仙臺平、八橋織、盛岡市の南部縮緬、秋田市の畝織、八丈絹、米澤市の米澤織、名高し、漆器は福島縣の會津塗、青森縣の津輕塗、秋田縣の春慶塗その名高く、陶磁器類は福島縣若松の會津燒、同縣中村地方の相馬燒等有名なり。

地勢上原野多きと、舊藩時に産馬を奨励したるにより、牧馬業盛大にして、南部馬、三春駒の名古來より名あり。白河(軍馬補充支部あり)六原(同上)三本木(同上)七戸(種馬牧場あり)等殊

蠶業

工業

牧畜

に著る。今大正七年末に於ける馬の頭数を比較すれば左の如し。

青森縣	五四、二八〇	岩手縣	七八、九六五
秋田縣	五八、四九四	山形縣	三〇、二六八
宮城縣	五四、六五七	福島縣	八二、九五七

備考 大正七年末全國馬の頭数は一、五六〇、二四二にして、奥羽地方合計は三十五萬頭に及び全國に於て最も多き地方は、北海道の一九四、五六六頭、鹿児島縣の一〇九、〇五五頭なり、熊本縣九一、二五五頭にして福島縣之れに次ぐ。

秋田縣の西北部より津輕半島には、大森林あり所謂本邦三大美林の一にして杉、檜の材を多く出す。森林面積の最も大なるは福島縣の八十八萬町歩、岩手縣の七十九萬町歩にして、最近の伐採高は(大正六年)左の如し。

福島縣	五、四二六、七〇九圓	岩手縣	四、三〇二、八七九圓
秋田縣	四、六一六、二二三圓	青森縣	二、〇一〇、〇六五圓
山形縣	二、二四七、一七〇圓		

秋田、岩手、福島の三縣に盛んにして、銅は小坂、尾去澤、阿仁、銀は小坂、八盛、鐵は釜石、仙

林業

礦業

人より産し、その産額我が國第一に位す。其の他秋田縣の石油、福島縣の石炭等亦産額多し。

	金産額	銀産額	銅産額	石油
青森縣	四三、六六〇 <small>匁</small>	三、二七七、七〇四 <small>匁</small>	六、一一八、五八三 <small>匁</small>	
岩手縣	六九、七八七	五三三、六四二	三、六九〇、五八〇	
秋田縣	二〇五、七一〇	九、二九六、八二〇	三一、七三四、〇七三	八七四、四八四 <small>匁</small>
山形縣	二、二二五	四七、七四八	一、一二五、二五九	
宮城縣	一五、八五九	七八六、四一五	一四一、八三七	
福島縣	二〇、三六八	一、〇〇四、二二二	二、四六一、六八二 (大正七年)	

秋田縣は産額に於て茨城、栃木縣に次ぐ主要礦山産額を比較すれば

	金	銀	銅
小坂	一五八、五一五匁	六、二四九、一四六匁	一八、七四九、九五四匁
安部城	二四、四二三匁	一、六〇〇、二五三匁	三、六二三、四七四匁

銅のみの産額の多きは、尾去澤四、一七三、四四八匁、八盛二、三一五、六八〇匁、大藏(山形)

八四七、八三〇 勿なり。

磐城炭田よりは石炭を出す。磐城炭田は、磐城の南東部、平附近より常陸高萩附近に亘りて炭坑頗る多く常磐炭田の名あり。炭質は褐炭に属すれども、産額多く左の如し(大正七年)主として東京に送る。

福島縣 二、〇四〇、四七一噸

備考 福岡縣 一五、一〇六、四〇二噸 北海道 三、七二四、六四〇噸

石油は秋田縣に多く、新潟縣に次ぐ就中黒川油田最も多く産す。

黒川 四九六、八九八石 豊川 一八八、一七七石

黒川油田は大正六年よりは減じたれども尙日本一の産額なり。鐵の産額は陸中の釜石に多く産し我が國第二の産地なり。大正七年の産額は左の如し。

大正七年 大正六年

釜石鐵 五八、六〇七噸 五三、六五一噸

釜石鋼 一六、八一六噸 一八、〇三〇噸

水産業は宮城縣最も盛んにして仙臺灣及び金華山沖には鮪、鯉の漁獲多し。金華

水産業

山沖は寒暖二流の交る所にして、魚族多く殊に捕鯨業は近年益々漁獲高を増加しつゝありと云ふ。青森、岩手の諸縣亦水産業盛んなり。大正六年度の漁獲高を見るに最も多きは宮城縣にして左の如し。

宮城縣 三、八九九、七七六圓

青森縣 三、四九五、六三六圓

工業は一般に振はざれども、福島縣最も盛んにして、福島二本松等には生絲を産し川俣には羽二重を産すること多し、米澤には米澤織を産し鶴岡には絹織物を産す。蠶絲の産額を示せば

福島縣 一六、八三四、八六八圓

山形縣 一〇、三七三、〇一〇圓

宮城縣 四、八三九、一一一圓

織物の産額は山形縣第一にして

山形縣 一一、一〇二、二九二圓

福島縣 八、八一九、五三七圓

工業

若松喜多方及弘前には漆器を出し中村若松には陶磁器を産す。

備考 相馬焼 中村及び大畑に産する陶器にして鼠色の釉薬を施し走馬を描けり、
膚粗く器大なり、製品の種類は茶器を主とす、近來水金を以つて彩りたる花瓶の類を
盛んに製出するも品位俗悪なり。

會津焼 岩代國大沼及び北會津の兩郡に産する染付磁器にして瀬戸焼に類し丸物
の製造を特色とす。

製材

林産物多きため製材の業は盛んにして、能代に大なる木材株式會社ありて盛んに
製材す。米代川流域の國有林の百年以上の木材を用ひ、製材は内地、朝鮮、滿州に送
る主として杉材を用ひ時としては檜、松材を用ふ。

交通 本地方は分水山脈中央を縦走し、道路、鐵道の主なるものは、早くより南北
に通じ、南北の交通は稍便なりしも東西の交通は不便たりき、然れども近時磐越線、
陸羽線等開通し次第に便利たるに至れり。主なる鐵道線路は左の如し。

東北本線	上野—青森間	四五六哩
奥羽線	福島—青森間	三〇二哩
陸羽線	石巻—酒田間	

磐越線 平——新潟間

河川の交通は、北上川最も開け盛岡市より下流は小舟を通じ、陸中孤禪寺より川口
石巻に至る間小汽船の便を有す。阿武隈川も亦福島市以下舟楫の便あり、川口附
近より約七里半の貞山堀を以つて松島灣に通じ、更に長さ五里餘の野蒜運河ノビロによ
りて北上川の下流と相通す。米代川は木材の運搬盛んにして、阿賀川、最上川、雄物
川の諸川又多少の舟便あり。

海上の交通は産業、都邑、港灣、陸上交通等の消長によく支配せらるゝものにして本
地方の如き船舶の交通他地方に劣る又故なきに非らざるべし。されば海上の交
通は沿海航路の小汽船に止まれり。只青森函館間は本州と北海道との連絡點た
るを以つてその海上交通は最も頻繁なり。

都邑 福島縣

福島市 縣廳の所在地にして繭、生絲の取引盛なり、その東南川俣は羽二重の産
を以つて名高し。

若松市 會津盆地の中心にして、四面山を繞らせる自然の要害地なり。始め蘆

福島市 三、五市
若松市 三、七市

相馬
中

平 白 河
富原 岡野

谷氏此處に築き蒲生上杉加藤の諸氏此に據れり。後保科正之二十三万石の地を賜ひしが、戊辰の際藩主松平容保幕府に與し王師の攻むる所となり大兵を孤城に承け惡戰數旬遂に明治元年九月二十二日城陥り屋宇多く兵燹に罹る。市の東端瀧澤村の南に飯盛山あり、戊辰の役白虎隊の十七勇士が春尙早き身を以つて、君難に殉じ封建時代最後の光彩を放ちたる所にして、其の墳墓今尙存し春風秋雨芳名城下に馨る。市に會津塗、會津燒、會津蠟燭等を産す。平附近よりは石炭を出し、中村には相馬燒の産あり、共に福島縣東海岸の名邑なり。縣の南境に近く白河あり馬市を以つて著れ又戊辰の古戰場たり、附近に古の白河の關址在り。東海岸の原の町(送信富岡受信)には無線電信局あり大圓柱の高六百六十四尺世界一と稱せらる。

備考 會津盆地は日橋川、大川の灌漑にして四圍山岳を繞らし、往古は四圍の山峰より落ち來れる水、此に瀦溜して湖水をなせしこと猪苗代湖の如くなりしなり。而して阿賀川一方を破りて流れ今日の會津盆地をなせり。會津米の産地にして若松市其の中央にあり、福島縣の重要なる生産地なり。猪苗代湖は湖水を利用して規模壯大なる發電所を設け附近の工業地へ動力を供給

仙臺市
一一、八

鹽 竈

宮 城 縣

するのみならず、遠く東京市に電力を送る之れ長距離送電の最長なるものなり。

仙臺市 廣瀬川に臨み青葉山を負ひ伊達氏六十二万石の舊城地にして、舊城は市の西青葉山、中腹を開きて經營せしものにして、青葉城と云ふ。伊達政宗の築きし所なり今第二師團司令部を置く。市には、東北帝國大學、第二高等學校、控訴院等あり。産物には仙臺平、八橋織、埋木細工の名産あり。

鹽竈 線は岩切より分れて、東鹽竈に向ふ。途中に多賀城趾あり、その多賀城碑は史上有名なり。鹽竈は松島灣に臨める小市街にして太平洋岸に於ける良港の一なり、有名なる鹽竈神社は武甕槌命、經津主命を祀る國幣中社なり。

日本三景の一たる松島は、松島灣内にあり數百の群島波上に浮び、怪岩奇石望観るに違わらず。遠く白帆點々するあり宛ら一個の盆栽の如し。瑞巖寺、五大堂など探勝の地も亦少なからざれども、西北富山より見るを最も優れりとす。この諸島は附近の沿岸一帯の地方と共に凝灰岩より成り、殆んど同高を有せしものが海波の浸蝕作用によりて斷絶分離し斯く奇形を呈し穿たれて石門を作れるあり。水

面に接する所深く凹入するありて實に風景絶佳なり。

石巻港は伊達政宗の領内に良港なきを憂ひて、この地に北上川の水を通せしめて作れる港にして三年にして成る。これより仙臺唯一の門口となれり、されど今日北上川の吐出する土砂のため次第に港淺くなり、大船の入港に適せずと雖も米の取引き盛んなり。

萩の濱は牡鹿半島の西海岸にある良港にして沿海航路の寄航地たり。

岩手縣

盛岡市 北上川に沿ひ古南部と稱す。南部氏二十万石の舊城地たり、高等農林學校、縣廳の所在地にして産物中最も有名なるは南部鐵瓶にして、縮緬等古來有名なり。現今は木綿織を産す。又馬市盛んなり附近に厨川柵址あり安倍氏最後の決戰場たり。

縣の南境に近く一の關あり古の磐井の地にして、貨物、行客の集散盛んなり。西二里磐井川の溪流に嚴美の谿あり風景の美を以つて知らる。平泉は一の關の北四里にあり、藤原氏三代豪華を極めし地にして今尙中尊寺、毛越寺、判官館址の古跡を

石巻町
萩の濱
盛岡市
厨川柵址
一の關
平泉

衣川柵址

大船渡
釜石

水澤

青森市

存す。中尊寺は平泉の西北十八町にあり仁明天皇の御宇、慈惠大師の開基にかゝり、歴朝信仰淺からず、堀川天皇二年勅令により清衡大いに財を抛ち當寺を經營しその善美をつくせること東北第一と稱す、當時堂塔四十餘僧坊三百を算す、然るに惜しむべし、建武四年堂宇悉く烏有に歸し唯僅かに金色堂及び經堂の二個を残したるのみ、その金色堂は方三間の一小宇なれども外面には鹿布を張り、黒漆を以つて塗り金箔を貼り内部の柱梁悉く蝸螂珠玉を鏤む。更に平泉の北方には衣川柵址あり。往時安倍頼時が築きたる所にして、其の近傍に貞任が據りたる衣川及び、鳥海等の柵址あり。海岸には大船渡、釜石、宮古等の自然の良港灣あれども、背後山地多きを以つて其の發達著しからず。釜石は鐵の産額日本一にして製鍊所あり平泉の北方にある水澤には臨時緯度觀測所あり木村博士の乙項發見を以つて其の名世界に知らる。

青森縣

青森市 青森縣廳の所在地にして、同名の灣に臨み海陸交通の要地にして東京より一九〇里約十九時間にて達するを得、北海道に渡る要津にして函館との間に

弘前市
三、五

三本木原

大七戸
港町

聯絡船あり、四時間にて達す、林檎、海産物を産す。

岩木川上流の弘前は津輕平野にありて、もと津輕氏十萬石の舊城地たり、養蠶業盛んにして苹果を出す。津輕塗はこの地の名産なり、其の他木通細工等の産あり亦津輕米の集散盛んなり。此地に第八師團司令部を置く。東部の三本木原附近には牧馬盛んにして七戸町、三本木町には軍馬育成所あり。下北半島の大湊は海軍要港なり。

備考 明治維新前北海道に行くには、津輕半島の三厩より松前に渡航せしものなり。青森灣に臨める淺蟲温泉は温泉の温度を利用して海水を蒸發せしめて鹽を製すと云ふ。

秋田縣

秋田市
三、六

秋田市 縣治の中心地にして、縣廳秋田鑛山専門學校あり、此地は佐竹氏二十萬石の舊城地にして、その舊城址を開きたる千秋公園は設備の完全なること奥羽地方第一の稱あり、金銀細工、漆漬、畝織、八丈織等を産す。

土崎港

雄物川口の土崎港には鐵道、製油の工場あり、秋田市の外港なれども、冬季北西より

黒船川
港

風波烈しく船舶の碇繫に適せざるが故に船川港を副港とす。黒川には油田あり

金澤橋
址

大正七年の産額は、四九六、八九八石にして日本一の産額なり。横手の北に金澤の柵址あり。後三年の役、清原武衡、家衡この柵によりて叛す、陸奥の守兼、鎮守府將軍源義家之れを討ち、弟義光亦官を捨て、來り援け遂に武衡、家衡を亡ぼせる古戰場たり。米代川口に能代港あり、大なる製材所ありて、能代杉の集散の盛んなるも、春慶塗の名産とを以て世に知らる。

備考 春慶塗は楡の生地、春慶漆(透明の漆に小許の荏油と雌黄とを加へたるもの)を塗り絹布にて拭ひ乾燥したるものなり。此の工程を二十回以上施したるを上等品とす、下等品は若漆を塗りたるものなり。春慶塗は足利時代堺(泉州)の漆工春慶の創めたる所にして、後高山に傳り更に能代に傳はれり、何れも、内地向日用家具の類なり。

小坂

小坂鑛山は銅の産額は足尾、日立に次ぎ、日本第三位に位す、其の他金銀をも産す、産額は産業の部に在り。其の他鑛山多し。

山形縣

山形市
四、八

山形市 山形盆地の中央に位し、舊名最上と稱す、縣廳の所在地にして、物貨の集

散盛んに附近よりは薄荷、梅、櫻實の名産あり又銅鐵器、黒柿細工の名産あり。此地は代々最上氏の居城なりしが後水野氏五万石の城地なり、今は歩兵聯隊の衛戍地となれり。

米澤市
四澤三
鶴岡
酒田
天童

米澤市 米澤盆地に在り上杉氏の舊城地にして鷹山公遺業の地なり。その城址は市の中央にあり始め松崎城と稱し後舞鶴城と呼び今は公園となれり。上杉鷹山は上杉家中興の英主にして、深く學を好み興讓館を起し藩士を教育し、又武技を修練し意を民治に注ぎ産業を奨励せり、ために藩民富饒となれり。此地方工業の中心地にして米澤織の産地として知らる、高等工業學校あり。庄内平野は良質の米を産し、鶴岡は此地方の中心をなし羽二重を産す。最上川の河口にある酒田は庄内平野の米の輸出港なり、唯最上川の土砂のため水浅きと西北風を防ぎ難きを憾とす。山形市の北方にある天童は薄荷の名産地として知られ、その北方に尾去澤の鑛山あり。

中部地方

區分 本州中部地方の面積、人口、戸數、管轄區域は左表の如し。

面積(方里)	人口	國勢調査人口	戸數	管轄區域	縣廳所在地
新潟縣 八四、五九	一、八六五、六〇〇	一、七七一、四五五	三五、五五二	越後、佐度	新潟市
富山縣 二六、四二	七三三、四〇〇	七四、二五八	一三八、〇四八	越中	富山市
石川縣 二七〇、七二	七六八、一〇〇	七四七、三五五	一五五、七五五	加賀、能登	金澤市
福井縣 二七二、四〇	六四〇、〇〇〇	五九九、一五〇	一一六、七六九	越前、若狹	福井市
長野縣 八三、七六	一、五四二、一〇〇	一、五六二、七二五	二七〇、五六五	信濃	長野市
岐阜縣 六七一、四三	一、〇九四、九〇〇	一、〇七〇、三六六	二〇五、二四二	美濃、飛驒	岐阜市
山梨縣 二八九、八五	六二一、六〇〇	五八三、四五五	一〇〇、二九	甲斐	甲府市
静岡縣 五〇三、八二	一、五七一、六〇〇	一、五五〇、一六七	二六一、二九一	伊豆、駿河	静岡市
愛知縣 三三二、七六	二、〇七六、八〇〇	二、〇八九、七三〇	四〇八、二五四	三河、尾張	名古屋市

地勢 此の地方は、本州中幅最も廣く地形亦複雑を極む。中央部には飛驒、木曾



赤石の諸山脈略南北に併走し、脈中諸所に一萬尺以上の高峰聳立せり、中にも飛驒山脈の鎗ヶ岳、乗鞍ヶ岳、白馬岳、御岳、硫黄ヶ岳、木曾山脈の駒ヶ岳、赤石山脈の赤石、白峰、駒ヶ嶽最も有名なり。東部には越後山脈、關東山脈及び那須火山脈連亘す。此等の山脈の間には富士火山脈通じて、富士山を始めとして天城、八ヶ嶽、立科、焼山等の諸峰高く聳ゆ。又飛驒山脈中には、乗鞍火山脈噴出して地形最も錯雑且つ高峻なり、飛驒山脈の西には飛驒高地横はれり。

抑々此の地方は南日本を造れる樺太山系が相會せし所にして、其處に富士地溝帯を生じ、この地溝帯上に富士火山脈を噴出せしめたるなり。即ち上記の飛驒、赤石、木曾山脈は崑崙山系にして、越後、關東等の山脈は樺太山系に屬せるものなり。

飛驒山脈(日本アルプス) 飛驒、越中の東境、信濃國との間を南北に縦走せる我が國に於ける最も高峻、雄大なる山脈なり。乗鞍火山脈更に其の上に重なり益々其の高峻を極む、南方には御岳、乗鞍ヶ岳、硫黄ヶ岳、槍ヶ岳あり、北部には立山、大連華山等三千米内外の峻岳相連ること四十餘里、日本海に没して有名なる親不知の嶮崖を作る。脈中には盛夏の候尙雪の消えざる處あり。又その一部には氷河の遺跡を存せりと云ふ。日本アルプスの名は三十餘年前チャンパーレーン氏によりて與へられたるものなり。此の名廣く行はるゝに至り登山するもの多し。

御岳 飛驒山脈最南の高峰にして、信飛の國境に聳ゆ、海拔三〇六三米の消火山なり。山形稍圓錐形をなし、今や僅かに硫氣の上るを見る、頂上に御岳神社あり、夏季白衣の行者登山するもの多し。

乗鞍岳 御岳の北にあり、海拔三〇二六米の消火山にして、高山盆地より望むときは馬鞍に似たるを以つてこの名あり。

槍ヶ岳 信飛の國境にあり、海拔三一七八米にして、日本アルプス中最高峰たり、山

頂には、尖岩天を衝いて立ち其の状恰も槍に似たるを以つてこの名を得たり。硫黄岳及び槍岳に登るには松本より梓川の谿谷を遡るを良とす、梓川上流島々附近には氷河の遺跡なりと稱すべき岩石始めて獨人ヘットナー氏によりて發見せられこれをヘットナー石と稱せらる。但しヘットナー石に就いては異論を唱へる學者あれば今尙斷定するに至らず。

木曾山脈 知多半島より東北に走り信濃に入る、木曾天龍の二川の間を北上して鹽尻附近に至りて盡く、概ね花崗岩より成れば、その霽爛によりて濃尾地方に陶土を供給す。脈中の南に海拔二二四〇米の惠那山あり、北に駒岳あり、海拔三〇九一米あり、脈中深林に富む。

赤石山脈 飛驒山脈を北日本アルプスと云ふに對してこの山脈を南日本アルプスと云ふ人あり、渥美半島より入り來り秋葉山に至り駿遠、甲、信の國境に沿ひ北走し諏訪湖畔に至りて盡く、峻山險岳に富み人跡未踏の地も尙存せり。脈中の高峰赤石山は標高三〇九三米、白峰山は三一五〇米あり。

富士火山脈 富士山を主峰として甲、信の境上なる八ヶ岳、信濃の立科、黒姫、戸隠

越後の妙高山、燒山等に連り南に走りては愛鷹、箱根火山となり更に伊豆の天城山をつくり大島の三原山に及び、尙南して豆南の諸島より小笠原諸島に及ぶ。富士山 甲斐、駿河の國境に聳ゆ、海拔三七七八米、盤周四十里に及び單式休火山なり。其の形狀の美は世人のよく知る處にして近國十三州より仰望すべし。山頂には周圍一里餘、直徑六百米、深さ一六七米の一大噴火口あり、俗に内院又は御鉢と稱す、其の周圍に入峰あり富士八朶と云ふ、就中劍ヶ峰最も高く山頂の平地より四百尺高しその麓に淺間神社あり。火口の周圍に金明水、銀明水の二清泉湧出す。頂上氣壓最高四九五耗にして水の沸騰點攝氏七十八度七月の氣温最高一四度最低零下三度半なりと云ふ。中腹に寶永山の爆烈火口あり、寶永年間に噴火せし處、稍表富士の形を殺げり、麓には數多の寄生火山及び湖水あり、就中山中湖、河口湖等最も有名なり。湖畔風景絶佳にして富士八湖巡りとして其の美を賞するもの多し。近時登山者頗る多く七月中旬より八月上旬までを最も好しとす。登山路に五あり御殿場口、須走口、大宮口、須山口、吉田口これなり各里程麓より五里餘にして、須走口は森林帶最も長く登山するに安樂なり。

備考 富士登山に關しては登山案内書種々あり、中にも静岡縣駿東郡教育會より編纂せる富士登山の探最も便利なり。

淺間山 日本三大活火山の一にして、海拔二四八〇米、複式火山にして頂上には周圍十八町に及ぶ噴火口あり、絶へず水蒸氣を噴出せり。天明の大噴火はその被害頗る大なりしを以つて有名なり。

白山火山脈 中國地方に通ずる白山火山脈は、若狭の西境に青葉山をつくり更に加賀の東南境白山に至る。白山はその盟主にして海拔二六四〇米あり、北陸第一の名山にして頂上五峰に分る、四時白雪絶へざるによりて白山の名ありと云ふ。其の東麓飛驒の白川郷は風俗習慣の奇異なるを以つて知らる。

阿蘇火山脈 阿蘇火山脈は本地方に來りて鳳來寺山を起す、鳳來寺山は三河長篠の北方數里にありて塊狀火山なり山中に鳳來寺あり。

河川は中央高地によりて分たれ、南北の兩斜面向て流れ、急流多きを以つて水力電氣の動力として利用せらるゝも多し。南方太平洋に注ぐ主なる河川は左の如し。

水系

舟筏里程 本流里程 灌域方里

舟筏里程 本流里程 灌域方里

富士川	二三里	四一里	二九四	木曾川	一一二里	五九里	五九〇
天龍川	九一里	五五里	三一七	矢矧川	二五里	三二里	一二四
大井川	四三里	四四里	七九				

富士川 はその上流は甲斐の北部山地に發し、釜無、荒川、笛吹の諸川となり、甲府盆地に折合し、富士の西麓を巡りて、田子浦にそゞく、鯉澤より岩淵に至る十八里船楫の便あり、僅かに半日に達す、其の兩岸奇勝に富む日本三急流の一なり。

大井川 は赤石山脈中の白根山に發し、其の上流を田代川と云ふ。南流して駿遠の國境をなし、駿河灣に注ぐ、河口の幅十八町に達するも平時は水量少なし、されど一度大雨至れば汎濫の憂あり、藤川より飯淵まで十六里舟楫を通ず、幕府時代には架橋を禁じし處、今は東海道線は三二〇〇尺の鐵橋を架せり。

天龍川 は諏訪湖より發源し、木曾、赤石、兩山脈の間を南流して伊那谷を作り、天龍峽の絶勝を作り、掛塚に至りて海に注ぐ、昔は信遠の交通路として貨客の船によるもの多かりしが、中央線の開通と、往年茶々淵に於て難船し旅客ために溺死せし

を以つて、今は多く木材、久根の銅鑛を運ぶのみとなれり。下流の鐵橋は東海道諸川中の最長鐵橋にして長さ三九六七呎あり。

木曾川 信濃國に發し飛驒山脈、木曾山脈中の諸川を集め、兩山脈間を南西に走り美濃に入り、更に飛驒川、長良川、根尾川を入れ伊勢海に注ぐ。その上流谿谷の平野は所謂木曾谷にして、河身深く峡谷を刻み、水質明澄にして流早し、木曾の棧道、寢醒の床の勝は古來有名なり。寢醒の床は中央線、上松驛の南僅かに十二町にあり、木曾川の兩岸相迫る處、花崗岩、疊を重ねたる如く、清冽たる流水之れに激して風景絶佳なり。有名なる木曾の材はこの川によりて下流桑名に運ぶ。日本海系には

	舟筏里程	本流里程	灌域面積
信濃川	一七九里	九四里	七九五方里
九頭龍川	五八里	二八里	一六七方里
阿賀川	一四九里	四三里	五四一方里
神通川	一四里	三二里	一八〇方里

庄川

五一里

三七里

一二二方里

備考 舟筏里程は本流及び支流の舟筏を通じ得べき延長里程にして、殊に三十里以上のものを載す、本流里程は源より川口に至る長さなり

信濃川は源を信濃に發す、犀川、千曲川の二川その上流たり、犀川は木曾山脈の北部に發し鳥居峠の分水嶺によりて木曾川上流と相背き、松本平を過ぎて善光寺平の川中島にて、關東山脈より發源する千曲川と相會す。全長九十四里我國第三の長流にして舟筏里程一七九里を有す、流域面積七九五方里に上る、下流の越後平野は米穀を産すること全國第一位なり。

諏訪湖 信濃の略々中央にあり、周圍四里三十二町、湖面は海拔七五九六米の高距にあり、立科、八ヶ岳の四周の山岳より發する水合して湖に入り、湖の西端より再び流出して天龍川の起源をなす。其の流入する土砂は年々湖を埋め、爲めに深度甚だ低く最深部に於て七米餘に過ぎず。湖岸沖積地の生成速かにして、是等の沖積地は肥沃にして五穀よく熟し、諏訪平の名あり、湖は又水産物に富む。冬季湖面結氷して交通を助け、又近年氷滑りの遊戯盛んに行はる。附近に温泉多く湖畔に

官幣大社諏訪神社あり健御名方神其の他を祀る。

濱名湖 遠江の西南隅に在り、東西二里南北二里廿五町周圍二十九里餘、深さ十三米あり。此湖水は陥落湖にして往古海に接續せざる淡水湖なりしが、後土御門帝の明應年間地震のため外海と通ずるに至れりと云ふ。其の切口を今切と稱す。東海道線は二六〇〇間の鐵橋を架す、湖上汽船の便あり、今切に近き辨天島は風光の美を占め海水浴地として知らる、湖岸には養魚をなすもの次第に多きを加ふるに至れり。

富士の五湖 俗に富士八湖と云ふ。然れども富士の麓にあるは山中湖、河口湖、西湖、精進湖、本栖湖の五湖なり。富士の八湖と稱せるは浮島沼、箱根蘆の湖及び甲州の四尾連湖を加へ云ふものなり。山中湖は其の形三ヶ月に似て東西一里九町南北半里、周圍三里海拔九百八十三米に湖面を有せり。河口湖は五湖中の最大なるものにして、周圍五里湖面は高距八三〇米なり。近時船津に一箇の水溝を設けて之れを桂川に注入す。西湖は周圍二里半、精進湖は周圍一里半許り、本栖湖は周圍三里。五湖中最深にして四百尺に達す。以上の五湖共富士火山噴出の際熔岩

平野

のため生じたる堰塞湖にして水色澄明頗る風致に富む。

本地方は中央に大山脈連亘するを以つて大なる平野少なければども、木曾川の下流なる濃尾平野と、信濃川の下流地方の越後平野とは我國屈指の大平野なり。濃尾平野は木曾川、長良川の沖積作用によりて成れるものにして、土地概して平坦、地味肥沃なれば、田園よく開け、米、菜種の産多く、關東平野に次く我國第二位の平野にして、又交通便利、人文の發達せる地方なり。越後平野は信濃川の下流地方にて、米を産すること日本全國に冠たり、其の他富山平野、松本平等あり。

日本海岸と太平洋海岸とに於て出入の状況に著しき差異あり。太平洋岸は頗る出入に富み、東に伊豆半島突出し、南端石廊崎は遠江の御前崎と相對し、其の間に駿河灣の灣入するあり、この灣の沿岸には田子の浦、三保松原、清見瀉等の勝地あり、一帯の海岸白砂にして、三保の松原は清水港の南數町の地より東西に斗出する一里許の砂嘴にして、松林之れに生じて風景絶佳なり。西には志摩半島突出して伊勢の海を抱き、灣頭に名古屋の良港あり。又知多半島と渥美半島とは兩方より三河灣を擁したり。されど御前崎より西の海岸は單調にして出入に乏しく加ふるに

海岸

海上は波荒き遠州灘なり。

日本海岸は出入單調にして中央に能登半島突出し、内に富山灣を抱き、西に若狭灣ありて小出入あり、灣内に敦賀の良港あり、其の他一帯に出入に乏しく唯日本海中に佐渡島あるのみ、太平洋岸には清水港、名古屋港、武豊港、日本海岸には新潟港、伏木港、七尾港、敦賀港、夷港ありて何れも開港場なり。

備考 日本海岸は漸次太平洋岸に隆起し、北方日本海岸に陥落の微あり、汀線の變化に關しての學説は未だ一定せざれども、石川縣の安宅關は昔辨慶の勳進帳を以つて知らるゝも、今は小松の海岸を去る西北一里許りの沖にありと云ふ。

氣候 氣候は地勢によりて、中央山地と太平洋岸と日本海岸とにその趣を異にせり。太平洋岸の各地は概して氣候溫暖に中央山地は、寒暑の差稍甚しく、殊に比較的夏季は短かけれども、冬季は長し、日本海岸は南に山を負ひ北は日本海に面し、冬季西北の寒風吹掃するを以て、太平洋岸に比すれば冬は寒冷にして夏は稍氣温低し。輕井澤の如きは三千尺の高地にあるを以つて夏季冷しく避暑地として著れ、内外人の避暑するもの多し。雨量も三地方によりて各異り、日本海岸は降水量

一千七百乃至二千五百耗に上る、次ぎは太平洋岸にして千五百乃至二千に至る。中央山地は僅かに千耗内外に過ぎず。殊に北陸地方の雪の多きことは我國第一にして、越後高田の深雪の如きは古來よく人に知らる。斯く降水量の南北によりて異なるは、風向と地勢によるものにして、南太平洋岸は夏季雨量多し、此の季節には南風濕氣を齎し、中央山地以南に雨を降らす、北日本海方面は之れに反し、冬季雨量多し、之れ西北風の吹掃して日本海の水蒸氣を拉し來り、中央山地の北方に多く雪を降らしむるによるなり。

備考 古來深雪地として知られたるは高田市なるも、積雪の最も深きは却つて高田附近にあらずして、石川縣手取川の上流白山に近き牛首村にして、一丈五尺乃至二丈の積雪あるは珍しからず。其の一般北陸地方にては一丈位の積雪は珍しからず、されば冬季積雪の爲め鐵道交通を阻碍することあれば、主要驛には「ラッセル」式雪櫃車を常備せり。近來高田市の西二十町金谷山にてはスキートの練習行はれ、其の南赤倉山にても盛んに行はる。

交通 陸上交通は中央に山岳重疊せるに拘らず、位置本州の中央に位し、東西交通の要路に當れるを以つて、古來重要なる街道通せり。即ち東海道、中仙道、北陸街

道之れなり。就中東海道は東京の品川を出で西に向ひ、今の東海道線に沿ひて名古屋に至り、之れより今の關西線に沿ひ、鈴鹿峠を越え、草津より大津を経て京都に至る街道にて、所謂五十三の宿場ありて古は大名其の他の通行頗る頻繁なりき。中仙道は東京より西北、今信越線に沿ひて碓氷を越え、信濃に入り、木曾より岐阜に來り近江にて東海道に合せり。北陸街道は近江の米原にて中仙道より分れ、日本海岸に沿ひ新潟地方に向ふ途中親不知の險を通過す。今は主なる街道に沿ひ鐵道を通じたり。主なる線路左の如し。

東海道線	東	京—神	戸間	三七六哩四分
中央線	萬世橋—	名古屋間	二五三哩八分	
北陸線	米原—	直江津間	二二八哩三分	
篠井線	鹽尻—	篠井間	四二哩一分	
武豐線	大府—	武豐間	一 二 哩	
豐川鐵道	豐橋—	長篠間	一七哩八分	
信越線	高崎—	新潟	二〇三哩六分	

海上交通

村上線	新	津—村	上間	三六哩九分
越後鐵道	柏崎—	新潟	潟間	五〇哩一分
七尾線	金澤—	七尾間	四一哩六分	
中越鐵道	高岡—	城端	見間	二八哩九分
駿豆線	三島—	大仁間	一〇哩六分	

備考 中央線笹子隧道は甲斐の笹子、初鹿野間延長一萬五千二百七十五呎にして日本一の大隧道なり。

大平洋岸には名古屋、武豐、清水等の著名なる貿易港あるを以つて、航路割合に頻繁なれども、日本海岸は比較的閑散なり、唯敦賀は浦鹽との交通頻繁なり。外國航路にして、名古屋及び清水に寄港するは左の諸線とす。

日本郵船米國航路	清水に寄港す
同 橫濱上海線	名古屋に寄港す
大阪商船北米航路	清水に寄港す
東洋汽船桑港線	清水に寄港す

大阪商船浦鹽航路 敦賀浦鹽間
同浦鹽廻航線 七尾、伏木、夷港に寄港す

農 業
其の他近海航路多し。
産業 諸川の下流地方は土地よく開けて、米、麥の産多く、就中濃尾、越後平野に多し。

縣	米産額大正七年	麥産額
新潟縣	三、一四七、〇二二 ^石	一〇〇、七五二 ^石
富山縣	一、五八四、六八七	一四、九一六
石川縣	一、一二六、五四四	五六、六一四
福井縣	一、一一一、二二六	四三、〇六三
長野縣	一、五〇三、四二〇	四三七、九八七
岐阜縣	一、一四〇、九六七	二九一、八八四
山梨縣	四五一、五二九	四〇一、〇七六
静岡縣	九三九、四六六	五〇五、七〇八

愛知縣 一、九五二、一五〇 七五四、二三七

米の産額は、新潟縣全國第一位にして次ぎは兵庫縣なり。其の他農産物は

静岡縣 茶 八、四三三、六二四圓
 静岡縣 蜜柑 四、二九四、二〇五^貫
 愛知縣 同 九七八、四四九貫
 山梨縣 葡萄 六八一、五四七貫

茶の産額は静岡縣第一位にして、主として清水港より北米合衆國に輸出せらる。
蜜柑は和歌山縣第一位にして六三三七、三六七貫に次ぎて静岡縣は第二位なり。
葡萄の産額も山梨縣第一位なり。

備考 大正七年度の全國産額を参考にせば

米	五四、六九九、〇八七石
麥	二二、五七七、二七一石
茶	六五、八六六、六七四斤
蜜柑	二六、九七〇、八〇六貫
葡萄	五、一九四、一一一貫

養蠶業も亦盛んにして、就中長野縣は本邦屈指の養蠶地として知らる。繭の産額全國第一位なり。

長野縣 八六〇、八〇九貫 六九、二二五、八八九圓
愛知縣 二一一、九五九貫 四三、三九八、七七九圓

農業、養蠶業盛大にして原料品を多く産すると、交通便利なると工業原動力を供給するに至便なるとにより工業亦盛大なり。

製絲業は絹綿共に盛んにして、生絲の産出額は長野縣を第一位とす。長野縣は製絲の原料を縣下産に仰ぐのみならず、群馬、埼玉、千葉の諸縣より之れを移入して、これを精製して海外に出す、殊に諏訪湖畔の製絲工場最も大なり。

長野縣 一一八、六〇三、二七六圓
愛知縣 四三、五九四、一九四圓
(大正七年)

絹織物は日本海岸地方に殊に盛大なり。之れ日本海岸地方は一年の大半は寒氣強く又雪深く戸外の作業困難なれば、家庭工業自然に盛大となれるなり。福井、石川の二縣殊に盛んに我國重要輸出品たる羽二重の製造は全國に冠たり。

絹織物の産額は左の如し。

福井縣 四八、六六六、一五八圓(大正六年)
石川縣 二六、一二〇、五〇四圓
新潟縣 九、〇四〇、二九六圓
山梨縣 六、六六五、八五三圓

福井縣は絹織物産額全國第一位にして京都府、石川縣之れに次ぐ。綿織物は愛知縣最も盛んにして、全國中大阪府に次ぐ。

愛知縣 六〇、四三四、七五三圓
時計の製造は名古屋特産物の一にして、産額は東京府に次ぐ

愛知縣 一、〇一八、七二七圓
東京府 一、四六五、三一〇圓

備考 時計製造は名古屋市の林市兵衛なる人今より五十年前始めて工場を開き製造に着手し、爾來漸く販路を擴張し今や林工場の名高く、主として柱時計を製造し内地は勿論海外に輸出するに至れり。

陶磁器の製造は、名古屋の東北瀬戸地方、岐阜縣の多治見地方、石川縣金澤地方を主産地とし、七寶燒、瀬戸燒、美濃燒、九谷燒、硬質陶器を産す。年産額左の如し。

愛知縣 一〇、四二三、六八九圓(大正六年)

岐阜縣 六三、六三六、八五圓

石川縣 一、五一三、一八二圓

日本全産額は二九、三三八、四三二圓にして産額の多きは愛知、岐阜、京都、佐賀の順序とす。

七寶燒 は名古屋、東京地方に産し、有線と無線の二種あり。有線七寶は、金、銀、銅を以つて所要の形状を作り、金、銀若くは銅線にて任意の模様を置き、其の区域内に種々の色素を加へたる釉薬を充し、焼きて琢磨したるものにして、無線七寶は線を用ひず、模様を著したるものなり。製品の種類は花瓶を始めとし、日用裝飾具にして、輸出向は殆んど花瓶なり。

瀬戸燒 尾張國瀬戸附近に産する陶磁器の總稱にして、後堀川天皇の貞應二年山城の人加藤四郎左衛門景正、宋國に渡りて彼地の陶法を習ひ、歸來して此の地に傳へたるを斯業の起原とす。現今産出する磁器は此の創業を去る六百年後、享和年間に至り、加藤民吉氏の創始に係り、今は瀬戸燒と云へば磁器を指し、附近犬山より犬山燒として陶器を出すに至れり。

美濃燒 は美濃の土岐郡を主とし、惠那郡、可兒郡等にて産す、而して多治見はその大集散地なり。初め天正元年瀬戸より加藤四郎左衛門景正、弟景貞の兩人、可兒郡大平に來りて、初めて磁器を焼くこれを美濃燒の始めとす、其の後瀬戸地方の陶工移り來り、其の子孫惠那、可兒兩郡に廣がり、次第に今日の如く製陶盛んとなり、その製出するものは日用品を主とし、販路は内地を始め支那、米國に輸出す。

九谷燒 は石川縣江沼、能美兩郡並に金澤市に多く出せるも、元九谷に創業せしを本窯の始めとす、始め慶安年中江沼郡九谷村に陶土を發見し、藩士後藤才治郎、肥前有田に至り製陶の業を研究すること七年、其の秘密を得、歸りて精巧の器を出す、これを九谷燒の濫觴となす、當時の作品は古九谷と稱して珍重する所、爾後中絶せしが、文化七年吉田屋八右衛門再び九谷の陶窯を修理して、支那交趾風の

陶器を出す之れを吉田屋陶と稱す。之れより益々盛んとなりて今は諸所に産すれども之れを總稱して九谷焼といふ。外國に輸出さるゝもの多し、九谷焼は素地を製せざるに非らざるも多くは白地ものを濃尾地方より輸入して赤繪、綠繪を焼付くるもの多しと云ふ。

硬質陶器 金澤市及び名古屋市附近等に産す、堅牢にして破損し難く、冷熱の變化に耐へ日用品として聲價あり。主として西洋風の日用食器類を製す。

漆器は静岡縣、石川縣に多く、静岡塗、金澤塗、輪島塗、若狭塗等有名にして

静岡縣 一、〇〇四、六九四圓

石川縣 一、七三七、八四一圓

全國 一二、九一二、六四四圓

○静岡塗 は駿府塗とも云ふ。寄木塗の如きは静岡市の特産品にして大いに外人に賞玩せられ、又近來はバルブを原料としたる漆器を多く産す。

○金澤塗 は古藩主の奨励保護によりて盛んとなれり、金澤蒔繪は東山時代の遺風を傳來せるものにて、中古風を存す、其の製品は堅牢の稱あり。

輪島塗 通常黒、綠、赤の三色にして、黒最も多し。膳、椀、日用品を出す。堅硬にして久しきに耐ふ。其の起原は詳かならざれども、應永年間、紀州根來寺僧の傳へたるものゝ如し。中途振はざりしが、寛文年間、此地に三種の粘土を發見し、漆に混じて下地に用ひしに堅牢なる漆器を得、之れより名聲頓に上るに至れりと云ふ。若狭塗 若狭國小濱附近に於て製出する紅、黒、黃、綠、青等の彩漆を塗り、雲の如き模様を出し、金、銀箔を塗り込みて、美紋を出せしものなり、其の起原詳かならず。

製紙業は西洋紙、和紙共に盛んにして、静岡縣最も産額多し、西洋紙の産額は

静岡縣 一〇四、四四二、一三四ポンド

北海道 一四二、二七四、〇一四

和紙の産額は

静岡縣 二、一八八、二七六圓

岐阜縣 一、六七四、五五八圓

西洋紙の最も大規模に製せらるゝは、静岡縣大宮町にある富士製紙株式會社

にして、我國水力電氣を用ひたる嚆矢にして、製紙業は明治二十年の創立にかゝり規模の大と、機械の新式と、産額の多きとを以つて著る、創立當時は富士の木材を用ひしも現今は北海道より樅松を移入し原料とす。

美濃紙 原料は楮、三又、桑皮等より製す。維新前藩の掟として、一家三株以上の楮を作付けることゝなり居たりしも、今は需用増加のため原料不足を告げ茨城、静岡、島根、高知等より供給を仰ぎつゝあり。産地は美濃國一般に産すれども武儀、揖斐、山縣の三郡最も多く産す。岐阜市及び美濃町を集散地とす。種類は半紙、典具帖、雁皮紙、コッピ紙、東洋紙、美濃書院、森下紙、櫻紙等なり。

備考 衆議院議員選舉用紙(西)の内は茨城縣に産すれども本縣にも産す。

林業

中部地方には山脈重疊し従つて森林多く未だ前人未踏の地も少なからず。されば森林面積も大にして岐阜縣は北海道を除きては日本一の面積を有す中、にも木曾川上流の森林有名なり。森林面積を比較すれば

岐阜縣	一七〇、九三四町歩
長野縣	八二、八七六町

富山縣	七六、八四三町
山梨縣	六六、九三八町

年々の伐採高は新潟縣の五百萬圓を第一とし長野静岡縣之れに次ぎ四百萬圓餘にして他の諸縣は何れも百萬圓以上なり。

木曾御料林 木曾御料林と稱するは、甚だ廣大なる地域を占むる森林の總稱にして、木曾地方は勿論赤石山脈及び美濃惠那郡地方の森林迄を含めり。その内木曾川流域の御料林は、東は赤石山脈より、西は飛驒山脈地方に及ぶ。古尾張藩の所有なりしが、明治二十二年始めて御料林となれり。伊勢大廟の材料も、名古屋城の材料もこの森林の木材を供給せしものなり。材木は無盡藏にして古きは一千年新しきも三四百年を経たる巨木密生せり、殊に木曾川支流王瀧川の上流地方の森林は森林中の美林たり、木材として伐採するは檜、樺、榎を主とし毎年四五月頃着手し九十月頃に終る。十月より翌年の二月頃までは作業を中止し、伐材は木曾川に流す、かくて木曾川の中流岐阜縣錦織までは一本宛流し此處にて筏となして桑名に送る、今は森林鐵道の設あれば汽車にて運ぶもの多し。大

鑛業

正六年度伐採高長野縣に屬する分は百六十萬圓餘岐阜縣六十一萬圓靜岡縣四十一萬圓餘なり。

鑛産物は新潟縣最も多く金、銀、相川、銅、草倉、石油等を産す、就中石油は其の産額全國第一位なり。此の外大理石、岐阜縣赤坂、水晶、山梨縣金峰山、硯石、同、雨畑、銀、鉛、岐阜縣神岡、銅、石川縣尾小屋、靜岡縣久根等を産す。

金産額(大正七年)

銀産額(同)

銅産額(同)

新潟縣 一二二、六七三匁 一、三〇八、七四八匁 一、二〇七、九〇一斤

石川縣 五四、五四三匁 二九〇、五九二匁 一、七六〇、〇七九斤

岐阜縣 一四、二九六匁 三、八六九、二六二匁 五七七、九八八斤

主要鑛山の産額を比較すれば(大正七年)

佐 渡	(新潟縣)	金	九六、一一九匁
富 來	(石川縣)	金	三六、一四九匁
神 岡	(岐阜縣)	銀	二、一八九、二八四匁
尾小屋	(石川縣)	銅	二、六七七、三七七斤

石油の産額は新潟縣第一位にして

新 潟 縣	一、六二六、六四〇石
秋 田 縣	八七四、四八四石
全 國	二、五〇八、九四三石

主要油田の産額は(大正七年)

新 津	(寶田石油會社)	四二九、四九五石
金 澤	(同)	一一六、三六八石
東 山	(同)	一二〇、四七七石
西 山	(同)	一五八、七九九石
西 山	(日本石油會社)	二六一、九八八石

備考

黒川油田(秋田縣)四九六、八九八石にして全國一位なり

水産業は太平洋岸に盛んにして、就中靜岡縣は中部地方第一位にして、鯉、鱒の漁利多く、愛知縣之れに次ぎ鱒、鯛を産す。又、新潟縣は鰻、鮭(三面川)、福井縣の雲丹、鯛、若狭、鱒(若狭、岐阜縣の鮎、長良川)等著る。水産漁獲高は

水産業

濱松市
六、四
三方ヶ原
舞天島
坂

名古屋
四二、九

濱名湖の東に濱松市あり。古來東海道の要衝として名高く、今は樂器、帽子の製造盛んにして、又綿織物を産す。其の西北方に三方原古戰場あり。元龜三年十二月、徳川、武田兩氏の古戰場なり、濱名湖中の辨天島、之れに臨める舞坂等は風景の美を以つて知らる。

備考 人皇第十二代日本武尊蝦夷御征伐の途、駿河の國にて賊の難に合ひ給ひ、却つて之れを焼き給ひし地は東海道線焼津驛、静岡市の西南附近なりと云ふ。

愛知縣

名古屋市 は濃尾平野に立ち昔三親藩の一のありし地にして、人口四十三万に近く我が國第五の大都會なり、名古屋城は日本三名城の一にして、天主閣頂上には金鯨を装へるにより金城の名あり、今は離宮となれり。官衙、學校には縣廳、控訴院、第三師團司令部、第八高等學校、高等工業學校、縣立醫科大學あり。熱田には熱田神宮あり。各種の工場あり殊に織物、綿絲、塗器、陶磁器、七寶燒、時計等の産あり。熱田港は近來築港工事竣成し四日市港の繁盛を奪ふ感あり、されど港の淺きを缺點とす、多く北米合衆國に陶磁器を輸出す。

備考 名古屋城は慶長十五年徳川家康が前田、加藤以下二十六大名に命じて築かしたるものにして、天主閣は加藤清正の設計せしものなりと、その本丸は明治二十六年六月一日離宮となれり。城頭の金鯨は南は雄、北は雌共に高さ二十四間四尺七寸五分の天主閣上に立ち雄は身長八尺三寸五分、雌は身長八尺五寸、胴圍七尺三寸、純金の鱗一九四枚、慶長小判に換算して一万七千九百七十五兩に上ると云ふ。

豊橋市 は豊川の下流に位し、製紙盛んに近郊に第十五師團司令部あり。舊名を吉田と稱し松平氏七万石の舊城地なり。北方豊川鐵道に沿ひて有名なる豊川稻荷ありて、參詣者多し。豊川鐵道の終點なる長篠は、天正二年武田勝頼、織田、徳川の聯合軍のために敗られたる古戰場なり。

岡崎市 は矢矧川に沿ひ西三河の大都會なり。徳川家康の誕生地にして、昔の三河木綿の中心地なりしも今は綿の産少なきも附近は綿絲の製造盛んなり。知多半島の武豊は開港場にして、商業盛んなり。有松及び鳴海は共に絞りを以つて名高く、この附近は桶狭間合戦の古跡にして、永祿三年九月織田信長が、今川義元を敗りたる古戰場なり。其の他北方に長久手、小牧山等戰國時代の古戰場多し。

豊橋市
六、五
長豊
長篠川
岡崎市
三、八
武豊港
鳴海松

瀬戸

名古屋市の西北に瀬戸町あり。瀬戸焼を産す又陶器學校の設けあり。此の地方は花崗岩より成れる木曾山脈の丘陵の岩石溜爛にして陶土に富むを以つて、陶磁器製造を盛んならしむ。瀬戸焼に付きては産業の部に有り。

岐阜

岐阜市

濃尾平野の北方、長良川の南岸にあり、東には稻葉山峙ち古來中仙道の要點を占む。縣廳の所在地にして、縮緬、傘、提燈、團扇等を産す。有名なる長良川の鶉飼は毎年六月中旬より十月中旬まで明月の夜を除きて五艘乃至七艘多くは五艘の魚舟を一組にし、長良橋を中心として行はる。市の東方稻葉山には岐阜城址あり。其の東各務ヶ原飛行場には陸軍航空第一、第二大隊あり。

大垣市

岐阜市を去る西五里餘濃尾平野の西方に大垣市あり。戸田氏十萬石の舊城地なり。城址は今開きて公園とす、紡績、毛織の工場あり殊に濃尾米の取引盛んなり。

養老

養老は此の地の名産なり、養老鐵道によりて西南養老山中に至れば、養老の瀧あり。高さ九丈餘孝子の美談を以つて普く世に知らる、今附近一帶公園となす四季共に此に來り遊ぶもの多し。

關原

縣の西境に關ヶ原古戰場あり。鈴鹿山脈伊吹山脈の南北より相迫る處にして、天武天皇の時不破の關を此處に設く、所謂三關の一なりしが桓武帝の時に廢せらる。關ヶ原の役は慶長五年九月十五日東西二十萬の大軍の大戦役の跡は概ね畑地と原野なり、近年木標を建て、當時の陣地を表す。

多治見町

土岐川の上流には多治見町あり、陶器の集散地なり。本縣中土岐、惠那、可兒の三郡は陶磁器の産、最も多く特に土岐郡はその九割を産す、而して其の多くは多治見町に集散す之れを美濃焼と稱す、其の産額却つて、瀬戸より多きも、瀬戸焼の名却つて天下に知らる。今郡立陶器學校を置く。

高山町

飛驒高地の中央位山の北に高山町あり、山岳四周し宮川中央を流れ、形勢京都に似たるを以つて、小京都の稱あり、山色水光明媚なり。生絲、春慶塗、一位細工の産あり。位山は多く水松を産し、古之れにて笏を作りたりしを以つて此の木を一位の木、山を位山と稱するに至れり。北境に神岡鑛山あり(産業の部參看)

山梨縣

甲府市

甲府盆地の中央に位す、四圍山を繞らし要害の地たり。武田氏三代の居城地は市

郡内 歌澤 身延山 勝沼 笹子峠 猿橋

の北半里古府中にあり、信玄の墓今尙存す。生糸、繭、葡萄酒の取引盛んなるのみならず、百貨の集散盛んなり、又市の北方金峰山より産する水晶を採りて、水晶細工を出す、其の他葡萄酒、乾葡萄酒をも産す。東部に酒折宮あり、日本武尊の遺跡として名高く、甲州第一の勝と稱せらるゝ、御嶽は北方に聳ゆ。笹子峠以東の山地一帯を總稱して郡内と稱し、養蠶業盛んにして、甲斐絹、郡内縞の産多し、谷村町は其の中心地なり。域内には相模川の上流なる桂川流る、駒橋猿橋、大月驛間及び谷村に水力發電所を設く、甲府より西南馬車鐵道の便ある歌澤は、富士川の上流に位し、此より富士川下りの便船を出す。歌澤の南方富士川の西岸に身延山あり、有名なる久遠寺のある所にして、日蓮宗の總本山にして、文永十一年の創設なり、歌澤より舟便あり。甲府の東四里に勝沼あり、附近一帯葡萄酒の栽培を以つて著る。多く東京に送り又葡萄酒の醸造場あり。郡内の中央に笹子峠あり、中央線の墜道之れに通ず。長さ一万五千四百七十五尺(一里七町)にして、明治二十九年十二月起工し、三十五年七月竣工、工費二百二十一萬圓を要し、汽車を通過するに九分を要す、院線に於ける最長の墜道なり。甲州街道の一驛に猿橋驛あり、本縣東部に於ける商業繁盛地なり、

桂川の清流に架せる猿橋の奇景を以つて名高し、猿橋は高さ十六間、長さ十七間、幅一丈一尺、橋下一本の柱なし、日本三奇景の一なり。

長野縣

松本市 岡谷

松本市 は松本平の中央に位し、古へ深志と稱せし處、その城址は今尙市の中央に聳ゆ。商業盛大にして、繭の市場を以つて著れ、蠶卵紙の産出多し、近時松本高等學校設置され、日本アルプス登山者の多く集る所となれり、その西方上高地温泉は登山者の根據地なり。其の南諏訪湖畔の上諏訪、下諏訪、岡谷は製絲業に名高く、特に岡谷には大工場あり。福島は木曾谷の名邑なり。

上田市 長野市

縣の東境信越線に沿える輕井澤は海拔三千尺の高地にして、夏季涼しきを以つて内外人の避暑客年と共に増加す。千曲川の上流に沿へる上田市は養蠶、機業の中心をなし、繭、蠶卵紙の取引盛んにして、上田縞、上田紬の産あり、蠶絲専門學校あり、上田城址は眞田昌幸の築きし處、關ヶ原の役、昌幸之れに據り、將軍秀忠を遮りしこと史上に有名なり。

長野市

長野市 は善光寺平の中央にあり、交通の要路に當り、縣廳の所在地なり、名利善

善光寺

光寺あるを以つて佛都の稱あり、附近は米生絲を産し南に川中島を望む。善光寺は市の北端大峰山の麓にあり天智天皇甲子の創設にして、本堂は高さ十丈二重屋根撞木造りにて天表に聳ゆ、柱數百二十六、垂木六万九千三百八十四、以つて法華經の字數に准じ、本尊には、一光三尊と稱する阿彌陀如來を安置す、本邦最初の佛像なりと傳ふ。

備考 千曲、犀川の合流する處所謂善光寺平の中心に川中島あり、此地は更級、埴科、上水内、上高井四郡の境界なるを以つて、古來川中島四郡といへり、信玄、謙信の決戦場として有名なり、天文二十二年より十餘年間武田、上杉兩氏の兵を交へし所にして、謙信の陣地に妻女山、信玄の陣地は茶臼山なりしと云ふ。

新潟縣

新潟市

新潟市は信濃川口に位し南方には越後平野を控へ信越線、磐越線、越後鐵道の連絡點にして海陸交通の要衝に當る、縣廳高等學校、醫學專門學校あり、港は開港場にして我が國五港の一として早くその名を知られたれども、水淺く風波の憂多く爲めに佐渡の夷港を副港とせり。加之ならず信濃川は年々土砂を吐出し漸次遠

夷港

長岡市

淺となるを以つて港運次第に衰へ貿易盛んならず、市には漆器の名産あり。

長岡市は信濃川に臨み越後平野を控へ信越線中の要驛にして、又長岡鐵道、栃尾鐵道等の接續點なれば、水陸共に交通運輸の便を占む。市は已に上杉謙信時代に繁盛なる都邑を存せしが、徳川時代に至り牧野氏城主たり、維新の際當藩は會津藩に與みして頑強に朝師に抗したり、附近東山油田は石油の産夥しくこの驛に連れる多くの油槽車の如き實に北越に於ける一奇觀たり、又越後平野の米を集散す。

高田市

高田市は荒川に沿ひ鐵道信越線に沿ひたる市街にして、榑原氏十五萬石の舊城地なり、今は第十三師團司令部を置く、冬季積雪深きを以つて有名なり、その西方金谷山には冬期スキー練習場あり。直江津は信越線と北陸線との會合點にして、港は遠淺にして且風波の憂あるを以つて、碇泊に便ならず、新潟、伏木並に佐渡に至る汽船の便あり、西南一里春日山には上杉謙信の城址あり。

直江津

備考 この地方は冬季積雪深きを以つて、家屋の構造も特異にして、庇を深くし積雪深き時その軒下を交通し、若し向側に行かんと思せば雪を穿ちて隧道を作ると云ふ

柏崎には大なる製油工場あり。五泉には五泉平の袴地を産し、小千谷には透綾を

柏崎、小千谷各町

相
一、川

中部地方

1011

産す。佐渡の相川は金北山の金山を控へ市況榮え無名異焼を産す。附近に黒木御所址あり。

備考 黒木御所址、順徳天皇承久三年七月、北條義時のために此の島に遷され給ひ、十二年の長き間を本島に過ごさせられ、仁治三年九月御年四十六歳を以つて終に此地に崩御ましましき、新町より北一里餘金澤村、和泉に黒木御所址と傳ふる處あれども、天皇の御所址は國分寺なりとも、眞野村の「堂の平」なりとも云ひ今明かならず、眞野村に順徳天皇の火葬場地あり、近時眞野陵と稱す。

富山 縣

富
六、山
一、市

富山市 は神通川に跨り富山平野の中央に位す。富山縣廳の所在地にして前田氏十萬石の舊城地なり。此の地の賣薬は其の名四方に高く、反魂丹、熊膽丸、感應丸等各地に行商す、市に藥學専門學校あり。製藥起原は徳川氏元祿時代に岡山人、淨閑この地に反魂丹を製せしを本業の濫觴とす、爾來この業に従事するもの多く藩主の保護によりて、益々盛大となり、維新後一時衰へたれども外國に輸出するに至りて、又盛んとなれり、製藥の最も大規模なるは廣貫堂にして、明治八年の創設にかゝり工場數棟あり、内地は勿論、遠く支那、西比利亞、布哇へ輸出す。

魚
一、津
四、町

高
三、岡
六、市

城
三、端

伏
木、港

富山灣の東海岸に魚津町あり、商業稍繁盛にして、此地は毎年晩春、初夏の水蒸氣最多き候、海上に蜃氣樓現るゝを以つて有名なり、俗に海市と云ふ。庄川の左岸に高岡市あり、中越鐵道の要點なり、富山と共に越中の二大市にして漆器、銅器の産多し。漆器は高岡塗と稱して、一種の雅致あり、中越鐵道は城端ジョウヘナに至る、城端は城端絹の產地として知らる。富山灣の西南隅、高岡市を去る北一里、庄川の川口に伏木港あり。日本海に於ける稀有の良港にして、開港場たり、米の輸出盛んなり。

石川 縣

金
一、澤、市
九

金
石、港

犀川の下流に金澤市あり、前田氏百餘萬石の舊城地にして、犀川、淺野川の流域を占め、九谷焼、羽二重、銅器、漆器、象眼細工等を産し商況盛んなり。縣廳、第九師團司令部、第四高等學校、醫學専門學校、兼六公園等あり、外港として、金石港を控ゆ、北陸第一の都會なり。兼六公園は城址の東南にあり、文政元年前田齊廣の開きし處、宋の李格非の洛陽名園記によりて、廣大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を兼有するの意にて、松平樂翁公の命せし處、博物館、金澤靈澤、成巽閣等あり。

中部地方

1013

七尾港
一、二

中部地方

一〇四

輪島町
一、二

能登半島の七尾港は、前面に能登島横り其の灣深きを以つて伏木港に入るべき船舶も、天候によりては屢々この灣に避難することあり。浦鹽斯徳に近く、伏木、直江津にも航路あり、金澤より七尾線あり、大阪商船會社七尾線航路あり。輪島は、能登半島北部一小街にして輪島塗を産す沿海航路の汽船寄泊す。富山縣の堺には俱利伽羅峠の古戰場あり、壽永二年五月木曾義仲、火牛の計によりて平家の大軍を破りし處なり。津幡は鐵道の分岐點なり。小松町には陶器、羽二重を産し、大聖寺附近には陶器を産す、其の東南なる山中、山代は温泉地にして又塗物を産す。

福井縣

福井市
五、六

足羽川の流域にある福井市は縣廳の所在地にして、羽二重の産出多きこと本邦第一なり、又奉書紬を産す。此の地は古の北ノ莊の地にして柴田勝家の居城たり、慶長年間結城氏入りて福井と改む、市内足羽山に別格官幣社藤島神社あり、藤島神社は新田義貞を祀り、市の北部藤島村にありしが明治三十一年此地に移せり、藤島古戰場は足羽山を去る半里にあり、足利尊氏九州に再起して攻め上るや後醍醐天皇

敦賀港
一、九

は吉野に遷り給ふ、新田義貞、皇太子尊良親王を奉じ北陸に出で、回復の事を計りしも天運茲に盡き、正平四年足利高經と藤島に會戦し、終に流矢に中りて燈明寺曠に戦死せり、尙市の東方數里に永平寺あり道元の開基にかゝり曹洞宗の本山なり。九頭龍川口の三國港は福井市の外港たれども、水淺く風波の難あるを以つて發展せず。

敦賀灣の奥に敦賀港あり、背後に山を繞らし港内波穩かにして、日本海に於ける第一の貿易港たり、唯冬季西北風の強き時には波高き憂あるのみ、露西亞及び朝鮮に對する將來有望の港なり。歐洲大戰中露西亞に對し軍需品を供給したるため輸出額は輸入の三十二倍に達せしことあり。浦鹽まで四三四哩定期航路あり。

浦鹽航路 每週一回 大阪商船會社

敦賀發 毎土曜日午後四時 大正九年六月現在

浦鹽着 毎月曜日午前十時

金崎神社は町の東北に氣比神社も、亦附近にあり。

備考 金崎神社は官幣中社にして、後醍醐天皇の皇子恒貞親王を祀る、境内は古の金

中部地方

一〇五

崎城址にして、延元年間新田氏恒良、尊良兩親王を奉じて此の城に立て籠りしが、賊軍の爲め遂に城陥り恒良親王は自刃し給ひ、尊良親王は賊手に捕へられし後弑せられ給へる悲痛の史蹟なり。氣比神社は北國第一の古地にして官幣大社、仲哀、應神兩帝及び神功皇后を祭る。

小濱町
武生町

小濱町は若狹第一の都邑にして山光海色の美に富めり、若狹塗、若狹鯛、若狹鱈の産あり。武生は紙、鐵器に名高し。

近畿地方

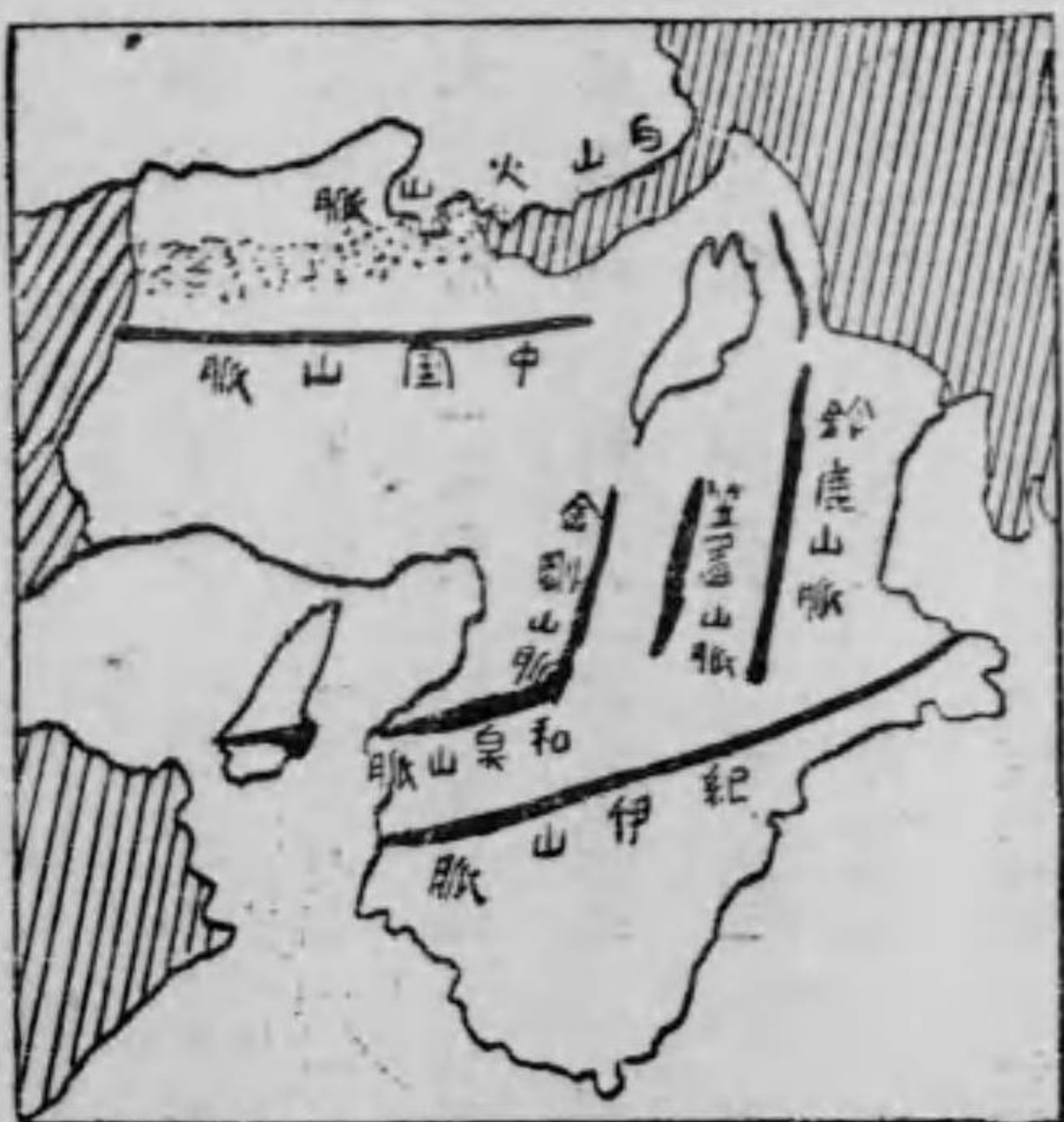
區分 近畿地方の區分、面積、人口、戸數、管轄區域及び府縣廳所在地左表の如し。

面積(方里)	人口	國勢調査人口	戸數	管轄區域	府縣廳所在地
滋賀縣 二六、三三	六七五、九〇〇	六五、五〇一	一三五、八二四	近江	大津市
京都府 二五、五五	一、三三六、八〇〇	一、二八六、九二六	二五四、八五七	山城、丹後及び丹波の一部	京都市
大阪府 一五、四八	二、六四五、五〇〇	二、五八七、八二三	四五七、〇二六	河内、和泉、及び攝津の一部	大阪市
兵庫縣 五四、三八	二、二〇七、五〇〇	二、一〇一、八七五	五五七、〇四〇	播磨、但馬、淡路、及び攝津、丹波の一部	神戸市
奈良縣 二四、八五	五八二、〇〇〇	五四六、六〇五	一〇六、二九九	大和	奈良市
和歌山縣 三〇、八五	七八二、一〇〇	七五〇、三九六	一四八、〇六二	紀伊の大部	和歌山市
三重縣 三九、七〇	一、〇八八、八〇〇	一、〇六九、二七七	二〇一、〇八二	伊賀、伊勢、志摩及び紀伊の一部	津市

備考 人口は大正八年末調査の實數にして、戸數は大正七年末現在なり。

地勢 近畿地方は地勢上西北部、東南部、中央部の三部に分る。西北部は中國山脈の連互する處にして、此の山脈は削剝作用によりて高度大ならず、且つ河川縦横

に喰入りて高原状を呈せり、その支脈中丹、攝播の間にあるものは南出して鐵拐、鉢伏岳となり、又其の東に六甲山脈を作る、主峰六甲山は海拔九三二米あり。本脈は東に於て丹波の山地を作り更に二脈を南に出し西なるは愛宕山、嵐山、天王山とな



近畿地方山地脈圖

り。東なるは比良山、比叡山等となる、尙本脈は近江、若狭及び越前との間を東走し、飛驒高原に連る。東南部は、地勢高峻にして紀伊山脈東西に走り、近畿第一の山地を作る、この山脈は四國地方より來り、紀伊を過ぎ大和に至りて、吉野群山をなし地勢最も高峻となり、山上岳、大臺原山、其の中に聳ゆ尙東に走りて伊勢、志摩を經

て瀧美半島より赤石山脈と連結す。

山上岳 大和國吉野郡にあり、吉野群山中の最も有名なるものにして、海拔一七二〇米なり、附近を總稱して大峰と云ひ、近來大臺原山、彌山、釋迦岳等を合せ大和

アルプスの名あり、山上岳は其の主峰たり。此の山は昔修驗者の登山し以つて練行を試みたる地にして、所謂「山上參り」とて近畿各地方夏季に至れば登山するもの實に少なからず、始めて山を開きたるは役行者なりと云ふ。

大臺原 大和國吉野郡伊勢の國多氣郡に跨る標高一六九五米にして、山容高臺の状をなせるを以て此の名あり。

高野山 紀伊國伊都郡の東方にあり、海拔九〇一米、山頂臺状をなすを以て、高野の稱あり、其の周圍三里餘、僧空海が開基せる金剛峰寺あり、眞言宗の本山となす、寺は嵯峨天皇の弘仁七年空海が勅を蒙り國司の力を藉り建立せしものにして、當初は千餘の僧坊ありて、七里四方に跨りしと云ふ。昔は女人禁制の場所なりしも今は信者の登山するもの頗る多し。

中央部には數條の小山脈即ち鈴鹿山脈、笠置山脈、金剛山脈、和泉山脈、略々南北に併走す。鈴鹿山脈は美濃と近江の間を南北に互り、南に至りて伊賀伊勢の間を走りて紀伊山脈に合す、鈴鹿峠は此の脈中を越ゆる要路にして、昔時三關の一たる鈴鹿關を置きたる所なり。笠置山脈は近江の琵琶湖の南方より、南に走りて吉野群山

に連る高度高からず、この山脈は伊賀盆地、奈良盆地の脊梁となる。金剛山脈は、山城盆地の南より起り南走して、河内の國境金剛山に至り、和泉山脈に連る、和泉山脈は和泉、紀伊の國境を東西に走る山脈なり。この金剛、和泉の二山脈を總稱して、葛城山脈と云ふ。中央部の小山脈は地壘の残りて山脈をなしたるものにして、何れも高度大ならず。

金剛山 河内の西南國境にあり、海拔一二〇四米に聳え、山容險峻なり、其の西に千早城址あり、其の北方に赤坂城址あり、共に元弘年間楠正成の北條氏の大軍を破りし地として、史上に有名なり。

備考 元弘元年笠置の行在所を辭して河内に歸りし楠正成は赤坂に城を築き、笠置陥落の時には天皇を此處に奉ぜんとせしむ、間もなく笠置陥り、天皇は賊軍のため捕らへられ給ひ、北條氏の大軍赤坂城に攻め寄せたれば、正成僅か五百の兵を以つて謀を巡らして賊軍を破ること屢々なりき。元弘元年十月退いて一時金剛山に匿れ、翌元弘二年の夏、千早城を築き之れに據れり、元弘三年の夏、高時大軍を率いて迫り赤坂城を燒き、千早城を圍めり、正成よく奇策を用ひて賊軍を惱ませり。

笠置山 宇治の東南今の關西線中の笠置驛より十二三町の所にあり、建武の昔

後醍醐天皇一時駐蹕せられし歴史上有名の地にして、後醍醐天皇、皇居の遺跡あり。

中國山脈中には、白山火山脈通じたり、然れどもこの脈中には大なる火山なければ、温泉の湧出せるもの多く、中にも但馬の城崎、攝津の有馬温泉有名なり。

平野の大なるものには、西に播磨平野、中央に大阪平野、東に伊勢平野あり。播磨平野は市川、加古川の流域にして、播州米の産地なり。大阪平野は淀川の灌漑地方にして、近畿地方の第一の大平野にして、攝津、和泉、河内の三ヶ國に跨り、北に延びて山城盆地に續く、伊勢平野は、伊勢海に面する一帯の地にして、農業盛んなり、北方に延びて濃尾大平野に續く、其の他伊賀盆地、奈良盆地、近江盆地の小平野あり、之等は何れも元、湖底たりしも一朝河流によりて排水して盆地となりたるものなり。中國山脈、紀伊山脈は主なる分水嶺をなし、本地方は大河に乏しければ、灌漑に利用せらるゝもの多し、日本海系の主なる川流左の如し。

平野

河川

幹川流程

舟筏里程

灌漑面積

由良川

二六里

三六里

一一七方里

朝來川(圓山川) 一七里 二四里 九〇方里
 瀬戸内海系

淀川 二〇里 一七〇里 七一一方里
 大和川 二〇里 不明 1
 加古川 二三里 二三里 一二〇方里
 市川 一八里 不明 1
 揖保川 一八里 二〇里 四八方里
 太平洋系

紀の川 三四里 五九里 一二四方里
 有田川 二六里 一一里 二八方里
 熊野川 四一里 七五里 一五八方里
 日高川 四一里 四六里 三八方里

淀川 は琵琶湖より發し始め勢多川と云ふ、流れて宇治川となり、山城盆地の加茂川、桂川を合せて淀川となり大阪灣に注ぐ、河口に近く新淀川を分岐し、本流は

大阪市内に入りて、土佐堀川、堂島川となり、尻無川を分岐す土佐堀川の下流は木津川、堂島川の下流は安治川にして、船津橋以下は所謂川口なり、大阪市は實に淀川の三角洲の地に形成せられたるものにして、從來は水害多かりしも今は毛馬に開門の設備と新淀川のために大阪市は水害を受ける事なきに至れり、舟筏里程百七十里に近し淀川灌漑は七十萬町歩に及ぶと云ふ。

大和川 大和の國に發し、奈良盆地の水を集め和泉、攝津の國境を劃し大阪灣に注ぐ上流に森林なきため始んと舟楫の便なし、河内平野を灌漑するのみ。

加古川 播磨、但丹の境上三國山の南麓より發し播磨東部を南流して舟楫、灌漑の便大なり、丹波地方よりは木材を出し、流域は播州米の産地なり。

紀の川 上流を吉野川とし大和國大臺原より發し、紀伊に入り紀の川と云ふ。昔は木材を出す唯一の交通路なりしも、今は鐵道の便による。

熊野川 上流は北山川、十津川の二流あり、山上岳及び大臺原附近に發す、十津川の溪谷は有名なる十津川郷にして別天地をなす、紀伊に入りて、北山川を合す北山川、溪谷は瀨入町の仙境ありて、南流して熊野灘に入る河口より本宮まで十里

瀨八町

小舟を通ず、亦上流より木材運搬路たり。瀨八町は熊野川の北山川と相合する所より北山川を遡ること約四里の處にありて河水清く深く兩岸壁立し怪山奇石深淵に臨みて幽邃閑雅なり春時紅躑躅花峭壁の間に咲き亂れて一段の趣味を加ふ。蓋し其の成因は瀧の後退によるものならむ。

湖沼

湖沼として見るべきは琵琶湖あるのみ、琵琶湖は本邦第一の陥落湖にして、周圍五十九里三十二町、東西五里二十六町、南北十六里九町、面積四十四方里にして全縣面積の六分の一を占む、湖水の最深所は三百十八尺にして湖面は海拔二百八十四尺に位す、湖中に奥の島、竹生島、多景島散在し、風景佳にして其の周圍に所謂近江八景あるは、人の知る所なり。琵琶湖の人生に影響する所頗る大なれば左に述べし。農業用として附近一帯の水田に灌漑す。又沿岸に二汽船會社ありては旅客、貨物の運輸交通に便すること至大なり一は太湖汽船會社にして、濱大津を起點として、湖水全周に到る航路を有せり。一は湖南汽船會社にして、大津紺屋ヶ關を起點として、湖南沿岸航路を有せり。近時大津、石山間にはモーターボートの交通頻繁となれり、之等の汽船は春夏の候遊覽の客を滿載せるを見る尙湖内の運輸交通に止

湖水の利用

らず、大津の北端三井寺下より湖水を引きて京都市蹴上に至る全長六千餘間の疏水運河あり、明治十八年六月工を起し、同二十三年四月に至る四ヶ年八ヶ月を以つてこの工事を竣工せしめ、長良等山に千三百間の大墜道を作り京都市蹴上に於ける、インクラインはこの工事中の名物なり、疏水によれば大津より京都へ約一時間に達し得らる。

發電

湖水を利用して發電所を設く、大なる者二あり、一は京都蹴上にて第一疏水第二疏水の兩水を合せしめ落差百二十尺あるを利用して此に發電所を設く、京都市の電車、電燈の動力はこれより供給す。今一は石山村南郷の洗堰の上流即ち瀬田川の右岸に水路を設けこの水を引きて山城國宇治町に導き、平等院の對岸に於て落差二百五尺を作り四萬馬力の電氣を發生せしむ、宇治電之れなり、電力は主として大阪、京都に送電す。

魚漁

琵琶湖は古來源五郎鮒にて有名なるも、近來鯉、鱒、鰻を放流して其の漁獲高年々數十萬圓に上ると云ふ。

海岸

日本海岸は概して出入小なしと雖も、東部には若狹灣の灣入ありて灣内は、宮津、舞

鶴の二灣に分ち宮津灣は一條の砂洲長く連りて青松を戴き所謂天の橋立の勝地をなす。

天の橋立 日本三景の一として古來人の知る所なり、府中村より宮津灣内を略々南北に突出し、長さ三十町、幅約一町の砂嘴にして、砂上には老樹、稚樹の青松ありて其の枝水に垂れ、白砂と相映じて風景絶佳なり、其の成因は波浪作用による、成相山より望むを最もよしとす。

瀬戸内海は淡路島によりて播磨灘と大阪灣とに分たれ、沿岸には須磨、舞子等白砂青松の勝地甚だ多し。紀淡海峽は東西、要塞に扼せられ、南の紀伊水道は内海の東入口をなす、紀伊半島は山嶽海に迫りて、波浪常に海岸の絶壁を洗ふ、殊に其の南端潮岬は航海者の困難とする所にして、燈臺及び無線電信局の設あり、之れより伊勢海に面する斜面は平野稍廣く沿岸概ね低平にして、瀬戸内海と共に海水浴場に適す。淡路島と四國との間に鳴門海峽ありて潮流の急なるが故に其の名著る。

鳴門 は徳島縣撫養町の北方約二里、淡路島との間僅かに十二町の間あり。昔より阿波の鳴門と稱せられ、徳島縣の部に説明するを可とすべきも、小學校教

科書には近畿地方の部にあるを以つて便宜上此に説明せんに、淡路島との間に中瀬と稱する岩礁ありて、干潮の際急激なる潮流を起し、其の兩側に渦流を生ず。其の大なるものは徑七八間に及び、小舟の通航甚だ危険なり、之れが原因は潮汐の干満により、内海と外洋との水位の差あるによる。故にこの現象の最も著しきは舊曆三月の節前後なりと、其の他四季を通じて時刻によりて相違あり。潮流の速度は普通七里乃至八里なれども、春秋の大潮には十一・二里に達することあり。

交通 本地方は、我國に於て歴史的の發達古く且つ生産多き、京都平野、奈良盆地、大阪平野等あるを以つて、交通至便にして、道路、鐵道、縱横に相通じ、海岸には船舶の往來頻繁なり、道路の重要なるものは、東海道、中仙道、西國街道、伊勢街道、北國街道、紀州街道等なり。鐵道は京都、大阪、奈良を中心として、縱横に通ず、關東地方と共に交通の頻繁なること全國に冠たり、主なる鐵道線路左の如し。

東海道線	東京—神戸間	三七六哩
山陽線	神戸—下關間	三二九哩

關西線	名古屋—湊町間	一〇八哩
北陸線	米原—直江津間	二二八哩
近江鐵道	(彦根—貴生川間)	草津線(草津—拓植間)
山陰線	(京都—大社間)	參宮線(龜山—鳥羽間)
高野鐵道	(潮見橋—橋本間)	櫻井線(奈良—高田間)
和歌山線	(王子—和歌山間)	福知山線(福知山—神崎間)
播但線	(姫路—和田山間)	新宮鐵道(勝浦—新宮間)
播州鐵道	(高砂—西脇間)	

以上の鐵道の外、電氣鐵道の交通頻繁なること全國第一にして大阪、京都、神戸、和歌山、宇治山田、大津等の都邑には市内電車縱横に通じ、之等の都市を連絡する郊外電氣鐵道多し、主なるものは左の如し。

京阪電車	大	阪—京	都間
大阪軌道	大	阪—奈	良間
阪神電車	大	阪—神	戸間

阪神急行	大	阪—神	戸間及び大阪—寶塚間
兵庫電車	神	戸—明	石間
南海電車	大	阪—和歌山間	
京津電車	京	都—大津間	

河川の交通は淀川を除くの外は舟楫の便あるものなく、琵琶湖の交通は前に述べし如し、海上の交通は大阪、神戸を中心とす、神戸は外國航路大阪は内地航路の起點又は寄港地なり、現今神戸又は大阪に寄港すべき航路に付き左に記せん。

日本郵船會社航路

歐洲航路 横濱—神戸—門司—上海—香港—新嘉坡—馬拉加—彼南—古倫母—スエズ—ポートセツト—マルセイユ—ロンドン—安土府。

香港シヤトル線 香港—マニラ—基隆—上海—長崎—神戸—四日市—清水—横濱—ビクトリア—シヤトル。

漢堡航路 横濱—神戸—上海—香港—新嘉坡—坡西士—倫敦—ロツテルダム—漢堡。

紐育航路 神戸—横濱—室蘭—桑港—バナマ—コロロン—紐育。

濠洲航路 横濱—神戸—長崎—馬尼刺—木曜島—タウンズビル—シドニー—メルボロン。

孟買航路 神戸―香港―新嘉坡―古倫母―孟買。

上海航路 神戸―長崎―上海

大阪商船會社航路

北歐洲航路 横濱―神戸―門司―上海―香港―新嘉坡―古倫母―坡西土―馬耳塞―倫敦―安土府―ロツテルダム―復航

紐育―バナマ―タコマ

南歐洲航路 神戸―門司―上海―香港―新嘉坡―古倫母―スエズ―坡西土―馬耳塞。

北米航路 香港―マニラ―基隆―上海―長崎―門司―神戸―四日市―清水―横濱―ピクトリヤ―シヤトル―タコマ。

ニューオルリヤンス航路 香港―門司―神戸―横濱―桑港―バルボヤ―クリスタバル―サンチアゴ―シエフン

ゴ―ニューオリリヤンス。

南米航路 横濱―神戸―長崎―香港―新嘉坡―ダーバン―ケープタウン―リオデジャネロ―サントス―ブノスアイレス。

濠洲航路 神戸―大阪―門司―香港―マニラ―シドニー―メルボロン。

南洋航路 大阪―神戸―門司―基隆―打狗―マニラ―サンダカン―パタビア―サマラン―スラバヤ―マカッサ―

其の他印度、支那航路あり。

東洋汽船株式會社航路

農業

北米航路 香港―マニラ―門司―神戸―清水―横濱―ホルル―桑港。

南米航路 香港―門司―神戸―横濱―ホルル―桑港―サンペトロ―サリナクルブ―バルボア―カヤオ―イキケ―バル

プライソ。

産業 播磨平野、大阪平野、伊勢平野を始め其の他の平野には米、麥、茶、菜種を産す、就中加古川流域の播州平野には良米を産し、其の質日本一なりと稱せらる、主なる農産物を表示せば左の如し。

	米産額	麥産額	菜種産額	茶産額
滋賀縣	1,130,509(石)	113,227(石)	641,885(石)	(斤)
京都府	836,792	199,476	6595	1,269,098
大阪府	1,136,450	429,455	43,271	
兵庫縣	2,101,964	92,397	9,331	189,942
奈良縣	796,058	282,341	6280	
和歌山縣	585,142	251,528	1333	
三重縣	1,293,569	340,866	76531	1,422,681

近畿地方

米の産額、兵庫縣は新潟縣に次ぎて産額日本第二位なれども、品位に於ては第一と稱せられ、灘北方の醸造米として其の聲價あり。茶の産額は京都、三重の兩縣は静岡縣に次ぎて多産なれども、品質の優良なるは京都府宇治地方に産するを第一とす。菜種は、大阪平野、伊勢平野に多く産す。

本地方は土地よく開け人口稠密にして、原野に乏しく畜業盛んに至らず、唯農耕用として、牛馬を使用するに止れども、農業盛んなる地方は牛馬の頭數多し。

兵庫縣	牛	八六四二三	馬	一〇、三一四
三重縣	牛	三五、二九四		

○兵庫縣は牛の多きこと廣島岡山の二縣に次ぎ、神戸牛とて其の名高し。養蠶業も京都府、三重縣、兵庫縣に盛んにして繭の産額左の如し。

三重縣	二七五、二八八石	二一、一四八、八七八圓
京都府	一三九、一二八石	一一、五一〇、五八七圓
兵庫縣	九九、三五九石	八、六〇九、〇七〇圓

工業は平野地方に盛大を極む、京都の美術工藝、大阪、神戸地方の機械工業は殊に著

工業

れ、織物は大阪、京都の兩府に盛んにして、帶地、紋織物、縮子(京都)縮緬(京都、峯山、滋賀、長濱)毛織物(大阪府、兵庫縣)麻布(日野、八幡)綿布(大阪府、兵庫縣、和歌山縣)綿ネル(和歌山縣)等の産あり。陶器、漆器、綿糸(大阪、神戸、四日市、津)西洋紙、燐寸(共に大阪、神戸)酒灘地方、醬油(龍野地方)鹽(赤穂地方)等の産あり。縣別紡績織物の産を示せば左の如し。

滋賀縣	(貫)	九九、三四五(圓)	(圓)
京都府	九四七、一四五	五二、三〇〇、三三八	
大阪府	二五、〇八四、六三〇	一一〇、五九、四九一	三三、八〇〇、一七一
兵庫縣	一三、八七三、九一九	二八、一五〇、一八五	一、〇六八、〇一七
奈良縣	一、七四二、四四八	八、一九三、二五	一一、五、一七五
和歌山縣	四、二六九、五八三	四三、〇二一、六七四	三、一〇二、五八五
三重縣	四、三四〇、八三五	二〇、五八七、二四三	

綿糸紡績業は大阪府第一位にして、兵庫縣之れに次ぐ、全國産額九三、六七七、九七三貫にして、本地方は其の過半を生産す。織物は大阪府第一にして、愛知、三重之れに

次々全國産額七二八、四二一、九五八圓なり。莫大小は大阪府、和歌山縣、愛知縣の順序にして全國年産額五一、二〇九、九八五圓なり。磷寸の製造は兵庫縣最も多く大阪府之れに次ぐ。

兵庫縣	二四、三六六、五〇一圓
大阪府	六、一三八、四八五圓
全國	三三、〇六八、一三六圓

大阪は本邦第一の工業地にして、化學工業大いに發達し、市内煙突林立し、煙の都、又は東洋のマンチエスターと稱せらるゝ故なきにあらず、化學工業中産額多きは人造肥料賣藥、石鹼、玻璃、鐵器等にして、人造肥料の年産額一千萬圓にして東京に次ぐ、大工場として大日本人造肥料會社は市内に三個の工場あり。藥品の製造も盛んにして、

醫藥及び賣藥	八、八四二、二七五圓
工業藥品	九、六二六、八八七圓

賣藥製造の有名なるものは森下仁丹、田口のヘブリン丸、高橋盛大堂の清快丸、安田

の胃活、谷回春堂の健胃固腸丸等主なるものにして、内地のみならず海外に輸出さる、工業用藥品としては、硫酸、硝酸等なり。

船舶の製造は大阪、神戸を最もとす、主なる造船所は

大阪	大阪鐵工所	小野鐵工所	旭造船	藤永田造船所	
神戸	川崎造船所	三菱造船所	神戸製鋼所	橋本汽船會社	鈴木造船部(相生)

備考 大正七年一月より十二月に至る一ケ年に一千噸以上の船舶を、總計五千噸以上

進水せしめたる造船所の七年度中及び八年度上半期中の造船高左の如し。

造船所	隻數	噸數(七年度)	隻數	噸數(八年上半)
大阪鐵工所	二二	一〇六、八八二	七	四五、六〇〇
川崎造船所	一六	八九、四〇〇	二〇	一一二、三一七
三菱造船所	一一	四六、四〇〇	三	一六、四〇九
浦賀造船所	一〇	四五、一〇四	四	一九、七一〇
淺野造船所	六	二一、一三九	五	三〇、二六〇
石川島造船	九	一七、八一七	四	八、九六四

播磨造船所	七	一三、五〇〇	三	一六、九三〇
藤永田造船	七	一一、七〇〇	一	二、二〇〇
横濱船渠	五	一一、二〇〇	一	
大阪造船所	八	一〇、一八八	一	

右の外八造船所あり。

西陣織

絹織物の中心地は京都にして所謂西陣織と稱せられ、其の技巧の精緻なるは他の企て及ばざる所なり。現今に於ける西陣織は錦綾、錦欄、羽二重、緞子、綸、天鷲、御召、錦紗を總稱す、この産額三千万圓以上にして石川縣、福井縣を凌駕せんとす、以上は西陣を中心とせるものにして、他に丹後の峰山を中心とせる峰山縮緬七百萬圓の産出あり。

京染

京都は染物業に於ても他の及ばざる特色を有し、賀茂の水能く染物業に適すと稱せらる。所謂友禪染とは京都の産出にして、絹布友禪染、天鷲友禪染、毛斯綸友禪染等あり、縮緬友禪の如きは最も精巧なりと稱せらる、市内の河水黒色又は赤色に變じ居るを見ても如何に盛大なるかを知るを得可し。

清水焼
粟田焼

陶器の製造も京都府に於て最も盛んに、清水焼、粟田焼の産額も年額百萬圓に達し盛んに海外に輸出せらる、陶土は主として、佐賀縣及び天草島より來る。清水焼は染付磁器にして、意匠繪付巧妙なり、歐米輸出品は珈琲具、花瓶、皿類とす、粟田焼は陶器にして、響細く、素地堅からず、近來の製品は意匠を洋風に倣ひたるもの多く、其の産出の大半は海外に輸出せらる。

林業

紀伊半島は氣候温暖、雨量潤澤なれば森林よく茂り、我國木會、秋田と共に三大美林と稱せらる、從つて、奈良縣、和歌山縣には林産多く、吉野森林、熊野森林、高野森林の名高く、高野森林は高野槇の産多く、吉野川又は和歌山線によりて和歌山に出す、吉野、熊野の森林は杉材多く、吉野川より出すを吉野杉、十津川より出すを新宮杉と云ひ、其の名高し。

林産物中木材に次ぎて蜜柑の産出多く、殊に和歌山縣の有田川沿岸に最も多し。

蜜柑年産額	ネーブル	夏	橙
和歌山縣	六、三三七、三六七(貫)	二八九、四六七(貫)	一、六四六、七七〇(貫)
奈良縣	一、〇九四、四六九	四二、六二九	一一八、五三三

大阪府 二、一一三、五四六

三二、九一八

五二七、六八三

本地方は鑛産多からず、然れども兵庫縣には生野銀山あり、近時は金、銀の産額殆んどなく、銅を産するのみなれども、朝鮮の金、銀鑛を輸入して此地にて製鍊す。

金

銀(大正七年)

銅

生野鑛山 一一、一四九夕

一、六三五、三九八夕

四、四三三、七四九夕

明延鑛山(兵庫縣)

錫 二三四、三七三夕

其の他兵庫縣家島にては亞鉛を製鍊す。

水産業は紀伊半島の近海及び伊勢灣播磨灘に多し、中にも兵庫縣の鯛(六二四、二四八圓)和歌山縣の鱈(一一五、七三二圓)三重縣の鰯(五三五、八三八圓)は産額最も多し、熊野沖には鯨の漁獲あり、水産物多き諸縣の年産額は

兵庫縣

三、八八五、二五八圓

三重縣

三、五九七、〇五七圓

和歌山縣

二、三一四、七八一圓

志摩半島には眞珠の養殖行はる、殊に名高きは英虞灣にして、主なる養殖場は

御木本眞珠養殖場

石泉養殖場

神明養殖場

村營養殖場二ヶ所

木下養殖場

眞珠の養殖に適するは四五尋の深さを最も良しとす、淺きに過ぐれば潮の温度に變化あるを以つて成績不良、若し赤潮及び寒流襲へば忽ち死す。天然眞珠は自然に貝に生じ最も貴重せらるるものにして、其の眞圓にて所謂眞珠色を呈するものは一個の價一匁に付六百圓以上とす。養殖眞珠は母貝(主にアコヤ貝)に核を入れて眞珠質を巻かしひるものなり、核は硝子又は蝶貝等にて圓く作り普通は直徑一分乃至二分五厘位のものを入れ海中に放流し三年後に至りて採取するものなり、之れを養殖眞珠と稱し其の價甚だ廉なり。

備考 人工眞珠と稱するものは、この養殖眞珠を指すものに非らず、現今行はるる人工眞珠は支那の白河天津附近に産する、ドブ貝(部の厚き貝)を球形に作り之れに化學藥品を塗りて眞珠光澤を出すものなり、化學藥品の最も多く用ひらるるは、大刀魚の生きたる内に膽を取りて之れを藥品にて溶解せしめたるものなり。

水産製造品の内に見逃すべからざるは兵庫縣の鹽にして赤穂地方は其の中心地なり。

兵庫縣 一二七、〇九一、二五九斤

都 邑 滋 賀 縣

大津市 は琵琶湖の西南岸に位し、湖に臨み長等山を負ふ、東海道線に沿ひ湖上汽船の起點なり。市の内外には園城寺、義仲寺、弘文天皇の御陵の古跡あり、園城寺は天台宗寺門の本山にして、俗に三井寺と云ふ、大津市の西北三井にあり、弘文天皇の皇子、大友與多王の創設にかゝり、展望佳なり、義仲寺には木曾義仲及び俳聖芭蕉の墓あり。古の志賀の都は市の北部に當る。春、夏の候近江八景を賞するもの此の市に集る者多し、近江八景とは

近江八景

- 石山寺の秋の月 勢多の唐橋
- 矢走の歸帆 三井寺の晚鐘
- 粟津の晴嵐 唐崎の夜雨
- 堅田の落雁 比良の暮雪

彦根町 二、四
長濱町 一、二
八日 幡野
勢多
石山寺
米原町
草津町

彦根町 は元井伊氏二十萬石の城下にして、采々園は彦根城の舊跡にして、眺望よし。琵琶湖の東岸に長濱あり、湖東第一の繁華の地たり、濱縮緬の産出を以つて有名なり、其の産額は百萬圓に達し、其の内六分は京都に送りて友禪染となる、湖東の日野及び八幡には麻布を産す、所謂江州がやは此の地方の産なり、尙此の地方は古來近江商人、日野商人の出でし地なり、湖の水は西南隅より溢出して勢多川となり、其の吐口には勢多の唐橋を架す、附近は史上に有名なり、川畔一里南下すれば石山寺あり、又風光の美あり。米原は東海道線の分岐點にして、草津は草津線の分岐點なり、昔の五十三次の一驛にして東海道、中仙道の追分たり。

備考 琵琶湖の北隅に余吾湖との間に賤ヶ岳の古戰場あり。天正十一年豊臣秀吉の柴田勝家を破りしを以つて有名なり。

大津の西北に比叡山あり、高さ僅かに八四八米、京都府に跨る、山上の延暦寺は桓武天皇延暦七年傳教大師の開基にして、天台宗山門派の本山なり、織田信長山徒の横暴なるを恐み元龜二年比叡山を焼拂へり、これより山中頗る寂寞となれり、今の建物は家光の再建せしものなりと云ふ。

姉川の古戰場は湖の東北にあり、元龜元年織田、徳川の併合軍が淺井、朝倉の軍を破り

近畿地方
し所なり。

京都府

京都市は山城盆地に開けし都市にして、四圍山を巡らし賀茂川、桂川の清流市の内外を養ふ、所謂山河襟帯の形勝の位置を占む、人口五十九萬餘にして我國第四の都會なり、桓武天皇以降千有餘年間帝都たりし處にして、市の内外には御所、二條離宮を始め、平安神宮、北野神社、知恩院、本願寺等の有名なる社寺及び名所舊跡少なからず、京都府廳、京都帝國大學、第三高等學校、高等工藝學校、帝室博物館等あり。此地は古の平安の都にして、桓武天皇の延暦十三年の奠都以來、明治二年東京遷都まで千七十五年間の帝都たり、街區の井然たる他に其の比を見ず、東京より百四十里汽車行程十一時間を要す。

備考 京都の名所舊跡に付きて述べるに市の東方に連る丘陵を東山と云ひ、西部に連るを西山と云ふ。東山の東南泉涌寺は弘法大師の開創にして、孝明天皇、英照皇太后を始め歴朝の御陵あり。東福寺は臨濟宗の五山の一にして、後庭の洗玉門に架せる通天橋は構造の奇を以つて著る又紅葉にて名高し。其の北方に三十三間堂あり、一千體の千手觀音像を置く北隣して、帝室博物館あり、東に阿彌陀峰には豐國廟あり

秀吉を祀れる豐國神社及び大佛の舊跡は博物館の北にあり、寛文二年に燬潰され文鏡となり、現在のものは、天保年間製せし木像佛なり、その北に觀音を以つて名高き清水寺あり、西國三十三番の札所たり、智恩院は洛東第一の巨刹にして、淨土宗の本山なり、鷲張の廻廊を以つて世に知らる、圓山公園及び八坂神社(祇園)その西南に隣る、南禪寺は其の北方にあり、京都五山の上に位し、臨濟宗の本山なり、琵琶湖疏水の水は其の附近の蹴上に來り、此處に發電所あり、平安神宮は明治二十八年平安奠都千百年祭に際し造營せしものにして、桓武天皇を祀る官幣大社なり、大極殿と應天門を模造せるものなり、傍に武徳殿あり。銀閣寺は足利義政の山莊たりし處、西山の金閣寺と共に足利氏榮華の遺跡たり。市の北方に京都御所あり、其の北に相國寺あり、亦五山の一にして名高し。西山には足利義滿の山莊にして、數寄豪華を盡したる金閣寺あり、北野神社は菅公を祀り、南して、仁和寺、花園の妙心寺あり、西すれば、大覺寺、醍醐寺、嵯峨の天龍寺等あり、又櫻花の名所嵐山の勝地あり、其の他市の内外には上賀茂、下賀茂神社、東四本願寺を始めとし、神社佛閣一々枚擧に遑あらず。

京都市の産物としては西陣織を初め、其の他友禪染、繻物、清水焼、粟田焼、樂焼、漆器、銅器、扇子、京雛、京白粉、京鹿子等有名なり。

近畿地方

伏見町
三、三

宇治町
〇、五

舞鶴町
一、一

新舞鶴町
一、六

餘部町
一、二

福知山町
一、六

龜岡町
一、六

宮津町
一、六

大阪市
二、二五、

近畿地方

京都市の南方一里に伏見町あり、淀川に臨める地にして、清酒の産あり、北東なる深草には第十六師團司令部を置く、伏見の東方なる桃山には明治天皇御陵及び昭憲皇太后の桃山東陵ありて、陵下には乃木神社あり、附近には桓武天皇の御陵あり、伏見町の東南奈良線に沿ひて宇治町あり、宇治川に臨み、有名なる平等院のある所に於て、宇治茶の集散地なり、附近古跡に富む。

府の北方舞鶴町は近來軍港の設けられしより人口著しく増加し、舞鶴新舞鶴餘部は三町接近鼎立し、舞鶴は商港とし、新舞鶴及び餘部は軍港として發展しつつあり、福知山は北丹交通の要地にして歩兵二十旅團司令部あり。其の他丹後の峰山には縮緬を産し、保津川の流域にある龜岡は明智光秀の居城ありし地なり。丹後の宮津町は天の橋立と共に風景絶佳なり。

大阪府

大阪市は淀川下流の三角洲上に位置し、大阪灣に臨む人口百二十五萬餘、人口よりは日本第二の都會なれども、工業、商業の發達著しく、工業、商業、經濟、交通上、南日本之首腦にして、東洋に於ける「マンチエスター」或は「煙の都」と稱せらる、市街は淀川

に跨り河は自在に船舶を通すべく、實に四通八達の要衝に當り、東洋諸國との取引益々盛大ならむとす。市の内外には工場極めて多く、煙突林立し、實用品の製作に忙はし、砲兵工廠、造幣局、第四師團司令部、大阪府廳、控訴院、府立醫科大學、高等工業學校、高等商業學校、其の他銀行、會社工場多し、名勝舊跡としては、大阪城、高津神社、四天王寺、天滿天神、玉造神社等名高し。

備考 大阪城は天正八年豊臣秀吉之れを築き十一年に成る、其子秀頼次で茲に居る。慶長十九年十一月家康來り攻む、冬の役和議成り其の外壕を埋め唯牙城をのみ存するに至る、今は師團司令部を此處に置く。高津神社は市の東部にあり、仁德天皇を祀る、市の東南に四天王寺あり、聖德太子の創建にして、荒陵山難波寺と稱す、後屢兵變に遇ひ現今の堂は文化九年の建立なりと云ふ、今天台宗に屬す。

大阪市及び附近は日本一の工業地なれば、其の産物も種々多様にして、就中綿絲織物、メリヤス類の製造は全國一にして、燐寸、肥料、藥品、鐵工業盛大に従つて商業盛んなり、但し東京と異り商品を各地方に送る卸賣商業を主とす、所謂大阪商人として其の名全國に知らる、貿易も盛大にして、神戸、横濱には及ばざれど、日本第三の開港

場なり大正八年度の貿易状況を示せば左の如し。

輸出總額	四三八、八三七、一六三圓
輸入總額	一六七、六七〇、五一九圓
輸出入合計	六〇六、五〇七、六八八圓
重要輸出品	
綿糸	六〇、六七八、八四〇圓
綾木綿	四八、六五一、〇七六圓
白木綿	一〇、五九八、一九〇圓
銅	一一、八二二、二一六圓
綿メリヤス	八、二〇一、二一一圓
眞鍮黃銅	七、六一九、〇九四圓
燐寸	六、二〇五、五九八圓
綿フランネル	六、六四七、九二二圓
鐵製品	七、〇三八、一四〇圓

精糖	一、二五一、九一八圓
清酒	一、五〇五、二三三圓
重要輸入品	
綠綿	四六、二九三、九八九圓
粗糖	九、七二五、六一一圓
鐵塊	四、四一〇、五八六圓

備考 横濱港輸出入合計	一、六八七、〇二八、二一八圓
神戸港輸出入合計	一、四八六、六三七、〇三五圓
全 國	四、二七二、三三三、七〇八圓

大阪港は輸出港にして輸入より輸出の方常に多く、輸出品も大阪輸出品として統計にある品も、船にて神戸に送り神戸港にて沖積となすもの年々八十萬噸に上る。大阪市の南方二里餘に堺市あり、大和川の吐口に位し商業頗る發達し、近時工業も亦盛大となり、緞通鐵器は古來有名なりしも、現今は東洋一と稱せらるゝセルロイド會社を始め諸種の工場増設せられたり。岸和田町其の西南に位し近時商工業

田町
〇、九

吹田町

の發達著しく、大正五年には工産額一億圓に達したり、主なる製品は綿糸、白木綿、ネ
ル生地、粗布、タオルにして之等は何れも大阪、神戸を経て海外に輸出せられ、原料品
又大阪、神戸より來る不便あれば築港擴張して開港場ならしめんとする計畫せり。
府下には其の他池田町、北部にあり池田炭、清酒の産を以つて有名なり、其の東に箕
面山なり紅葉及び瀑布を以つて有名にして、大阪人の一日清遊に適すべき名勝地
なり。大阪の東北、東海道線に沿ひて吹田町あり朝日ビール會社ありてビール製
造盛んなり。

兵庫縣

神戸市
六〇、八

神戸市 は大正九年四月一日より須磨町を合併して、最近人口六十萬餘、日本第
三の都會なり、此港はもと五港の一として、横濱港と共に最も早く開けたる貿易港
たり、其の開港は慶應二年にして今より五十餘年前に當る、當時は西部の兵庫は多
少繁盛なりしも東部の神戸は一漁村に過ぎざりき、開港以來其の發達尤も速にし
て其の隆盛已に横濱を凌ぐ、市内には縣廳を始めとし、地方裁判所、高等商業學校、海
洋氣象臺あり、名所には湊川神社、生田神社、諏訪山公園等あり、楠公戰死せる湊川は

今は商業繁華の町となれり。外國貿易は著しく發達し輸出入合計に於て横濱港
を凌駕せしも、大正八年度は生絲價額騰貴せしため横濱港よりは少なし。されど
荷物の噸數より云へば横濱港に數倍す。

輸出合計	四五七八八〇、一一三圓
輸入合計	一〇二八、七五六、九二二圓
輸出入合計	一、四八六、六三七、〇三五圓

重要輸出品

綿糸	四六、二三四、一八八圓
燐寸	二五、九八六、二八九圓
豆類	一六、九六〇、二二三圓
シーチング	一七、〇二九、七五一圓
陶磁器	八、〇六四、〇一四圓
鐵製品	九、三九六、一六三圓
麥稈、經木、真田	一二、七二三、六三〇圓

樟 腦

七、七五六、三七六圓

次ぎに位すは昆布、精腦、木材、銅塊、綾木綿帽子、鈕釦、ゴムタイヤ、地氈、ブラシ、硝子製品は何れも輸出價額五百萬圓以上なりとす。

重要輸入品

線	綿	四三六、六六三、九一七圓
油	精	四〇、七六七、四七五圓
米		四七、七六三、八八四圓
鐵	板	三五、六一四、三八四圓
鐵	銑	三四、六三三、四三六圓
機	械類	四二、二四八、五七八圓
鐵	條	二二、〇三一、二三二圓
羊	毛	二七、八〇二、四四三圓
砂	糖	一六、二九〇、四八四圓
硫酸アンモニア		一五、四三七、一八七圓

生 ゴ ム

一一、七三二、九四〇圓

其の他五百萬圓以上なるは小麥(千四百萬)大豆、硫酸曹達、麻、アニリン染料、バルブ、鉛塊、亞鉛塊等にして、本港は輸入額の多き點に於ては全國一なり又集散貨物の多きも全國一位なり、船舶の出入は横濱港より多く、長崎港に次ぐ、但し長崎港は石炭積荷のためにして、神戸港にして貯炭あらば更に船舶出入増加すべし。

入港船舶	三四一、五隻	六百六十五萬噸
出港船舶	三三二、四隻	六百六十二萬噸

(大正八年)

本港の築港は已に竣工せんとす、明治三十九年十月起工、大正十年竣工、十四ヶ年繼續、總費用千七百萬圓なり、今や大汽船も自由に築港に横付けとして荷役をなせり。其他市には、川崎造船所、三菱造船所を始めとし、憐寸工場、石鹼製造、製粉、硝子工場等ありて其の産額頗る大なり。

神戸市の西方須磨の浦、鹽屋、垂水、舞子等は白砂青松の風趣實に海内無雙なり、近時別莊地として知らる。神戸市より西方五里に明石市あり、憐寸の製造盛んなり、人丸神社、明石城址其の北にあり。姫路市は播磨の中央、市川に臨み山陽線中の要驛

加古川町
赤穂町

にして播但線を分岐す此地は元酒井氏十五萬石の舊城下にして第十師團司令部あり。姫路草、姫路木綿の産あり近時近郊に綿絲會社増設し綿絲盛大にしてメリヤス、ネル等の産あり。姫路の東方加古川町は播州鐵道の分岐點にして日本毛織會社あり。縣の西南部に四十七義士を以つて有名なる赤穂町あり鹽を多く産す、其の東、相生は近時造船業を以つて有名なり。

尼崎市
三、八

神戸の東方大阪に至る間は所謂阪神地方として交通最も便利にして鐵道、阪神電車、阪神急行電車の三條の軌道あり、近く鐵道の復々線の計畫あり、人口稠密にして工業盛大なる所多し、灘地方は古來精酒に名高く其の産額全國一なり。尼崎市は大阪に近く交通便利にして、原料品の供給を受くる便なれば諸工場多く中にも大日本紡績岸本製鋼所、製釘所、セメント會社、燐寸、硝子等の工場多く其の産額も大なり、其の製品は神戸、大阪に送りて内外各地に出す。レ
但馬の豊岡町は柳行李の産出多きを以つて有名なり、附近出石は出石焼を産す。朝來川の下流に城崎あり温泉を以つて古來有名なり。其の附近に玄武洞の奇勝あり。日本海岸山陰線の餘部には高架線あり。

豊岡町

備考 山陰本線中の鐵驛より、西一哩の地に餘部あり、鐵橋はこの村落の中空に懸りて東西の兩山を連絡する高架鐵橋にして、本邦最初のトレススル式鐵橋として、有名なり、石造の基礎を据え、鐵骨の基脚十一個を立て橋の長さは一〇一九呎にして高さ一三五呎、工費三十三萬圓にして明治四十四年二月竣工せり。

奈良縣

奈良市
四、〇

奈良市 は奈良盆地の東北にあり、古の平城京のありし地にして、古跡又多し、現今關西線、櫻井線の交點にして且つ大阪軌道の終點なり。政治交通上の一中心地にして、市内には帝室博物館、女子高等師範學校、縣廳等あり、公園は市街東部一帯の地にして、廣さ五百二十四町歩、中に春日神社、興福寺、東大寺、正倉院等の社寺ありて、我國屈指の公園なり、而して此地は歴史都邑なるが故に住民又遊覽客を相手に生計をたつるもの多く、新工業の發達著しからず、産物としては、製墨、製筆、漆器等あれども産額多からず、然れども名勝舊跡に富み大阪、京都方面より一日の遊覽に適す。
東大寺は聖武天皇の建立にして總國分寺と云ふ。大佛は其の本尊なり、これは天平年間の鑄造にして、盧遮那佛の座像なり、像の高さ五丈三尺五寸、面長一丈六

東大寺

尺面廣九尺五寸爾來二回の火災にかかり現今の頭は元祿五年の鑄造なりと云ふ。

春日神社

春日神社は藤原氏の氏神にして興福寺の守神なり、祭神は武甕槌命、經津主命、天兒屋根命、比賣太神にして、藤原不比等の創建にかかる。

興福寺

藤原氏の氏寺にして、不比等の建立にかかる、其の盛んなるや堂塔百數十を築き僧兵數千を貯へ常に春日の神木を擔ぎて甚だ横暴を極めたり、世に南都北領と云ひて之れを恐れたり。南都は即ち興福寺にして、北領とは延暦寺なり、今や數度の火災は唯僅かに一、二の殘塔を存するのみ。

正倉院

大佛前の西北に正倉院あり、天平勝寶八年六月孝謙天皇、先帝聖武天皇の御遺物を東大寺に納め、校倉を建てて藏せしめらる、これ即ち正倉院なり。藏する所三千點、珍奇の寶物多し。

法隆寺

郡山の西南にあり、推古天皇十五年聖德太子の建立せられし古刹にして、千三百年前のものなり、但し和銅年間に再建の説あれども確かならず、堂塔今尙歴然として存し、幾多の佛像、繪畫を納む。

畝傍山

奈良の南方櫻井の西南に畝傍山あり、其の東北麓には神武天皇の畝傍御陵及び西南に官幣大社橿原神宮あり、橿原神宮は神武天皇及び五十鈴姫皇后を祀る、明治二十三年の創建なり、畝傍山の東南方に多武峰あり、藤原鎌足を祀れる別格官幣大社談山神社あり、社殿壯麗にして關西の日光と稱せらる、櫻花及び紅葉を以つて亦著る。

多武峰

多武峰の南方吉野川の溪谷を隔てて吉野あり、櫻花を以つて有名なり、其の史蹟に富めることは廣く人の知る所なり、且つ源義經没落の際暫く茲に身を潜めたる、又元弘の亂村上義光父子の大塔宮の難に殉じたる、南朝の帝都たること五十年、後醍醐天皇の千秋の御恨を殘して空しく此の地に崩じ給ひたる、人をして懐古の情に堪へざらしむ、山中の吉野宮は後醍醐天皇を祀り如意輪寺には天皇の御陵あり、又當時の行宮たりし吉水院は吉水神社とて今尙存す。

吉野

奈良市の西方なる郡山町は附近に大日本紡績分工場あり、奈良盆地工業の中心地にして、金魚の名産あり、丹波市は天理教本部の所在地なり、縣の東北境に近き月の瀬は梅の名所にして、笠置山は後醍醐天皇の行在所のありし所なり。縣の南方十

郡山町

津川の上流東西七里南北十三里の間を十津川郷と稱し、五十餘の部落あれども人煙稀れにして、往古南朝の遺臣來り住み別天地をなすと云ふ。

和歌山縣

和歌山市
八、三

和歌山市 は紀の川吐口の南岸にあり、縣廳の所在地にして、工業、商業盛大なり。此地の産なる綿フランネルは所謂紀州ネルにして、其の販路は内地は勿論、東洋諸國に輸出せられ、其の産額多し、其の他白木綿を産す。この地舊徳川親藩の置かれし處、その城址今や開かれて公園となれり。

和歌の浦

新和歌の浦

黒江町
九、可

和歌山の南方一里に和歌の浦あり、和歌山との間に電車通じ、入海ありて砂洲其の前面に横はり、名草山後に控へ、風光絶佳の名世に高し、根上り松、鹽竈神社あり、聖武天皇嘗て、此地に遊覽して明光浦の名を賜ふ、玉津島神社あり、和歌の神として古より崇敬せらる、名草山中腹に眞言宗の紀三井寺あり、西國三十三番の札所たり、近時和歌の浦の西方斷崖海に壁立せる處を開きて、新和歌の浦と呼び風光の美盡さず。黒江町は和歌山より電車の便あり、黒江漆器を出すを以つて有名なり、其の品多くは内地用の實用的製品にして、産額の多きこと全國一なり。縣の東南隅熊野川の

新宮町
三、三

那智瀧

潮岬

四日市
三、五

吐口に新宮町あり木材の集散地なり、上流地方より筏となして新宮に集る。主なる木材は杉にして所謂新宮杉の名高し。此の町は木材の集散によりて繁盛となりたる町にして、木材は主として大阪方面に送らる。附近に那智の瀧あり、我國第一の大瀑にして、高さ八十四丈(或は五十丈)幅十八間實に壯觀なり、古來人に知らるる熊野三社は新宮、本宮、那智の三箇所に鎮座あり、其の他有田川の沿岸は蜜柑を産す、種類としては温州、本蜜柑、八代、夏橙、ネーブル、オレンジ等あり。産地は有田川、紀の川の兩沿岸に多く就中有田蜜柑の名世に高し。年産額百五十萬圓に及ぶ、南方潮岬は燈臺及び無線電信局あり、熊野沖は波高く捕鯨盛んなり、年産額七八萬圓に至る。捕鯨區域は熊野河口より三十哩乃至六十哩の地點にして、大抵十月より翌年四月迄に行はる。

三重縣

四日市市 は伊勢灣に瀕する港市にして北伊勢第一の都會たり、陸には關西線、三重鐵道、四日市鐵道通じ、水陸の交通實に便利にして、横濱、神戸へ定期航海あり、外國航路の船舶も寄港するものあり、交通の一部を見よ。

大正八年貿易狀況

輸 出	三、六三二、五六七圓
輸 入	五五、四一五、五八六圓
合 計	五九、〇四八、一五三圓

輸出は米、茶、蜜柑等にして、輸入は豆類、其の他穀類多し、附近亦綿糸工業盛んにして萬古焼を産す。參宮鐵道は龜山より分岐して、一身田に至る、一身田は眞宗高田派の總本山専修寺あり。

津市 は縣廳の所在地にして伊勢灣に臨み、東洋紡績會社分工場あり綿糸業稍盛んなり。上古三津の一にして、舊幕時代には藤堂氏の城下たり。附近の海岸は有名なる阿漕浦なり。參宮線に沿ひて南すれば松坂町あり、國學の泰斗本居宣長の出生地にして其の書齋所謂鈴の家の跡も残り。松坂城は蒲生氏郷の築きし處、附 近松坂木綿の産を以つて有名なり。

宮川に近く宇治山田市あり、伊勢大廟あるを以つて知らる、邦人の尊皇心敦く一層繁昌を來す。内宮は宇治にあり、外宮は山田にあり、山田驛に下車すれば五町にし

津市 四、七

松坂町

宇治山田市 三、九

内 宮

て外宮あり、内宮は之れより一里餘を隔つ、市には徵古館、神宮皇學館等あり。

内宮は宇治にあり天照大神を祀る、垂仁天皇の朝大和笠逢邑より此地に移さる。社前には老杉立ち籠めて森嚴を加へ、建築は外宮と同じく檜の白木の神明造にして、唯千木の尖頭を外宮は外に内宮は内に開け、鯉木の數も外宮は九、内宮は十の差あるのみ。二十年毎に改築せらる。

外宮は山田にあり豊受大神を祀る、雄略天皇の御代、丹波眞名井原より移し奉れり、老杉蒼々として天日を蔽ひ、實に境内幽邃森嚴なり、豊受大神は伊諾彗神の第二十五子なる稚産靈神の御子にして女神にましまし農桑の御神たり。

兩者共古來伊勢詣りとして老若男女參拜者多く、大正六年には外宮百五万人、内宮九十萬八千人の參拜者ありたり。

宇治山田市の東方に二見の浦あり、海中に夫婦岩あるを以つて有名なり、岩は輝岩にして、太平洋の激浪浸蝕して、此の形狀をなせるものなり、伊勢神宮に參拜するものは必ず此に來りて日出を拜す。二見の浦の東南參宮線の終點に鳥羽港あり、無線電話、商船學校あり、風光絶佳なり、港頭には岩礁多く出入甚だ危険なり、港頭の日

外 宮

二見浦

鳥羽港

上野町
桑名三町
明野原

近畿地方

一五〇

和山は展望實に佳なり。志摩の南方英虞灣には眞珠の養殖盛んなり。其の他主要都邑には伊賀に上野あり伊賀盆地の中央にあり、藤堂氏の外城たりし地にして、伊賀の商業の中心地なり、伊賀焼の産あり、伊勢の北方の桑名は米の取引盛んにして、昔東海道五十三次の要驛なりき、此より船にて熱田に渡りしなり。宇治山田市の附近明野原には陸軍航空隊射撃班を設置せられたり。

中國地方

區分 中國地方の區分左の如し。

山脈

縣名	面積(方里)	人口(大正八年)	國勢調査	戸數	管轄區域	縣廳所在地
岡山縣	四、七七	一、二七、四〇〇	一、二七、六三三	二五、二二八	美作、備前 備中	岡山市
廣島縣	五、七七	一、六九、四〇〇	一、五四、八七六	三三、二五三	備後、安藝	廣島市
山口縣	三、九四	一、〇六、九〇〇	一、〇四、九七九	二五、四七三	周防、長門	山口町
島根縣	四、九〇	七六、六〇〇	七四、六九九	一五、二二六	出雲、石見 隱岐	松江市
鳥取縣	二、四二	四五、九〇〇	四四、六七三	八、四八五	因幡、伯耆	鳥取市

地勢 本地方には稍北に偏し、略東西に走る中國山脈ありて、山陰、山陽の分水嶺をなし、西は長門より起りて秋吉臺を造り、東に進み寂地山(一三五七米)船通山(一二二米)其の他各地に三國山を起し、氷山に至りて、標高一六五〇米の最高點をなし、遂に丹波高原に連り近畿地方に入る。而してこの中國山脈は花崗岩より成れるもの多し。この山脈と略平行して其の北部を東西に走る白山火山脈あり、其の起

端は加賀の白山附近に在りて、近畿地方の北部に通じ中國地方に入り大山三瓶山を起し更に九州に入る。

大山 伯耆の中央に高く聳ゆ、白山火山脈に屬する死火山にして其の頂上の最高峰を御山と呼び高さ一八一五米に達し、山陰、山陽第一の高峰なり。西方より見れば其の形芙蓉峰に似るを以つて一に出雲富士又は伯耆富士の名あり。其



の山麓は傾斜緩にして所々廣漠なる裾野を開くを以つて牧畜に適し、軍馬育成所の設あり、又例年牛馬の糶市を開く。山腹に大神山神社、大山寺あり夏期登山者踵を接す。船上山 大山の北東に立てる山脈の盡頭に於て、大山火山の一部をなす、其の北麓は亦廣き裾野にして牧畜に適す。元弘三年二月後醍醐天皇隱岐國より當國御來屋に還幸し給ふや名和長年此の山に迎へ奉り御座を設け

て行在所とす、其の跡は今尙西方にありて史上有名なり。

三瓶山 は標高一二二七米にして圓頂を出雲、石見の境上に擡ぐ、白山火山脈に屬する山勢雄渾の一秀峰にして、伯耆の大山と共に死火山なり。山は子孫男、女日影、大平山の諸峰相連り火口壁をなす、中にも男三瓶は最も高峰なり。裾野は東西に二平野を開き牛馬の放牧に適す。

備考 山口縣の秋吉臺は所謂石灰岩臺地にして、水のために浸蝕されたる大鐘乳洞あり、洞穴奥行八町餘洞口の高さ數百尺あり。

河流は地形によりて瀬戸内海及び日本海の南北兩斜面に流るれども、中央に山脈ありて分水嶺をなすを以つて大河なし。瀬戸内海に注ぐ主なる川は左の如し。

河名	舟筏里程	本川流程	灌域面積
旭川	二一里	三七里	一一二方里
吉井川	三一里	三五里	一三二方里
太田川	四〇里	三〇里	一〇三方里
高梁川	四一里	二八里	一六一方里

中國地方

岩國川 二一里 三二里 五一万里

旭川は源を美作に發し高田川となり、流下して旭川と稱し三幡港に至りて兒島灣に入る。落合町より下流は舟漕の便あるも、土砂を流して河深減じ屢々水害を起すことあり。

太田川は一名八木川と云ひ安藝の北境に發して、南流して安藝の中央部を過ぎ、廣島市の北端に於て左右の二派に分れ、更に分派して海に入る。此の灌漑地境を廣島平野と稱す。

日本海に注ぐものには

河名	舟筏里程	本川流程	灌漑面積
日野川	一四里	一九里	五八方里
江の川	五一里	五〇里三二町	二四七方里
千代川	一三里	一三里	七五方里
斐伊川	三九里	二二里	九九方里

江の川は中國第一の長流にして上流を三次川と稱し安藝の東北部を流る。吉田

川、樞田川、門田川等が三次町の盆地に會し、再び西北に向つて、日本海に入る。長さ五十里餘にして三次町以下舟を通ず。三次町附近は諸川の會する所霧多く所謂霧の海の現象を起すを以つて有名あり。

斐伊川は上流を横田川と謂ひ、源を船通山に發し北流して宍道湖に入る。出雲大川或は簸の川と稱せられ、此の川上は上古素盞鳴命が八岐大蛇を退治して、叢雲の劔を得たまひし處として史上に有名なり。

湖沼は宍道湖及び中の海あるのみ。宍道湖は出雲北岸の一大淡水湖にして、東西四里、南北一里半、周圍十二里十二町、西に斐伊川の流れを受け、東に六橋川、北に佐陀川の吐口を以つて中海に通ず、鯉、鱈、白魚を産するを以つて有名なり。

中の海は一種の澤湖にして島根半島と夜見の濱の砂嘴とを以つて圍まれ、東西五里、南北四里、周圍十六里十一丁、我國第四の大湖なり、島根半島、夜見濱との間僅かに數町の中江瀬戸によりて美保灣と通ず。

海岸線は山陰と山陽との兩面を比較する時は甚しき相違あり、南面なる瀬戸内海方面は、中國四國の兩山脈に行はれたる陷落作用に由り所謂瀬戸内地溝帯なるも

のを造れり、而して其の殘片は數多の島嶼となり、或は岬をなし半島を作り出入屈曲に富み海波と翠松とは相映して天然の美をなし瀬戸内海の景勝を描出す。之れに反して日本海岸は頗る單調にして海面廣濶なるのみ、唯島根半島突出すると隠岐島の散在するを以て、其の間に僅少なる屈曲を有するに過ぎず、爲めに風波荒き時は航行容易ならず、人文の發暢は之れによりて大いに妨げらる。

瀬戸内海 播磨灘を西に過ぐれば兒島半島南に突出して、備讃海峡の狹長なる水道によりて、讃岐に對し西水島灘及び備後灘に連り、北に兒島灣を抱く、此の半島は所謂地溝帯の殘片たる一島にして、其の頸部には歴史上有名なる藤戸の渡あり。而して半島の南端なる宇野港は中國、四國の連絡上の要津にして、高松へ一時十分間を以つて航すべし。水島灘には鹽飽諸島相連り、沿岸には玉島、笠岡、鞆等の良泊あり。其の西には尾の道、糸崎、三原、忠海、竹原等の佳港あり。この海面には大小無數の島嶼羅布して附近一帶は内海中風光尤も佳趣ある處なり。航路は南は來島海峡を北は音戸瀬戸を以つてす。廣島灣は中に江田島、大島及び日本三景の一なる嚴島横はりて、灣の東に吳軍港、北に宇品港あり。吳軍港は

農 業

内海の重鎮なり。室津半島は其の西に突出して柳井津、室津の小港を作る、以西は島嶼稀にして開濶なる周防灘を湛へ、海岸丘陵相連り砂濱之れを縁取り小出入多く徳山及び三田尻は共に此の地方の要津にして、壇の浦は史上に名高く九州門司岬との間は、尤も狭き水帯をなし、早鞆海峡によりて西響灘に連接す。此の間彦島の横はるありて大瀬戸、小瀬戸の二つに分たる。最も狭き所は六百三十米にして要塞を設け守備を堅固にす。

氣候 瀬戸内海方面は氣候温和にして雨量も亦少し、之れに反して日本海方面は冬季雨雪多く、海上風波荒し、従つて内海方面は産業發達し都邑多きも日本海方面は何れも之れに及ばざるなり。

産業 農業は瀬戸内海方面には最も能く發達し米麥の産大なり。

米産額(大正七年)

麥産額

鳥 取 縣	五七三、五八五石	一三五、九二五石
島 根 縣	九五九、三四八	一六〇、一三六
岡 山 縣	一、五二〇、九一五	八八五、〇五〇

廣島縣 一三一四、八五〇 六九五、〇一五
 山口縣 一二五二、一四二 四七一、四五四

就中岡山、廣島、山口の三縣は米の産額尤も大に、其の品質良好にして備前米、防長米の名は世人の熟知する處なり。麥は岡山縣、廣島縣に最も多く産す。藎草は三備地方に盛んに作られ、大麻は三次盆地、島根地方に、綿は廣島、鳥取二縣に栽培せらる。この外岡山縣より藍及び薄荷を産す。

藎草 岡山縣 三、三七八、〇〇〇貫
 薄荷 岡山縣 五五二、二四九圓
 藍 岡山縣 四九、六四九圓

此の地方は牛の飼養盛んに行はる。廣島、岡山、島根の三縣殊に盛んにして、廣島縣には畜産試験場支場(七塚原)の設けあり。又大山の裾野には軍馬補充支部の設けありて、馬の牧養盛なり。

牛 鳥取縣 四六、〇五三頭 二、五九七頭

牧畜

水産業

島根縣 六七、九〇六頭 五、一二五頭
 岡山縣 八六、九七〇頭 七、八八〇頭
 廣島縣 九五、三八〇頭 一〇、〇〇三頭
 山口縣 六一、七〇五頭 二、二一四三頭
 全國 一、三〇四、三三一頭 一、五一〇、〇七五頭

牛の頭数は廣島縣は全國第一位にあり。沿岸には漁利多く、鰹(隱岐)、鯛(内海沿岸)、牡蠣(廣島灣内)等有名にして、山口、廣島縣よりは朝鮮近海に出漁するもの多し。

鯛 山口縣 八九二、六一二圓 一九四、二三三圓
 廣島縣 四八二、六七五圓 二、五六八圓 一七四、九六一圓
 岡山縣 九五、三八三圓 一 二〇、四二九圓
 島根縣 三七七、七六六圓 四四五、八八六圓
 鳥取縣 五七、六三七圓 五六、三三二圓

山口縣の鯛は日本一にして、島根の鯛の産額は北海道、長崎に次ぐ。廣島縣の牡蠣は佐賀縣と共に有名なり。

山口縣の遠洋漁業 此の縣は三方海を環らすを以つて、漁業盛んに朝鮮近海、東支那海方面に出漁するに便なるより、年々其の漁獲高百萬圓以上に及ぶ。出漁方面は日本海沿岸、朝鮮、關東州沿岸を初めとして、遠く臺灣沿岸、堪察加沿岸に及び大正六年に於て出漁船四七二隻、人員二三八二人、漁獲高百二十五萬圓に達したり。

瀬戸内海の沿岸は製鹽業盛大にして三田尻、松永、味野は各其の中心地なり。

反別(町) 製鹽高(斤)

三田尻(專賣局區内)	九一四、六	一六五、八七一、五四二斤
廣島(同)	七〇一、三	一二五、二八七、四二六
岡山(同)	四五六、六	九六、二五〇、八四五
備考 阪出	三二九、一〇二、七二六斤	
赤穂	一二七、〇九一、二五九斤	

工業

全國の製鹽高は一、〇一二、〇一九、七八七斤にして阪出、三田尻、赤穂の順序とす。工業は内海斜面の三縣に盛んにして、綿絲(岡山縣の岡山、倉敷、玉島、廣島縣の福山、廣島)疊表、莫産、莞筵以上は岡山以西の各地を産す。

岡山縣 綿絲製造高 七、四九六、〇九六貫
廣島縣 三、四七七、九八〇貫
従つて岡山縣には綿織物一九、六八三、七二九反を産す。疊表は廣島縣第一、次ぎは大分縣にして岡山縣は之れに次ぐ。

廣島縣	二、四一六、二八九圓
岡山縣	一、三八二、四六二圓
備考 大分縣	二、二五〇、〇九四圓
莫産及び花筵も岡山縣第一にして、福岡、廣島之れに次ぐ。	
岡山縣	一、九一一、四一二圓
廣島縣	七九三、八九〇圓
備考 福岡縣	八〇五、三三〇圓

麥稈眞田及び經木眞田は島根縣最も多く、廣島、山口縣之れに次ぐ。大正六年の産額左の如し。

島根縣	二、二四三、五八四圓
廣島縣	五八七、一六八圓
山口縣	一一一、三九三圓

鑛産多からざれども銅(吉岡、帶江、大森、寶滿山)銀(大森)石炭(大嶺)を産す。この外島根、鳥取、廣島の三縣よりは砂鐵を多く出す。

帶江	三、一八九、九一九匁	二八、二三四匁	一、三七三、九六四匁
吉岡	九〇三、四二八匁	—	—
水島	四、二七四、九六八匁	—	—

帶江は金、銀の産額は日本第九位にして銅の産額は第十位なり。山口縣の大嶺炭田に産する石炭は殆んど無煙炭に近く、之れを徳山に送りて海軍煉炭所にて煉炭として海軍に使用せらる。

交通 鐵道は内海方面には、山陽線ありて、瀬戸内海に沿ひ西走し幾多の支線を有す。山陰線は之れと平行して、日本海岸を走り小支線あれども南北の連絡は未だ充分ならず、主なる分岐點は岡山、海田市、米子等とす。線路は左の如し。

山陽本線	神戶—下關間	三二九・三哩
宇野線	岡山—宇野間	二〇・四哩
宇品線	廣島—宇品間	—
中國鐵道	港井—津山間	四八・八哩
大嶺線	厚狹—大嶺間	一一・二哩
吳線	海田市—吳間	一一・四哩
山口線	小郡—徳佐間	三一・〇哩
山陰本線	京都—石見江ノ津間	二二四・七哩
倉吉輕便線	上井—倉吉間	二・五哩
境線	米子—境間	一一・二哩
大社線	今市—大社間	三九・四哩

海上の交通は瀬戸内海方面に汽船の往來頻繁なれども日本海方面は稍不便なり
主なる航路は左の如し。

大阪山陽線 大阪―神戸―阪出―高松―多度津―鞆―尾道―糸崎―忠海―竹
原―阿賀―音戸―吳―宇品―宮島―岩國―久賀―柳井―室津―三田尻―新
川―下關―門司着(大阪商船會社)

大阪山陰線 大阪―神戸―阪出―今治―高濱―下關―仙崎―萩―須佐―江崎
―濱田―温泉津―杵築―境―米子―安來着(大阪商船會社)

海底電線は下關、釜山間、下關、巨濟島間、元山、松江間、隱岐、出雲間の四線あり、無線電信
局は下津井(岡山縣)、角島(山口縣)にあり。

都 邑 岡 山 縣

岡山市 は旭川の下流に跨り岡山平野の中部に位し、中國第三の大都會にして、
池田氏三十一萬石の舊城地たり、今第六高等學校、岡山醫學專門學校縣廳あり。鐵
道は東西に通じて中國鐵道も亦起點を此の地に發し津山町に達す。商工業盛大
にして紡績、花菴、米穀の取引盛んに工場亦附近に多し。市外に第十七師團司令部

岡
山
市

津
山
町

笠
三
字
味
下
津
井
野
野
石
三
司

あり、岡山城は今は只天主閣のみ雲表に聳ゆ、後樂園は市の東北隅にあり、日本三公
園の一として世に知られ、林泉の美、園地の景に富めり。

後樂園 は池田綱政貞享四年に始めて開きたるもの、驛より十六町面積三萬二
千坪あり。元御茶屋敷と稱せしが明治四年始めて後樂園と改め、七年に及びて
池田侯の所有より移して、公園となすに至れり。

津山町 は森氏の舊城地にして美作の中央津山盆地にありて美作の中心市場
なり。今は中國鐵道の終點にして、商業繁盛に足袋を産す、ボール紙も亦この地の
特産なり。

玉島町 は川邊川の川口に位し、四國多度津との交通の衝に當り、港内水深く北
に灣入し、備中第一の要港にして綿絲、疊表、花菴、麥稈、眞田の製造盛んなり。

其の他笠岡は備中の要津にして、麥稈、眞田を製し、三石は耐火煉瓦及び蠟石に名高
く、宇野は四國との連絡上重要なる地なり、味野の南方下津井には無線電信局あり。
院の庄 美作國院の庄村にあり。元弘の昔後醍醐天皇隱岐行幸の途次の行在
所にして作樂神社(縣社)は明治二年の創立にかゝり後醍醐天皇を祀り、兒島高德

を合祀す。境内櫻樹多し。此地を行在所となすは疑ふりと稱するものあり。

廣島縣

廣島市 一六〇市

廣島市 は有名なる大田川の下流の三角洲上に立ち、宛然中國の大阪たり。東京より二三〇里にして中國第一本邦第八の都會にして、縣廳、控訴院、高等師範學校、高等工業學校、第五師團司令部あり。司令部は舊城内にありて、明治二十七八年戰役の際には此處に大本營を置き給へり。此の地は古來中國の重要な位置を占め陸海交通便利なれば商工業繁盛なり。今や門司及び吳に其の繁華を奪はれたる感あるも、陰陽連絡鐵道完成の曉には、其の發達亦見る可きものあるべし。殊に宇品港あるを以つて、日清の役以來軍事上重要な都會となり軍隊輸送の中心地となれり。宇品港は今廣島市の一部となれり、日清、日露の役近くば青島、西比利亞に對する軍隊輸送港として、其の名高く四國內海航路の要津なり。

吳市 一三〇市

吳市 は第二海軍區の軍港にして鎮守府あり。往時一漁村に過ぎざりしが、明治二十三年軍港とせられ爾來年々隆盛に赴き將に廣島市を凌駕せんとする勢あり。西南なる江田島には海軍兵學校あり。

宇品港

尾道市 二、六
糸崎港

尾道市 は花菱、肥料等の集散多く、瀬戸内海屈指の商港にして、四國往來の要地なり。糸崎港は開港場にして、神戸税關支署、海務署、米國スタンダード石油會社の油倉庫あり。大正七年度輸出入左の如し。

輸 出	三、八八一、八四九圓
輸 入	三、〇一一、〇七四圓
合 計	六、八九二、九二三圓

福山市 は阿部氏の居城たりし所にして、芦田川の下流にあり。歩兵第四十一聯隊の所在地にして、紡績製糸の事業盛大に行はれ尾道に次ぐ名邑なり。福山市の西南三里にあり、福山より輕便鐵道通じ海陸交通に便にして、史上に著はれ、保命酒は此地の名産なり。

嚴島 は東西三十町南北二里半、地清く樹木美しく、日本三景の名に背かず、島内名所舊跡數多く、嚴島町は人口五千ありて明治四十二年より町制を布けり。島の北端に嚴島神社あり、對岸宮島驛より連絡船十五分を以つて此の地に達す。

嚴島神社 官幣中社にして祭神は市杵島姫其の他五神を合祀す。社殿は全く

海中に基礎を立て満潮の時は水上に浮びたるが如し。有名なる大鳥居は創建
詳かならず、廊嘴(舌先)を距ること七十間の海中に建つ、柱高四丈四尺五寸、總高五
丈三尺三寸上棟長七丈七尺一寸四分、東柱下端周圍二丈七尺五寸、西柱下端周圍
三丈三尺五寸、兩柱距離三丈五尺八寸。

其の他三次町は山間の一名邑にして、忠海には重砲兵ありて附近は要塞地帯なり
加計、可部の地方には山藨を産し、可部の牛市は有名なり。

備考 廣島縣は海外出稼人の多きこと、全國府縣中第一にして、四萬三千人の出稼人
より年に三百五十萬圓以上を送金し來るといふ。

山口縣

下關市 は中國地方の最西南端、下關海峽の北岸にあり。南岸の門司と相對し
て瀬戸内海の西口を扼し、形勢天與の地點を占む。東は壇の浦、西は彦島に連り、我
が主要の開港場たると共に軍事上樞要の地たり。市の南方に終端驛を置き、連絡
汽船によりて釜山へ十一時間、門司へは十五分を以つて達するを得。大正七年に
於ける貿易額は左の如し。

三加忠
次海計部

下關市
七、二

輸 出	六、四二八、一三九圓
輸 入	一〇、九五二、九五五圓
合 計	一七、三八一、一九四圓

輸出品の主なるものは、汽船綿絲、白木綿、生金巾、シーディング等にして、輸入品は豆糟
粗糖、小豆等なり。此の地に重砲兵第二旅團司令部ありて、砲臺砲壘の設けあり。
産物として赤間關硯石有名なり。市の東部には赤間宮及び近世史上に有名なる
春帆樓あり。

赤間宮 市内阿彌陀寺町にあり、明治維新後神社として官幣中社に列せられ安
徳天皇を祀る。隣して安徳天皇の御陵あり。
春帆樓 阿彌陀寺町の北方山麓にある旅館にして、明治二十八年四月日清役講
和條約締結の際、全權大使伊藤博文、陸奥宗光が、清國大使李鴻章と會見したる場
所なり。

壇の浦 下關海峽東口の北岸大略早鞆海峽の東北より滿珠島に至る一體の總
稱にして、近頃は特に龜山近傍を壇の浦と云ふが如し。文治二年平家一門讚岐

より敗走し來り、源範賴、義經と此處に戦ひ遂に亡ぶ。故に附近には舊蹟多し。

備考 下關とは室積の對岸なる上の關、三田尻の西南にある中の關に對する名にして、本名は赤間關と云ひしなり。

防府町
二、五町

防府町 は一名三田尻と稱せられしが、佐波村を合併して防府町と云ひ、陸運、海運共に至便にして周防第一の良港なり、舊時は毛利氏支藩地たり、製鹽業盛んにして内地第二の産額を有す、大正六年には一億六千五百八十萬斤に及べり。

徳山
一、七町

徳山 は徳山灣に臨み水陸の便よく中國航路の寄港地なり。又海軍煉炭所ありて、大嶺の炭田より石炭を運びて此處にて煉炭せらる。

山口町
二、九町

山口町 は縣廳の所在地にして、高等商業學校、高等學校あり。此の地は山口盆地の中央にありて三面山を以つて圍まる。戰國時代大内氏の根據地として、大繁榮を極め其の後毛利氏の居城地たりしが、地勢上優良の地ならざるが故に近來の發展著しからず。

萩
一、七町
角島
一、七町
柳井津
一、二町

其の他、萩は日本海岸地方の名邑にして、萩焼、夏橙を産す。西方海中の角島には無線電信局あり。周防の岩國には有名なる錦帯橋ありて、縮、蚊帳を産し。柳井津は

小野田

島

要津にして醬油を産し。下關海峽に近き小野田よりはセメントを産す。下關海峽の彦島には鈴木商店の亞鉛製鍊所あり。

備考 本縣も海外に移住するもの頗る多く二萬二千人に及び、其の送金年額二百萬圓に及ぶといふ。主なる移民地は北米合衆國、布哇、秘露、比律賓等なり。

島根縣

松江市
三、七町

松江市 は宍道湖と中の海との間の狹長なる地頭に位し元松平氏の城市にして山陰第一の都會、歩兵第三十四旅團司令部あり、羽二重、八雲縮、八雲塗、瑠璃細工、布志名焼等を産す。市の中央に大橋川流れて宍道湖と、中海との交通を連絡す。市街は宍道湖の水を一眸に集め、東方遙かに伯耆の大山に對し、西方遠く三瓶山を望み、山色水景共に頗る美なり。京都より鐵路九十五里あり、濱田町は日本海の良港にして船舶輻湊し、商況盛んなり、歩兵第二十一聯隊この地に衛戍す。杵築町は出雲平野の西北部、彌山の山麓に展開せる市街にして、官幣大社出雲大社は本邦最古の神社にして、大國主命を祭れるを以つて世に知られ、賽者絶へず。

出雲大社 は町の北隅に在り、大鳥居を過ぎ小坂を下れば老松道を挾んで長く

大森
隱岐

連り、八雲山其の後に屹立し神域を峻嚴ならしむ。司官を國造家と云ひ千家北島兩男爵なり。拜殿は永正十六年尼子經久の建立なり。本殿には大國主命を祀る。所謂天日隅宮にして本邦初期の建築法になる不均齊式の構造なり、其の高さ八丈ありて、他に斯る神殿を拜するを得ず。又攝社末社相並び日本一の大社なり。例祭は毎年五月十四日參拜者年平均三十萬人に及ぶ。

大森 には銀山あり徳川氏時代盛んに採掘せられ有名となれり。

隱岐 には出雲の西北約二十里の海上にある一群の火山島にして、四郡に分ち、島廳を西郷町に置き島司之れを治む。三島鼎立せるを島前と稱し其の北東にありて最も大なるを島後と呼ぶ。面積約二十二方里にして人口三萬六千餘、島後の西郷は良港にして伯耆の境港より定期航路あり、島前の西の島なる黒木村には、黒木御所趾あり、後鳥羽上皇行在所の遺跡は中の島にあり。

黒木御所 元弘二年後醍醐天皇此に遷幸し給ひ、此の地に行在所を設けらる所、謂黒木御所とて今は此所に黒木神社を建て後醍醐天皇を祀る。但し黒木御所の位置は不明にして、大日本史、大平記等には國分寺を以つて行宮と記しあり。

鳥取市
二、九

出雲を距る西北一〇八哩に竹島あり、島根縣の所管にして日露の役、日本海を戰によりて著名となれり。

鳥取縣

鳥取市 には山陰第二の都會因、伯二州政治上の中心にして、縣廳の所在地たり。此の地は池田氏三十二萬石の城下なりき。一時衰運に赴きしが今や鐵道開通してより商況稍活潑となれり、歩兵第四十聯隊あり。海柳(白珊瑚と稱す)細工、因幡紙を産す。

米子町
二、二

鳥取市を去る二十五里餘、町は夜見濱の基脚部にあり。市街の西端は中海に瀕し海陸交通の便あり。山陰中最も發展の急激なる地とす。附近に鐵道院鐵工所、久山製鐵所あり、商工業盛んなり。

境港

境港 には山陰道唯一の貿易港なりしが、鐵道開通以來陸運も亦大いに開けたり。朝鮮、大阪、隱岐に定期航海あり、又内海航路は松江、美保關等の間約一時間毎に小汽船の往復をなす、米國より石油、朝鮮滿州より豆粕を輸入す。

夜見の濱

夜見の濱 には東西一里弱、南北四里餘の一大砂洲にして、白沙青松風光明媚なり

嶺上山

半島中には唯一の粟島山と名付くる小山あるのみにして、他は田園遠く開けて蒭産地の中心地たり。之れが成因は日野川の流す小砂が東北風に沈澱せるものにして一大圓孤を畫く今尙年に數尺の土地を増しつゝあり。

大山の東北に聳ゆる高さ九百七十四米の山にして、元弘の昔名和長年後醍醐天皇を迎へて義旗を擧げし所なり。御來屋附近には名和神社あり。大山の麓には軍馬育成所支部あり倉吉には木綿を産す。

四國地方

區分	面積(方里)	人口	國勢調査人口	戸數	管轄區域	縣廳所在地
徳島縣	二七九六	七三、八〇〇	六七〇、三一九	一三〇、六三二	阿波	徳島市
香川縣	二九、六五	六九、五〇〇	六七八、二二七	一三三、〇九九	讃岐	高松市
愛媛縣	三六、五〇	一、一〇四、六〇〇	一、三三三、三七一	二四、八八七	伊豫	松山市
高知縣	四九、五六	六九、三〇〇	六七〇、八九三	二九、二五二	土佐	高知市

地勢 四國山脈は本島の主體をなし、西端佐田岬半島に起り、之れより北東に漸進して石槌群山を觸起せしむ、脈中の高峰石槌山は二三五〇米の高さに聳え、更に中部に於て瓶ヶ森(一九五六米)笹ヶ峰(一八二〇米)を起し伊阿土の國境に於て、三傍示山となりて吉野川の横谷を作り、之より東に於て黒笠山(一八一〇米)を起してより漸次低下して徳島平野に没す。

石槌山 は四國の殆ど中央に屹立し、伊豫の高嶺とも稱し、劍山と共に四國の名山なり。山嶺には縣社石槌神社ありて石土毘古神を祭る。灼然上人の開基と

云ふ。夏時白衣の賽者頗る多く、賽路數多あれど、何れも險坂鐵鎖に倚りて登山す。山頂濶達眺望絶佳にして四國第一と稱せらる。讃岐山脈 四國山脈の北に並走し、西は松山市西南に於て起るも、高峰なく斷續して東進し、燈灘沿岸に於ては平野に入り、更に吉野川縦谷の西端に至りて再び崛起し、吉野川北岸を走り遂に鳴門海峡に没す。



劔山山脈 四國山脈の南に東西に走る山脈にして、東は徳島の南方に起り山勢次第に險峻となり西進して豊後水道に達す。その主峰劔山は二二四八米の高きに聳え、四國第一の高峰にして山姿甚だ秀麗諸川之れより發す、絶頂には大劔岩、小劔岩、寶藏岩の巨大なる岩石多く、其側に劔の社あり、安徳天皇の劔を祀れるより此名を得たりと云ふ。夏期登賽者多し。之れより西は漸次低下し、土佐に

河流

入りてより高峻なるものなし。

阿蘇火山脈 阿蘇火山脈は伊豫灘を経て興居島に起り、高繩半島を横ぎりて再び海中に没し、又讃岐に現はれ其北部を東進す。此脈中には道後温泉、飯野山、讃岐富士、五劔山あり。

河流 吉野川は四國第一の大川にして、一名四國三郎と云ふ。源を瓶ヶ森山の南麓に發し、東流して阿波、土佐の國境に及び、急に北折して四國山脈を横斷し、大崩壊、小崩壊の嶮を作り、池田附近より再び東流し、徳島附近にて三角洲を作り、紀伊水道に注ぐ。全長六十里、本流は船運の便二十七里に及び、池田は河港をなす。其支流を合する時は航路里程六〇里一四の長さに達す。灌漑域は百五十餘方里にして、上流地方には煙草、下流地方には米、麥、藍の農産物を出す。那賀川は源を劔山の南に發し、東に流れて紀伊水道に注ぐ、其長さ二十八里なり。

渡川 一名四万十川と稱し、土佐第一の大川にして、鷄形山の南に發源し、紆餘曲折して下田灣に注ぐ、全長四十八里の長流にして、下流は舟運の便よく開け、舟筏里程三一二を有す。其他仁淀川(二六)、物部川(二五)あり。斯く東南兩面は、其の地

勢上比較的長流存するも、北、西兩面には殆どなく、肱川最も大をなす。

祖谷山村 は東西の二村に分れ、吉野川の支流なる祖谷川、松尾川の上流深山幽谷の間に僻在し、高度二千四百尺に及ぶ。廣袤東西十三里南北七里あり、此間交通頗る不便を極め、殊に松尾川溪間は兩岸懸崖峭立し、橋梁架す可くもなく、壘を編みて釣橋を設くるもの十三ヶ所あり、最も大なるを善徳橋と稱し、長さ三十三間幅四尺高さ三十間あり、渡る者をして心膽を寒からしむといふ。斯くて此村は文化に遠ざかり、風俗言語皆な中世の遺風を存す、住民は平氏の末孫と稱し、赤旗二旗を藏する舊家ありといふ。

海岸線は長くして、大小の港灣に富む、殊に瀬戸内海方面に於て、東には讃岐半島西に高繩半島突出して、其間に備後灘、燧灘を擁し、海上に在りては小豆嶋、鹽飽諸島、藝海峽諸島、安藝灘諸島散在、碁布して、高松、多度津、今治、高濱の良港灣を作ると共に、風景の美をなす。伊豫灘は概して單調にして、長汀をなすも、西に佐田岬長く豊豫海峽に挺出する事二十六哩、豊後の地藏岬を距る事僅かに六哩なり。此より南は出入瀬多なるも良港稀にして、八幡濱、宇和島、宿毛を以て尤となす。太平洋面にあ

海岸

農業

りては西、蹉陀岬と東、室戸崎との間に陥落に因りてなれる土佐灣あるも、僅かに浦戸灣の良港あるのみ。東部海岸に於ては出入少なく、淡路島との間に有名なる鳴門海峽あり。

氣候 本州中國地方と異なり、南部は四國山脈によりて堺せられ、黒潮の影響を蒙る事多く従つて高温多濕なり、之に反し、瀬戸内海方面は雨量極めて少し、されば植物の如きも南部に於ては熱帶的の樟樹榕樹を産す。

産業 本地方は比較的平野尠なくして、山岳に富むも、温度の高さと湿度の多きとに依り、土地の開拓盛んに行はれ、殊に内海斜面には山地もよく利用せられ、耕地多し。産物の重なるものを擧ぐれば、煙草、藍、甘蔗、楮、三椶にして、高知附近に於ては、米の收穫年二回に及ぶ處あり。米、麥、煙草の年産額次の如し。

米

麥

葉煙草

徳島縣	三七六、五六七石	五三四、九四五石	九五三、二二四貫
香川縣	八〇五、六〇一石	八三二、二六一石	六九、八八八貫
愛媛縣	九一二、七五一石	六四五、〇二二石	七八、〇三五貫

高知縣 四九四、七二七石 一四五、六二九石 一五、五五四貫

藍は徳島縣の特産物にして殊に脇町を其中心とす。其聲價高かりしも、近時洋藍輸入せらるゝに至りて昔日の儼なく藍作地は桑園米田に變せしもの少からざりき。然るに今次の大戦起るや、洋藍輸入の途絶えしより再び活氣を呈するに至り、今や年産額百萬圓内外となれり。楮三椗は仁淀川、肱川流域に多く栽培せらる。

林業 氣候の温暖と降雨多量とに因り、高知縣の如きは杉、檜の良材を出し、樟樹、柑橘類よく生育す。其年産額四四八萬圓に及び、内用材五五萬圓、薪炭材九二萬圓、其他木炭一五七萬圓に及ぶ。他の各縣に於ても年産額尠からず。今森林伐採價額を上ぐれば次の如し。

高知縣 一、三八九、〇四五圓

愛媛縣 一、二三五、一九二圓

香川縣 三一一、一〇八圓

徳島縣 八二七、二五三圓

水産業 本地方瀬戸内海方面は、山陽沿岸と共に降雨少なく、海水は鹽分に富み

林業

水産業

潮汐干満の差多きを以て製鹽業に最も適し、坂出、撫養及び波止濱は各其中心地をなす。殊に坂出の産額は全國一にして山口縣三田尻、兵庫縣赤穂、廣島縣松永附近は之れに次ぐ。

香川縣 三二九、一〇二、七二六斤

徳島縣 八七、三七三、八五六斤

全國 一、〇一二、〇一九、七八七斤

齋田鹽 齋田は撫養町の一部にして、舊藩主蜂須賀氏が播州龍野より移封の際、領民の兵亂後の困憊に究せしを見て、濟生利民のため、慶長四年斯業を撫養に傳へ鹽田を開きたり。元財田と稱せしが今改めて齋田とす。

漁業 土佐近海は暖流黒潮の流るゝを以て、鯉、鱒、鮪の漁獲多く、土佐節の名夙に高し。又沖島附近は紅珊瑚の採收行はれ、室戸岬沖に於ては捕鯨盛なり。各縣別の水産物漁獲製造高を擧ぐれば次の如し。

徳島縣 漁獲物 一、六四六、五九〇圓 製造物 四三九、七二九圓

漁業

鑛業

香川縣	一、五六六、九六一圓	四四〇、二七三圓
愛媛縣	三、一三八、四〇四圓	一、七〇〇、〇〇五圓
高知縣	三、四六五、九九九圓	一、四四〇、四一七圓
鑿節製造高		
高知縣	五七三、二〇〇圓	
愛媛縣	五三三、二六〇圓	

高知縣の鑿節製造高は全國第五位にあり、其他漁獲物の主なるものは鱈、鯖、鱈、鱈、鱈等なり。

鑛業は愛媛縣に最も盛にして、別子に銅山あり、其鑛石は新居島より北方海上の四阪島に運ばれ、此處に於て製煉せらる。

別子銅山 一六、八七七、一七五、冬(全國第五位)
佐島 一、七二三、四三六、冬

此の他銅産地は高知縣白瀧、徳島縣東山あり。愛媛縣市の川には安質母尼の産額日本一にして、世界に其名高かりしも今は全く衰へたり。

工業

四阪島製煉所、新居濱より九湮半の海上にあり、美濃島、家の島、鼠島、明神島を併せ稱す、全部住友家の所有なり、戸數千百、人口約五千五百、製煉所は主として家島にあり、機械製造、修理所、事務所、小學校、其他住宅は美濃島に在り。

工業 最近工業熱の勃興に依り漸次大規模の工業も起るに至り。綿糸、綿布の紡織盛となり、徳島、高松、今治、松山の附近に其工場を見るに至れり。即ち阿波縮、ネ、伊豫縮、綿、ネ等之れなり。又本地方には和紙多く産し、愛媛、高知の兩縣を以て最多とす。麥稈、眞田、砂糖、醬油、燐寸は香川縣に、木蠟は愛媛縣に産す。和紙の産額

高知縣	七、一三三、七〇一圓
愛媛縣	三、六四四、六〇五圓
香川縣	一、三六四、四〇六圓
全國	三六、二八三、五五二圓

即ち高知縣は本邦第一にして、愛媛縣第二位にあり。木蠟は愛媛縣に於ける産額次の如し。